

基本計画書

基本計画											
事項		記入欄							備考		
計画の区分		学部の学科の設置									
フリガナ設置者		ガッコウホリノ アイナ イナキ 学校法人 藍野大学									
フリガナ大学の名称		アイナ イナキ 藍野大学									
大学本部の位置		大阪府茨木市東太田4丁目5番4号									
大学の目的		教育基本法及び学校教育法の精神に則り、学校法人藍野学院創立の精神に基づく人間教育を行い、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的		心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関する専門知識と技能、さらに地域コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることで、様々な健康問題に柔軟に対応し、対象となる個々人のみならず地域コミュニティにおける健康増進に寄与できる人材の育成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	医療保健学部 健康科学科 計	年	人	年次人	人	学士 (健康科学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	年 月 第 年次	大阪府茨木市東太田4丁目5番4号		
		4	30	-	120			令和7年4月 第1年次			
		4	30	-	120						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		看護学部 看護学科 (115) (令和6年5月届出予定) (3年次編入学定員) (2) (令和6年5月届出予定) 医療保健学部 看護学科 (廃止) (△115) (3年次編入学定員) (△2) ※令和7年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止) 理学療法学科〔定員減〕 (△20) (令和7年4月) 臨床工学科〔定員減〕 (△10) (令和7年4月) 臨床工学専攻科 (10) (令和6年5月届出予定)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計						
	医療保健学部 健康科学科	95科目		25科目		10科目		130科目		124単位	
学部等の名称				基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
				教授	准教授	講師	助教	計			
新設	医療保健学部 健康科学科			人	人	人	人	人	人	人	人
				6 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	8 (6)	0 (0)	88 (88)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの			6 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	8 (6)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a～b)			6 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	8 (6)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a～d)			6 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	8 (6)			
	看護学部 看護学科			人	人	人	人	人	人	人	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 10人 令和6年5月届出予定
				15 (5)	0 (0)	7 (3)	6 (3)	28 (11)	9 (2)	83 (83)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの			15 (5)	0 (0)	7 (3)	6 (3)	28 (11)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)			15 (5)	0 (0)	7 (3)	6 (3)	28 (11)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計 (a～d)			15 (5)	0 (0)	7 (3)	6 (3)	28 (11)				
計			21 (9)	0 (0)	7 (3)	8 (5)	36 (17)	9 (2)	- (-)		

設

校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		藍野大学短期 大学部（必要 面積4,400㎡） と共用 借用面積： 6,386.07㎡ 借用期間： 20年		
	校 舎 敷 地		24,753.76㎡		12,693.73㎡		3,958.00㎡		41,405.49㎡				
	そ の 他		0㎡		0㎡		0㎡		0㎡				
	合 計		24,753.76㎡		12,693.73㎡		3,958.00㎡		41,405.49㎡				
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
			29,702.54㎡ (29,702.54㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		29,702.54㎡ (29,702.54㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		23室		教 員 研 究 室		78室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点		機械・器具 点	標本 点	学科単位での 特定不能 なため、大 学全体の数
	医療保健学部 健康科学科		80,495〔4,000〕 (74,255〔3,403〕)		100〔10〕 (38〔0〕)		1,350〔153〕 (1,305〔146〕)		4〔2〕 (2〔1〕)		9,305 (9,133)	70 (70)	
	計		80,495〔4,000〕 (74,255〔3,403〕)		100〔10〕 (38〔0〕)		1,350〔153〕 (1,2305〔146〕)		4〔2〕 (2〔1〕)		9,305 (9,133)	70 (70)	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			大学全体	
			0㎡			0㎡			583.21㎡				
経費 の見 積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には 電子ジャー ナル、デー タベース、 その他の経 費（運用コ ストを含 む。）を含 む。大学全 体。			
		教員1人当り研究費等		240千円	240千円	240千円	240千円	― 千円	― 千円				
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	― 千円	― 千円				
		図 書 購 入 費	17,585千円	17,444千円	15,610千円	15,610千円	15,610千円	― 千円	― 千円				
	設 備 購 入 費	0千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	― 千円	― 千円					
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
				1,500千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	― 千円	― 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金、雑収入等										
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		藍野大学										
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地			
	医療保健学部		年	人	年次 人	人		倍		大阪府茨木市東太田 4丁目5番4号			
	看護学科		4	295	3年次 2	1,184		1.03					
	理学療法学科		4	115	3年次 2	464	学士 (看護学)	1.07	平成16年				
	作業療法学科		4	100	－	400	学士 (理学療法学)	1.10	平成16年				
	臨床工学科		4	40	－	160	学士 (作業療法学)	0.91	平成16年				
	看護学研究科		4	40	－	160	学士 (臨床工学)	0.86	平成22年				
	看護学専攻		2	6	－	12	修士 (看護学)	1.11	平成27年				
	健康科学研究科												
	健康科学専攻		2	6	－	6	修士 (健康科学)	1.00	令和6年				
	大 学 等 の 名 称		びわこリハビリテーション専門職大学										
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地			
	リハビリテーション学部		年	人	年次 人	人		倍		滋賀県東近江市北阪 町967			
理学療法学科		4	120	－	480	理学療法学士 (専門職)	0.80						
作業療法学科		4	70	－	310	作業療法学士 (専門職)	0.92	令和2年					
言語聴覚療法学科		4	30	－	150	言語聴覚療法 学士(専門職)	0.59	令和2年					
言語聴覚療法学科		4	20	－	20		0.35	令和6年					
大 学 等 の 名 称		藍野大学短期大学部											
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地				
第一看護学科		年	人	年次 人	人		倍		大阪府茨木市太田3 丁目9番25号 大阪府富田林市青葉 丘11-1				
第二看護学科		2	100	－	200	短期大学士 (看護学)	1.25	平成16年					
		3	80	－	240	短期大学士 (看護学)	0.87	平成19年					
附属施設の概要			名称：藍野大学中央研究施設 目的：再生医療及びそれに関連する医療保健の研究 所在地：大阪府茨木市東太田4丁目5番11号 設置年月：平成19年2月 規模等：土地2,517.84㎡ 建物3,110.05㎡のうち279.46㎡										

学校法人藍野大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
藍野大学				藍野大学				
大学院				大学院				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻	6		12	看護学専攻	6		12	
健康科学研究科				健康科学研究科				
健康科学専攻	6		12	健康科学専攻	6		12	
計	12		24	計	12		24	
医療保健学部		3年次		医療保健学部		3年次		
看護学科	115	2	464	看護学科	0	0	0	令和7年4月学生募集停止(3年次 編入学は令和9年学生募集停止)
理学療法学科	100		400	理学療法学科	80		320	
作業療法学科	40		160	作業療法学科	40		160	
臨床工学科	40		160	臨床工学科	30		120	
計	295	2	1184	健康科学科	30		120	学科の設置(届出)
				看護学部				学部の設置(届出)
				看護学科	115	2	464	
				臨床工学専攻科	10		10	専攻科の設置
				計	305	2	1194	
藍野大学短期大学部				藍野大学短期大学部				
第一看護学科(2年制)	100		200		0		0	令和7年4月学生 募集停止
第二看護学科(3年制)	80		240		0		0	令和7年4月学生 募集停止
				看護学科 2年課程	130		260	学科及び専攻課程の設 置(届出)
				3年課程	60		180	
専攻科 地域看護学専攻	40		40	専攻科 地域看護学専攻	40		40	
計	220		480	計	230		480	
びわこリハビリテーション専門職大学				びわこリハビリテーション専門職大学				
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
理学療法学科	70		280	理学療法学科	70		280	
作業療法学科	30		120	作業療法学科	30		120	
言語聴覚療法学科	20		80	言語聴覚療法学科	20		80	
計	120		480	計	120		480	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行情況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
医療保健学部看護学科(廃止)	学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	看護学部看護学科	27	11	医療保健学部健康科学科	学士(健康科学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療保健学部看護学科	2	1
			医療保健学部健康科学科	2	1				医療保健学部理学療法学科	4	3
			退職	1	0				新規採用	2	2
			計	30	12				計	8	6
医療保健学部理学療法学科	学士(理学療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	医療保健学部理学療法学科	23	5	医療保健学部理学療法学科	学士(理学療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	医療保健学部理学療法学科	23	5
			医療保健学部健康科学科	4	3						
			計	27	8				計	23	5
医療保健学部臨床工学科	学士(臨床工学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療保健学部臨床工学科	7	4	医療保健学部臨床工学科	学士(臨床工学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療保健学部臨床工学科	7	4
			臨床工学専攻科	4	0						
			退職	1	1						
			計	12	5				計	7	4

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
平成16年4月	藍野大学 開学	看護学・理学療法学・作業療法学	設置認可(大学)
平成19年4月	医療保健学部 看護学科 教職課程 課程認定	看護学	課程認定
平成20年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学	学則変更
平成22年4月	医療保健学部 臨床工学科 設置	臨床工学	設置届出(学科)
平成22年4月	医療保健学部 作業療法学科 収容定員の変更	作業療法学	学則変更
平成22年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学	学則変更
平成24年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学	学則変更
平成24年4月	医療保健学部 看護学科収容定員変更	看護学	学則変更
平成25年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学・臨床工学	学則変更
平成26年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学・臨床工学	学則変更
平成27年4月	医療保健学部 看護学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・臨床工学	学則変更
平成28年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学・臨床工学	学則変更
平成30年4月	医療保健学部 看護学科収容定員変更	看護学	学則変更
平成30年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学・臨床工学	学則変更
平成31年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学	学則変更
令和2年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科収容定員変更	看護学・理学療法学	学則変更
令和2年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学・臨床工学	学則変更
令和4年4月	医療保健学部 看護学科カリキュラム変更	看護学	学則変更
令和5年4月	医療保健学部 臨床工学科カリキュラム変更	臨床工学	学則変更
令和6年4月	医療保健学部 看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科カリキュラム変更	看護学・理学療法学・作業療法学・臨床工学	学則変更

教 育 課 程 等 の 概 要																
（医療保健学部健康科学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
基礎科目	哲学入門	1前			1		○								1	オムニバス
	論理学入門	1後			1		○								1	
	人間学	2後			1		○								1	
	心理学	1前			1		○						1			
	宗教学入門	1前			1		○								1	
	死生学入門	2後			1		○								1	
	統合医療論	2後			1		○								1	
	文化人類学	1前			1		○								1	
	共生社会論	1後			1		○			1						
	人権とジェンダー	1後			1		○			1						
	近畿の歴史と文化	1後			1		○								1	
	法学	1前			2		○								1	
	経済学入門	1前			1		○								1	
	マーケティング論	3前			2		○								1	
	簿記入門	3前			1		○								1	
	フィールドワーク入門	1後			1		○								1	
	ボランティア論	1前			1		○								1	
	国際比較福祉論	2後			1		○								1	
	環境と生活	2後			1		○								1	
	発酵学入門	3前			1		○								1	
	数理・データサイエンス・AI入門	1後			1		○								2	
	デジタル・コミュニケーション	2後			2		○			1						共同
	英語Ⅰ	1前		1			○								1	
	英語Ⅱ	1後		1			○								1	
	医療英語Ⅰ	2前			1		○								1	
	医療英語Ⅱ	2後			1		○								1	
	複言語・複文化へのいざないA	1前			1		○								1	
	複言語・複文化へのいざないB	1前			1		○			1						
	複言語・複文化へのいざないC	1前			2		○								3	
	統計学Ⅱ	2後			1		○						1			
	情報科学Ⅱ	1後			1		○								2	
生涯学習系基礎科目	数学基礎Ⅰ	1前			1		○						1			オムニバス
	数学基礎Ⅱ	1後			1		○						1			
	物理学基礎Ⅰ	1前			1		○								1	
	物理学基礎Ⅱ	1後			1		○								1	
	化学基礎	1前			1		○								1	
	生物学入門	1後			1		○								1	
	再生医療入門	2後			1		○			1					2	
	教育原論	1前			2		○								1	
	教育社会学	1後			2		○								1	
	生涯学習論Ⅰ	2前			2		○			1						
生涯学習系科目	生涯学習論Ⅱ	2後			2		○			1						オムニバス
	生涯学習支援論Ⅰ	3前			2			○		1						
	生涯学習支援論Ⅱ	3後			2			○		1						
	社会教育経営論Ⅰ	3前			2		○			1						
	社会教育経営論Ⅱ	3後			2			○		1						
	社会教育演習	3後			2			○		1						

	初年次教育科目	学びの基盤	1前	○	2		○					1		2	オムニバス・共同（一部）
		健康科学	1前		1		○			1				2	オムニバス
		コミュニケーション論	1後		1		○							1	
	その他	統計学Ⅰ	2前		1		○					1		2	共同
		情報科学Ⅰ	1前		2		○							1	
		体育実習	1前		1			○						3	共同
		国際医療研修	1前		1				○	1					
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目	1前から4前まで		1 または 2		○								
		小計（55科目）	－	－	8	61	0	－		14	0	0	6	0	48
専門基礎科目	保健医療福祉科目	解剖生理学Ⅰ	1前	○	2		○			1					オムニバス
		解剖生理学Ⅱ	1後	○	2		○			1					
		機能神経解剖学	2後		2		○							1	
		運動生理学	2前	○	1		○							2	
		スポーツ生理学	2後		1		○							1	
		基礎運動学	2前	○	2		○							1	
		基礎運動学実習	2後		1			○						1	
		バイオメカニクス	2前		1				○					1	
		栄養薬理学	2後	○	1		○			1					
		医学概論	1前	○	1		○							1	
		臨床医学概論	2前	○	2		○							1	
		内科学Ⅰ	2前		1									1	
		内科学Ⅱ	2後		1									1	
		神経内科学Ⅰ	2前		1		○							1	
		神経内科学Ⅱ	2後		1									1	
		整形外科Ⅰ	2前		1									1	
		整形外科Ⅱ	2後		1									1	
		精神医学	2前		1		○							1	
		老年医学	2後		1		○							1	
		小児科学	2後		1		○							1	
		救命救急学	1後	○	1		○							2	共同
		公衆衛生学	1後	○	1		○							1	
		医療倫理学概論	2前		1									1	
		医療制度論	1前	○	2		○			1					
		社会福祉論	1後		1		○							1	
		社会保障論	2後	○	1		○			1					
		保健医療福祉行政論Ⅰ	3前	○	2		○			1					
		保健医療福祉行政論Ⅱ	3後		2		○			1					
		社会調査法	2後		2		○					1			
		社会健康データ解析演習	3後		2			○				1			
		シン・メディカルⅠ	1前	○	0.5		○			1		1		11	共同
		シン・メディカルⅡ	2後	○	0.5		○			1		1		10	共同
		接患・接遇法	2前		1		○							5	共同
		ホースセラピー	2前		1		○							5	共同
		小計（34科目）	－	－	22	21	0	－		9	0	0	4	0	54
		心身健康科学概論	1前	○	2		○			1				1	オムニバス・共同（一部）
		リハビリテーション医学	1後	○	1		○							2	オムニバス
		スポーツ外傷・障害論	2前	○	2		○							1	
		生活習慣病と身体活動	2前	○	2		○							1	
		健康増進論	3後	○	1		○							1	
		体力測定論Ⅰ	1前	○	2		○			1					
		体力測定論Ⅱ	1後		2			○						1	
		運動処方論Ⅰ	1前	○	2			○		1					
		運動処方論Ⅱ	1後		2			○						1	
		パーソナルトレーナー論	2後	○	2		○							1	
		パーソナルトレーナー実習	3前	○	1				○	1				3	オムニバス・共同（一部）
		レジスタンストレーニング論Ⅰ	2前		2			○						1	
		レジスタンストレーニング論Ⅱ	2後		2			○						1	
		コンディショニングトレーニング論Ⅰ	3前		2		○							1	
		コンディショニングトレーニング論Ⅱ	3後		2		○							1	

専門科目	健康科学科目	スポーツレクリエーション論	2後		2			○						1	オムニバス・共同（一部）
		種目別スポーツ特論	3後		1			○						1	
		障がい者スポーツ特論	1通		1				○					2	
		スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	3前	○	2			○						1	
		スポーツマネジメント論	3前		2			○						1	
		コーチング論	3後		2			○						1	
		スポーツ経営学	4前		1			○						1	
		スポーツ心理学	3後		2			○						1	
		医療心理学	1前	○	1			○				1			
		臨床心理学	1後	○	1			○				1			
		社会心理学	2前		2			○						1	
		教育心理学	1後		2			○				1		1	
		発達臨床心理学	2後		2			○						1	
		障がい者・障がい児心理学	3前		2									1	
		メンタルヘルス論	3後		2			○						1	
		心理アセスメント	2前	○	2			○				1			
		ヘルスコミュニケーション	1前		1				○					1	
		身体言語学	1後		1				○					1	
		教育相談	2後		2			○				1			
		特別支援教育特論	4後		1			○						1	
		就労支援論	4後		1				○					1	
		健康科学と認知症演習	3後		1				○					1	
		保育学入門	2後		2			○						2	
	住環境コーディネーター論	3後		2			○						1		
	実習科目	健康科学実習Ⅰ	1後	○	2				○	6			2		共同
		健康科学実習Ⅱ	2前	○	2				○	6			2		共同
		健康科学実習Ⅲ	2後	○	4				○	6			2		共同
健康科学実習Ⅳ		3前	○	4				○	6			2		共同	
運動指導実践		3後		4				○	1						
健康科学研究	アクションリサーチⅠ	2前	○	1				○	1					共同 共同	
	アクションリサーチⅡ	2前	○	1				○	1						
	健康科学研究法Ⅰ	3前	○	2				○	1						
	健康科学研究法Ⅱ	3後	○	2				○	6			2			
	健康科学課題研究	4通	○	4				○	6			2			
小計（49科目）			—	—	43	48	0	—	44	0	0	17	0	38	
合計（132科目）			—	—	73	130	0	—	67	0	0	27	0	140	
学位又は称号		学士（健康科学）				学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）						
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等						
基礎科目 必修科目 8単位 選択科目 16単位以上 ・教養教育科目・初年次教育科目・その他から5単位以上 ・語学教育科目から1単位以上 ・残り10単位以上は、教養教育・語学教育・理系基礎・生涯学習系・初年次教育・その他のいずれから選択してもよい。 専門基礎科目 必修科目 22単位 専門科目 必修科目 43単位 専門基礎科目と専門科目の選択科目から35単位以上 合計 124単位以上 （履修科目の登録上限：50単位（年間））									1 学年の学期区分			2期			
									1 学期の授業期間			15週			
									1 時限の授業の標準時間			90分			

授業科目の概要					
(医療保健学部健康科学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	教養教育科目	哲学入門		古代ギリシア以来、哲学はよく生きることを求めてきた。これは、人間はいかに生きるべきかという問いであり、科学技術の華々しい成果と比べると目立たないものであるが、人間にとって避けることのできない問いである。16世紀になると西洋では科学技術が発達し、人間、社会、歴史などに関する学問に影響を与えていったが、授業では、近代の哲学者であるカントと20世紀の哲学者アレントを選んで、それぞれの生涯におけるエピソードも交えて、その哲学の基本になっている考えについて分かりやすく講義する。そして、二人の哲学の今日から見た意義について考える。	
基礎科目	教養教育科目	論理学入門		自分で考えたことを矛盾も飛躍もせずに分かりやすく表現する。そこに論理が働いている。また、他人の文章を読んで議論の方向や展開を正確に理解し評価する。そこでも論理が働いている。授業では、「論理的」であるとは、文章や主張の内容が一貫していて、有機的に組み立てられていることであるとして、日本語使用の実際的な場面での論理について考える。文章問題を実際に解いていくことで、学生が文章と文章の関係において働いている論理に気づき、論理的であることの大切さを認識し、論理力を自覚的に鍛えていくきっかけとなる授業とする。	
基礎科目	教養教育科目	人間学		人間関係とは、個人と個人の間の相互作用を基盤に形成される、持続的で心理的な結びつきのことを意味する「対人関係」とほぼ同義であり、加えて「個人と集団の関係」の意も含む広義の概念と定義されている。本授業では、対人関係をはじめ、対人認知、対人コミュニケーション、及び集団間行動等の基礎知識習得を目指す。	
基礎科目	教養教育科目	心理学		本授業では、科学としての心理学とはどのような学問かを学ぶ。人間の心や行動を理解するため、主要領域である知覚・認知、生涯発達、動機づけ、学習・条件付け、感情。社会心理・集団心理の概要を学び、心理学の専門用語の知識とともに、心理学の基礎や考え方を学ぶ。	
基礎科目	教養教育科目	宗教学入門		宗教というと特別なことのように思われがちだが、「宗教性」は人間性の一般的な要素であって、現代社会でも生活の中に様々な形で表れている。また、世界的には現在も大多数の人々が宗教を自覚的に持っており、国際化の進む社会で宗教に無知ではいられない。自分の内に潜む宗教性とうまく付き合い、宗教を持つ他者と円滑なコミュニケーションを取れるようになるため、この授業を活かしてもらいたい。授業では、前半で宗教一般について、宗教とはどのようなものなのかを確認していく。後半は世界の代表的な宗教について、それぞれの基本的な考え方について学ぶ。最後に、医療場面に宗教がどのように関わってくるのかを概観する。宗教を理解することは、社会人としても医療人としても有益なことである。	
基礎科目	教養教育科目	死生学入門		本授業では、死と生の心理学的側面に焦点を当て、死に対する心の準備や喪失の経験、臨床的なアプローチを探求する。死因の心理社会的側面、悲嘆のプロセス、ターミナルケアにおける心理的支援の方法など、精神的側面に関する知識を深めていく。授業内容は、死の心理学、喪失と儀式、臨床的なアプローチ、悲嘆の心理学、死後の遺族の心理的側面などを取り上げ、心理学的な理論や実践的なスキルを通じて、患者と家族に寄り添い、死と向き合う過程で生じる精神的なニーズに適切に応える能力を身につけること、また将来の医療・健康科学の実践において、総合的かつ人間性豊かなケアを提供できるようになることをめざす。	
基礎科目	教養教育科目	統合医療論		本授業では、東洋医学、心身医学などの伝統的な治療法や、従来の医学や音楽療法などの新しい治療法やケアとの統合に関する理論と実践につて、患者の個別ニーズに対応できる包括的な治療法を提供するための知識や技術として学習する。伝統的な療法の科学的根拠、臨床応用、健康促進への適用、患者とのコミュニケーションスキルの向上について学び、現代の医療環境で統合医療のあり方、患者の健康と幸福に向けた総合的なアプローチについて理解を深めることをめざす。	
基礎科目	教養教育科目	文化人類学		文化人類学は、人間の多様な生の営みを、フィールドワーク（現地調査）を通して研究する学問である。一見不可解な〈他者〉の営みを、参与観察を通じて「内側から知る」こと。それはこれまでの常識や当たり前を疑い、自分自身を変化させることにもつながってゆくだろう。この講義では、こうした文化人類学の知見と方法を、様々な地域や領域における具体的な事例とともに学びながら、（おそらく医療や看護の現場においても重要となる）文化人類学的な思考と実践のためのセンスを磨くことをめざす。	

基礎科目	教養教育科目	共生社会論		本授業では、障害者、高齢者、性別や性的指向によって社会的に排除される人々を含む多様な人々との共生に必要な理論を学ぶ。障がい者権利、バリアフリー社会、多文化共生、LGBTQ+の権利、貧困削減などのテーマを取り上げ、社会的包摂を促進するための政策、法律、介入方法について学ぶ。そして、多様性を尊重し、共生を促進する能力を養い、将来の医療や健康関連の職業において包括的かつ公正なアプローチを提供する準備することをめざす。	
基礎科目	教養教育科目	人権とジェンダー		性別、性的指向、ジェンダーアイデンティティに関する理論、歴史、文化的背景を研究し、偏見、差別、暴力といった問題について議論する。授業では、性的マイノリティ、ジェンダーマイノリティ、障がい者、マイノリティ集団などへの差別と格差に対処するための法的枠組み、政策、介入方法を学ぶ。フェミニズム、セクシュアリティの多様性、リプロダクティブ・ライツ、セクシャル・ハラスメント、家庭内暴力などの多岐にわたるトピックをカバーし、ジェンダーに関する偏見に挑戦し、健康ケアや医療におけるジェンダーセンシティブなアプローチを理解し、包括的で公正な医療提供のための倫理的スキルと意識の育成をめざす。	
基礎科目	教養教育科目	近畿の歴史と文化		歴史を考えることは、人間やその営みをより深く理解することにつながる。藍野大学の所在する藍野の地域、さらには北摂、大阪は、日本の歴史の大きな動きに直接的に関わる地域である。本授業では、このような身近な地域の歴史的トピックを取り上げて学習する。そして、このような身近な地域の問題を、日本史全体の流れ、世界史の流れと結びつけて、歴史をグローバルに考える姿勢を修得することを目指す。なお、医療史や感染史に関わる点に言及する場合もある。	
基礎科目	教養教育科目	法学		医療、教育、福祉をはじめ、日々の生活は、法に従って規律され、実行され、問題が処理されている。こうした法現象を、医療、労働、消費生活など日常の営みを人権保障という観点から、分析、理解し、社会における法制度の役割を理解できるよう講義をすすめていく。講学の題材として、近年話題になった法律的問題も取り上げ、それらの法律問題を、憲法の基本原理と代表的判例を参照しながら、論理的に理解できるようになることを期待している。	
基礎科目	教養教育科目	経済学入門		経済学（Economics）は、オイコノミヤというギリシャ語が語源で、家の管理や家計を意味する。そこから派生して、経済学は節約や効率の追求を目的としている。具体的には地球上の資源には限りがある。例えば、石油は好きなだけ無尽蔵に使用することができない。また仮に自由に使えたとしても、エネルギーとして利用すれば、二酸化炭素が発生することで、環境問題がますます悪化することになる。石油に限らず、地球上にある稀少な資源をいかに効率的に利用するか、これこそが経済学が社会にもとめられている役割なのである。この講義では、このような考え方を理解することで、医療従事者に限らず、社会人にとって必要となる経済学的思考を習得することを目的としている。	
基礎科目	教養教育科目	マーケティング論		市場分析、顧客ニーズの把握、広告戦略、ブランド構築、デジタルマーケティング、顧客関係管理（CRM）など、医療・健康分野における特有の課題に焦点を当てる。授業では、倫理的な視点から健康サービスの提供を最適化し、患者満足度を向上させる戦略的アプローチについて学ぶ。また、現実の業界のケース分析、市場調査プロジェクト、競合分析など実践的な手法も通じて、効果的なマーケティングキャンペーンなどを設計し、健康関連ビジネスの持続的な成功を支えるスキルを習得することをめざす。また、医療倫理や法的制約を遵守しながら、社会的な健康ニーズに応える戦略を展開する能力も育成する。	
基礎科目	教養教育科目	簿記入門		本授業では、基本的な会計学の科目で、授業では、会計の基本原則、仕訳帳、元帳、試算表、損益計算書、貸借対照表など、簿記の基本的な概念と手法に焦点を当てる。取引の記録方法、財務諸表の作成、経済活動の分析と判断の基礎を学ぶ。実際の医療機関や健康関連組織の会計実務に必要なスキルも網羅し、予算作成、経費管理、報告書作成といった健康ケアの財務管理に関する知識を深める。実務演習や実例の解析を通じて、実際の業務に生かせる簿記スキルを身につけ、将来の医療・健康業界でのキャリアアップの基盤となることをめざす。	
基礎科目	教養教育科目	フィールドワーク入門		本授業では、フィールドワークという手法を学ぶことで、本学部のディプロマ・ポリシーの「応用・実践能力」を養成する。現在、知りたいことはネットで手早く調べることができる。しかし、現実世界の複雑さを知り、理解を深めるために、現場へ赴き、自分の目と耳で確かめるフィールドワークが有効である。しかし、ただ現場に行くだけではフィールドワークにはならない。本授業ではまず、フィールドワークという実践のはじまりと展開を学ぶ。続いて、フィールドワークがもたらす功罪について考える。続いて、聞き取りなどの技法を学ぶ。後半では、実際のフィールドワークの実践例から、フィールドワークへの理解を深める。最後にフィールドワークについて総合的にまとめる。	
基礎科目	教養教育科目	ボランティア論		日本では「ボランティア」の意味をさまざまに誤解されていることもあるが、そもそも語源はラテン語の「ウオロ (Volō)」で、「喜んで、進んで～する」「志す」を意味する。授業では、さまざまな領域で、語源どおり行われているボランティア活動の学びを通して、1人の市民として、また将来の医療専門職として、「ボランティア」に自分がどう関わるかについて志向する。	

基礎科目	教養教育科目	国際比較福祉論		グローバリゼーション（DPIV）の進展により、これまでの国民国家を前提とした社会保障制度, 社会福祉体系の方向は大きく揺らいでいる。本講義では、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ、北欧、アジアなどにおける社会福祉政策とソーシャルワークの現状と課題について検討する。そして諸外国の事例と日本の社会福祉の比較検討からグローバリゼーションの方向を探究する。	
基礎科目	教養教育科目	環境と生活		人間集団とその環境との相互作用について、生態学的視点や考え方を習得する。取り上げるトピックは食生活、疾病、人口、環境問題である。環境問題の歴史を概観し、複雑化した現在の環境問題を解決するための意思決定をする環境リスク学の入門を行う。最後に人類の将来とその環境として望まれる、持続可能な共生社会に係る基礎知識や政策について概説する。	
基礎科目	教養教育科目	発酵学入門		発酵は、微生物を利用して人間に有用な物質を生産する現象を意味する。発酵に関与する微生物と、発酵過程の詳細について理解する。発酵の歴史から、関連する食品、医薬品、工業製品、バイオレメディエーションへの応用について学ぶ。各種発酵実験を行うことで、微生物による発酵過程、その制御方法について理解を深める。	
基礎科目	教養教育科目	数理・データサイエンス・AI入門		AIの基本に触れる初心者向け授業です。AIと機械学習の基本原則に触れ、健康や日常生活におけるAIの活用例を学ぶ。プログラムの知識は不要で、機械学習の基本的な考え方や、病気の予測、自動化されたタスク、推薦システムなどの例を通じて、AIの可能性について学習し、新しいITについても理解を深める。そして、誰もが身近なデータを理解し、未来の技術を探究する基盤を築くことをめざす。 （オムニバス方式／全8回） （10 五十嵐 朗／4回） データサイエンス入門、統計学の基礎知識、社会におけるデータ活用、医療・健康増進分野とデータ活用 （73 林 拓世／4回） AIの基礎知識、AIの活用、AI技術の動向、データの倫理と知的財産	オムニバス方式
基礎科目	教養教育科目	デジタル・コミュニケーション		デジタルメディアを活用した効果的なコミュニケーション戦略を学ぶ。医療情報の適切な伝達、患者との効果的な対話、健康情報の正確な伝播など、医療・健康分野におけるデジタルコミュニケーションの重要性を探究する。授業では、ソーシャルメディア活用、電子メールコミュニケーション、ビデオコンテンツ制作など、現代のデジタルツールを用いた戦略的なコミュニケーション手法を演習を通して学習する。さらに、医療倫理やプライバシーに配慮したコミュニケーションの原則、法的制約に関する知識も習得することをめざす。実践的なプロジェクトやケーススタディを通じて、適切なデジタルコミュニケーションスキルを習得し、患者との信頼関係を築く方法について実践的に学ぶ。	
基礎科目	語学教育科目	英語Ⅰ		グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶ。日常そのことを考えたり、感じたりすることが極めて少ない。大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを具体的に提示されたテキストを利用し、多様性をどう理解し今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。1回生前期では社会・文化・学術交流の基礎的な英語力、知識、異文化理解力をつける。	
基礎科目	語学教育科目	英語Ⅱ		英語I(前期)に引き続き、グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶ。グローバリズムをさらに推し進めて具体的な事例を考える機会を持つ。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解・議論を促し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら英語力向上と多様な思考力が持てるようにする。1回生後期では社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をトータルに生かした実践力をつける。	
基礎科目	語学教育科目	医療英語Ⅰ		医療の現場で必要とされる医療英語をテキストの読解やビデオを通して学ぶ。医療英語における体の部位、内臓器官名、診療名、病気や症状等の語彙数アップさせるのはもちろんのことだが、文章もしっかり読解できる基礎的な英語能力を養う。また同時に読解やビデオを通してグローバル教育の核となる、医療の現場での多文化共生・共存・共栄はどう捉えていかねばならないのか。多文化共生・共存・共栄の相違・類似を踏まえつつ学習し実際の臨床の場で、医療人としての役割について多くの話し合いの場をつくり活発に進める。	
基礎科目	語学教育科目	医療英語Ⅱ		現場で必要とされる医療英語をテキストの読解やビデオを通して学ぶ。医療英語Iの継続学習の医療英語における体の部位、内臓器官名、診療名、病気や症状等の語彙数アップ。また文章もしっかり読解できる英語能力を養う。さらに補助資料を使い、莫大に増えつつある訪日外国人の医療現場におけるトラブルを最小限にとどめる医療人の役割は確実に増えてきているため、多文化理解の様々なケースを学び、バーチャルリアリティを体験し考えさせる機会を多く持つ。	

基礎科目	語学教育科目	複言語・複文化へのいざないA		フランス語の口頭表現練習を行いながら基礎的文法を習得する。この授業では基礎的な表現とのための文法を習得し、日常生活に置ける簡単なコミュニケーションができるようにする。 本授業では語学学習にともなう文化理解の側面に焦点を当てながら、フランス語圏の文化にも触れる。語学学習を通して多文化への関心を持ち、自らの持つ文化の相対化を行うための素地となる教養を身につけること、異文化への開いたマインド、これら多文化共生社会の市民として必要な態度の習得を目指す。	
基礎科目	語学教育科目	複言語・複文化へのいざないB		ドイツ語（または他ヨーロッパ言語）の口頭表現練習を行いながら基礎的文法を習得する。この授業では基礎的な表現とのための文法を習得し、日常生活に置ける簡単なコミュニケーションができるようにする。 本授業では語学学習にともなう文化理解の側面に焦点を当てながら、ドイツ語圏の文化にも触れる。語学学習を通して多文化への関心を持ち、自らの持つ文化の相対化を行うための素地となる教養を身につけること、異文化への開いたマインド、これら多文化共生社会の市民として必要な態度の習得を目指す。	
基礎科目	語学教育科目	複言語・複文化へのいざないC		現在の日本は多言語多文化社会であり、さまざまな言語を母語とする人々がたくさん住んでいる。日本に住む外国にルーツを持つ人々、外国からの旅行者はほとんどが英語以外の言葉を母語にもつ人々である。医療現場の最前線に立つには、多言語での対応が求められるようになる事が予想される。本授業ではこれまでの英語の授業とは異なる方法で3つの言語を学ぶ。頭と身体を使って、話すことに重点をおいたトレーニングにより自己紹介を含む簡単な会話ができるようになることを目指す。	共同
基礎科目	理系基礎科目	統計学Ⅱ		自身の問題意識を統計学的手法を用いて探究するために基盤となる資質・能力を身につけることを目標とするものである。 統計学は、量的なデータを用いて研究する際、非常に強力なツールとなる。自分でそのような研究をする上でもそのような先行研究を読み解き検討する上でも、統計学に関するある程度の知識と理解が必要になる。この授業では統計学を量的研究のツールとして位置づける。 量的研究の一連の流れを意識しながら、ある問題を解決するために有用だと考えられる情報を得るためのデータの収集法・解析法に関する統計学の知識やスキルを取り扱う。さらに統計学Ⅰで取り扱った頻度論の基本的な考え方をもとに、発展的な統計解析や、ベイズ統計学という昨今注目されている統計学の基本的な考え方を取り扱う。それにより、自身の問題意識を深め、さらにそれを検討するための方法論を習得し、自身の問題意識に柔軟に適用できるようになることを目指す。	
基礎科目	理系基礎科目	情報科学Ⅱ		表計算ソフトExcelの多様な機能を学び、医療従事者として必要な情報処理技術、特にグラフの作成方法やデータ分析方法を身につける。さらに、Visual Basic for Application (VBA)によるプログラミングの基礎を学び、基礎的なプログラムを作成し、情報処理に活用できるようになることを目指す。	共同
基礎科目	理系基礎科目	数学基礎Ⅰ		数学の学習は、単に与えられた問題を解くものではない。計算の意味と方法を理解し、数学が実際の世界でどのように活用されているのか発見し、応用していく姿勢が求められる。この授業では、計算演習だけでなく、各自で数学の問題と模範解答を作ること（作問）で計算への論理的な理解を深める。さらに、各自の作問をお互いに解きあうグループワークを通じて、数字を用いたコミュニケーションの能力を養う。また、物理学や化学、生物学といった理学の分野における数学の意義を理解し、実際に数学的手法が用いられる事例に触れる。授業内容は高校数学Ⅰ～Ⅲの内容を想定しているが、基礎的な内容から説明するので事前知識は問わない。作問課題やグループワークに積極的に取り組むようにすること。	
基礎科目	理系基礎科目	数学基礎Ⅱ		時によって“変化の数学”と呼ばれる微積分学は、ある変数の変化が別の変数の変化にどう関連しているか、を正確の仕方で記述することに関わる数学の一分野である。人間活動のほとんどすべての場面において、我々は、二種類の変数に出会う。我々が直接に制御できる変数と、そうはできない変数である。幸いにも、我々が直接に制御できない変数も、ある仕方で、直接に制御できる変数に反応していることがしばしばある。 例えば、人間の血流中の抗生物質のレベルは、医師が処方する投薬量とタイミングに反応する。 直接制御できない変数が、直接に制御できる変数にどのように反応するかを数量的に理解することにより、状況の動きを予測し、そして状況を統御できるある種の力を手にすることが期待される。微積分学は、この目的のために用いられる基礎的な数学の道具の一つである。	

基礎科目	理系基礎科目	物理学基礎Ⅰ		聞く、話す、見る、歩く、走るなどの、我々が日常行っている動作は、物理学の基礎的な知識によって説明できる。この講義では、物理学の基礎のうち、音、光、波、物体の運動、材料の変形、気体や液体の流れ、エネルギーと熱に関する事柄をできるだけ人体と関連をつけて述べる。さらに宇宙開発をはじめとする最先端科学技術についても物理学基礎で学ぶ知識の範囲で教える。また、物理学基礎Ⅰの講義を学ぶのに便利な手段となる数学を、講義の進捗に合わせて、基礎的なところから説明する。	
基礎科目	理系基礎科目	物理学基礎Ⅱ		我々の身体の動きは、基礎的な物理学で説明できる。身体の動きは、脳や心臓などと関係しており、脳や心臓の動きは、脳波や心電図などの電気的な信号としてとらえることができる。この授業は、力や運動などの物理学（力学）を身体との関係で述べ、身体の動きが電気的な信号に変わる仕組みを説明する。次いで、電気の基本的な事柄を説明する。医療の場で、体の状態を知るのは、ほとんどが電気的な検査機や測定器であるので、これらの機器との関連で物理学を述べる。最近の医療が入り組んでいる原子や素粒子の微小な世界についても述べる。 検査、診断、治療の分野だけでなく、汚染、被曝などで社会的にも重要な事柄となる放射線についての基礎的な説明も行う。	
基礎科目	理系基礎科目	化学基礎		化学は、物質の構造・性質および物質相互の反応を原子や分子レベルで解明する学問分野であり、最近の生命科学および医薬やバイオテクノロジーを分子レベルで理解する上で基盤となる重要な分野である。本授業では、医学・医療における重要な基礎科学の一つとして、医療従事者に必須な化学の知識と考え方を修得すると共に、今後学ぶ多くの科目の科学的な基盤作りを目標とする。	
基礎科目	理系基礎科目	生物学入門		本授業では、細胞やタンパク質といったミクロな生物学から、動物の体内環境や行動といったマクロな生物学まで、さまざまな生命現象を理解するための生物全般に共通する原理を学ぶ。高等学校で生物学を履修しなかった学生にも理解できるよう、基礎的なレベルから講義を始める。	
基礎科目	理系基礎科目	再生医療入門		最近の再生医療の進歩はめざましいものがある。再生医療は医療全般の基盤的な分野になりつつあることを踏まえて、再生医療全般について概要を示し、基礎的な知識を学ぶことが目標である。再生医療の臨床応用が進むにつれて、臨床の現場でも再生医療によって治療された患者さんに頻繁に遭遇するようになる。これは「人や文化」に関係する側面である。再生医療にも臓器移植と細胞移植の分野がある。それぞれの分野で再生医療の基礎的な概念と知識について講義する。社会的に注目されるために、時事的な話題になることが多いので、その様な事例についても解説する。これは「社会情勢、科学技術」に関係する側面である。 (オムニバス方式／全8回) (21 山田義博／4回) 再生医療総論 1 人体の発生と成長のメカニズム：人体はどのように出来上がるか？ 発生生物学序論、2 再生とは何か、3 幹細胞とは何か、4 幹細胞移植と再生医療 (70 中野法彦／2回) 再生医療の実際 5 体性幹細胞、6 増殖因子の作用 (4 兼清健志／2回) 7 脊髄損傷の再生医療、8 多糖の生物活性	オムニバス方式
基礎科目	生涯学習系科目	教育原論		教育原論は、教育の根本的な理論や原則に焦点を当てた科目で、この授業では、教育の哲学的背景や社会的文脈を探究し、教育の目的や価値観、教育の本質的な意味について理解することをめざす。また、教育思想家や教育哲学の基本的な概念を学びながら、教育の歴史的な変遷や異なる文化圏における教育の比較研究も行う。このような過程を通じて、人間観と教育観の深化を目指し、教育課題の現状を科学的に理解する力を育む。	
基礎科目	生涯学習系科目	教育社会学		教育や子どもに関する教育時事を検討素材として、人間の社会的形成に果たす相互作用としての教育の意味、機能、現状ということについて考える。特に、他者とのコミュニケーション、自我の形成、学校教育の機能、教育観の転換という問題を取り上げて、現代社会における教育の特質を探り、日本の学校現場や現代の子どもたちを取り巻く教育問題について、その社会背景や対応策について考察する。履修学生は、今日の子どもたちがおかれている社会状況を理解するために社会的視野を広げ、教師としての問題解決力を獲得する。	
基礎科目	生涯学習系科目	生涯学習論Ⅰ		個人と社会の関係を理解し、生涯全体での学習の意義を探究する。成人教育、社会参加、職業訓練など、様々な文脈での学習について理解し、学習意欲の変化、教育の影響、ライフコースにおける学びの特性などを通じて、生涯学習の理論と実践を学ぶ。生涯にわたる包括的な視点での学びのプロセスを探究する。	

基礎科目	生涯学習系科目	生涯学習論Ⅱ		学習意欲の保持、ライフイベントに伴う学びの変化、学習プログラムの設計と評価に焦点を当てる。個人の学習ニーズへの対応、教育技術の活用、学習プロセスの最適化に関する理論と実践的スキルについて学習する。また、グループワークを通じて、学習プログラムの設計や生涯にわたる学びの促進に必要な能力を養う。この授業は、現代の学習環境での適切な教育プログラムを構築し、成人期から高齢期までの学びの挑戦に対処するための専門的な知識と技術を理解できるようにする。	
基礎科目	生涯学習系科目	生涯学習支援論Ⅰ		本授業では、個人やコミュニティが生涯にわたり持続可能な学びを享受する方法について理解する。成人教育の理論、学びのモチベーション、学習ニーズの評価などを学び、学習者の多様性に対応した支援戦略について考える。そして人生の様々な段階での学びの機会を促進する方法に焦点を当て、教育的介入の計画と実践を理解する。現代の学習者ニーズに適応するための効果的な支援方法を習得することをめざす。	
基礎科目	生涯学習系科目	生涯学習支援論Ⅱ		本授業では、生涯学習のサポート体系について学ぶ。社会的サービス、教育プログラム、カウンセリングの観点から学習支援の重要性を理解し、特定のニーズに応じた学習プランの開発や、多様な特性に対する支援、参加型学習、ファシリテーション技法、ICTを活用した教育方法など、ケースを題材に、実践的な支援技術を習得することをめざす。	
基礎科目	生涯学習系科目	社会教育経営論Ⅰ		本授業では、社会教育行政と地域活性化、経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、地域人材の育成、学習成果の評価と活用、地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略など、多様な領域と連携しながら学習成果を地域の課題解決や学校協働活動に結びつける知識と技能を習得することを目的とする。また、社会教育士としての役割や期待される活動について理解を深め、実践的なスキルを習得することをめざす。	
基礎科目	生涯学習系科目	社会教育経営論Ⅱ		本授業では、社会教育行政の経営戦略を更に深化し、地域との連携を一層強化する方法を学ぶ。具体的な地域学校協働活動や社会教育のプロジェクトを設計し、実施する技術も学ぶ。学習成果の評価と活用、地域ネットワークの形成、社会教育施設の持続可能な経営戦略などに焦点を当て、実践的な経営スキル、現実の社会教育環境における問題解決力の習得をめざす。	
基礎科目	生涯学習系科目	社会教育演習		本授業では、社会教育の基本理論を理解し、現実の社会教育活動に応用するスキルについて学ぶ。基礎理論に関する的確な説明能力を身につけ、社会教育の実践例を通じて可能性と課題について認識を深め、自らの周囲で行われている社会教育実践について調査し、その成果を文章と口頭で報告できる能力を習得することをめざす。	
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	○	大学で学ぶ意義は何か、そのために身につけるべき知識・能力・態度とはどのようなものかを共に考える。さらに、これから専門職への道を歩むにあたり、自ら方針をたて、それを「自己」「他者」との対話を通して問い直しながら、学びをより豊かなものとする方法を模索する。今後必要な情報収集の方法や自分の考えをまとめる方法についても、実践を通して学ぶ。 (30 細川 彩、53 杉山 芳生、7 竹本 圭佑／2回) (共同) 1. 大学での学び方ガイダンス：授業の受け方、大学生活について、 8. まとめ：論証モデルで論を整理する (53 杉山 芳生／13回) 2. 高校までの学びとの違い1：意見を論じる、評価する、3. 高校までの学びとの違い2：事実やデータに基づく論拠を述べる。4. 情報リテラシー1：情報検索、授業外での学び方、5. 情報リテラシー2：情報の信頼性を確かめる、6. 入学前教育の解説1：情報を正確に読み取る、文章構造を理解する、8. 大学における文章：文章のタイプ、アカデミックな文章と論証、9. 論文を読んでもみる：アウトライン、パラグラフ、情報収集と整理、10. 論文を読んでもみる：引用と剽窃、注の入れ方、図や表の扱い方、11. 論文を読んでもみる：レポートの文体、読点、12. 論文を読んでもみる：各テーマについての解説と情報収集、13. 小レポートを書く：小レポート作成とピアレビュー①、14. 小レポートを書く：修正ポイントの確認と小レポートの修正、15. 小レポートを書く：小レポート作成とピアレビュー②	オムニバス・共同 (一部)

基礎科目	初年次教育科目	健康科学		身体の構造、機能、疾患のメカニズム、健康の社会的影響、公衆衛生の基本、健康行動の心理学的側面など、健康に関連する多岐にわたるトピックスを取り上げる。医療制度、健康政策、感染症、生活習慣病などの知識も提供され、健康に対する包括的な理解を深める。この授業は、学生が将来の医療や健康関連職業で積極的に貢献できるよう、幅広い視野で健康について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (6 後藤 昌弘／3回) 身体健康、心の健康について講義を行う。特に生活習慣病の予防、運動の重要性、健康政策、医療制度などについて、包括的に講義を行う。 (14 佐々木 恵雲／2回) 健康の概念について、医学的、哲学的観点から講義を行う。特に個人に与える影響、社会的な影響も含めて講義を行う。 (19 本多 容子／3回) 身体健康、心の健康について講義を行う。保健分野を中心に、感染症予防、心身の健康維持・改善、健康に生活するための環境改善などについて講義を行う。	オムニバス方式
基礎科目	初年次教育科目	コミュニケーション論		基礎科目として、対人関係、コミュニケーション・人間心理をテーマにして、可能な限り集団討議や実習方式で学ぶ。集団内でのコミュニケーション、自身のコミュニケーションのスタイル、対人関係のあり方を見直し、治療者・患者関係の構築の基礎を学ぶ。	
基礎科目	初年次教育科目	統計学Ⅰ		統計学は、量的なデータを用いて研究する際、非常に強力なツールとなる。自分でそのような研究をする上でもそのような先行研究を読み解き検討する上でも、統計学に関するある程度の知識と理解が必要になる。この授業では統計学を量的研究のツールとして位置づける。量的研究の一連の流れを意識しながら、ある問題を解決するために有用だと考えられる情報を得るためのデータの収集法・解析法に関する統計学の知識やスキルを取り扱う。それにより、統計学の入り口を開け、自身の問題意識を統計学を用いて探究する際に必要な素地を形成することを目指す。	
基礎科目	初年次教育科目	情報科学Ⅰ		医療の情報化が進み、医療従事者にはコンピュータを使いこなすことが求められている。大学におけるレポートの作成や研究発表にもコンピュータは必須である。本講義では、情報処理や情報倫理およびMicrosoft Officeの操作方法を学び、情報および情報機器の正しく安全な活用、Wordによる文書作成、PowerPointによるプレゼンテーション、Excelを使ったデータ処理およびグラフ作成ができるようになることを目標とする。	共同
基礎科目	初年次教育科目	体育実習		人々がより自分らしく生活できる気力、体力を維持する為に、健康を意識し実践する知識、技術を提供する指導力を養成する。また、運動の習慣化により健康を維持することだけでなく、スポーツの楽しさを知り、仲間づくりに役立てられるようなプログラムを展開する為のトレーナビリティを習得する。	
基礎科目	その他	国際医療研修		本授業では、英語によるアクティブ・ラーニングを基盤にコミュニケーション能力を向上させるための、実践的な資質・能力を身につけることを目標とする。約3週間の国際医療研修に参加し、海外の医療現場や医学教育施設を見学することで、グローバルな視点から今後の医療について多様性のある思考力を養うことができる。そのために、英語模擬試験、グリフィス大学研修、研修報告プレゼンテーション等を実施する。 渡航前に数回オリエンテーションを実施し、渡航前（第1回）学内模擬試験を実施する（全員）。グリフィス大学では医療研修を含む3週間のプログラムを行う（後藤・青山・松本、各1週間ずつ）。帰国後、グループでの研修報告プレゼンテーション及び渡航後（第2回）学内模擬試験を実施する（全員）。	共同
専門基礎科目	保健医療福祉科目	解剖生理学Ⅰ	○	解剖生理学では人体の基本的な構造とそこのおおまかなはたらきについて理解できるようになることを目標とする。人体の基本的な構造と機能の理解には、広範な解剖学と生理学との知識を効果的に統合し、理解することが必要となる。具体的には下記の内容について講義を行う。物質的なヒトの構成要素とその視点、化学的基盤、生命の基礎としての細胞、細胞から組織、器官、器官系、外皮系、骨、関節、筋肉を含む骨格系、神経系の一部までを解剖生理学Ⅰが扱う。	

専門基礎科目	保健医療福祉科目	解剖生理学Ⅱ	○	解剖生理学では人体の基本的な構造とそこのおおまかなはたらきについて理解できるようになることを目標とする。人体の基本的な構造と機能の理解には、広範な解剖学と生理学との知識を効果的に統合し、理解することが必要となる。具体的には下記の内容について講義を行う。神経系の残り、感覚器系、血液学、循環器系、リンパ免疫系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系までを解剖生理学Ⅱが扱う。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	機能神経解剖学		本授業では、特に中枢神経系の構造と機能を重点的に扱う。中枢神経系は3次元構造のため難解な領域であるが、エビデンスに基づいた運動指導や生理心理学を理解するためには必須の領域である。講義では、基礎的知識から臨床関係の知見まで、広い範囲を網羅する。心身の健康科学分野を学問的に発展させて行くための基礎を身につけることを目指す。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	運動生理学	○	本授業では、運動が生体に及ぼす影響と運動・トレーニング効果に関する知識を身につけることを目標とする。運動生理学は、運動により生体にどのような生理学的変化が生じるかを学ぶものであり、運動療法を実践する上で必要な知識である。この授業では、運動時の身体の諸機能の変化および測定方法、運動・トレーニング効果について取り扱う。 (オムニバス方式／全15回) (85 大和 洋輔／14回) 運動が身体にもたらすメリットとデメリット、ストレッチング・レジスタンストレーニング、遅発性筋痛、運動の種類とエネルギー代謝、運動と呼吸・循環器の適応・まとめ (25 岩村 真樹／1回) サルコペニア	オムニバス方式
専門基礎科目	保健医療福祉科目	スポーツ生理学		運動に不可欠な骨格筋や、それに必要なエネルギー供給系、さらにはそれを支える呼吸循環系、内分泌系について学ぶ。これはスポーツ競技者へのトレーニング処方時に必要な知識である。また、健康増進にかかわる生涯スポーツの推進においても生理学知識を基にして、処方を行えるような知識を養うことを目標とする。第1回はスポーツに関連する骨格筋機能、第2回は呼吸循環機能、第3回疲労、第4/5回はコンディショニングについて、第6-8は内的要因と外的要因について講義を行う。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	基礎運動学	○	運動学は身体運動学、運動生理学、機能解剖学を基盤とした応用科学である。本授業では、「解剖生理学」などで修得した“日常生活活動に直接関わる人体の骨格筋”の知識を基盤に、四肢と体幹の運動を学びを通して、臨床応用できる運動学の基本的な知識・技術を身につけることを目標とする。 予習用の動画による予習を前提に、アクティブラーニング形式で課題に取り組む。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	基礎運動学実習		運動学は身体運動学、運動生理学、機能解剖学を基盤とした応用科学である。本授業では、「基礎運動学」で修得した「四肢と体幹の運動の知識」と「運動を力学的に探求することの知識」を基盤に、臨床応用できる運動学の実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。前半は「腕立て伏せ運動」「リーチ運動」を通して運動力学的分析、体力向上に用いられる「踏み台昇降運動」を通しての呼吸・循環機能の分析を実習形式で実施する。全体を通して、グループによるアクティブラーニングを中心に行う。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	バイオメカニクス		バイオメカニクスは生命現象を力学的原理で説明する分野であり、生物の構造や運動を力学的に探求したり、その結果を応用したりすることを目的とした学問である。本授業では、「運動を力学的に探求すること」を主眼に、将来身体障害領域の作業療法の現場で臨床応用できる「バイオメカニクス」の基礎的な知識・技術を身につけることを目標とする。 第Ⅰ部では「バイオメカニクス入門」として、「身体運動に関与する力」「ベクトル」「モーメント」「てこ」「運動の法則」「筋張力」をわかりやすく解説する。第Ⅱ部では「身体運動の基礎」として「関節の機能分類」「身体運動の面と軸」「筋の収縮様式と日常生活」をわかりやすく解説する。第Ⅲ部では日常生活活動の基礎となる「姿勢・歩行」をわかりやすく解説する。	

専門基礎科目	保健医療福祉科目	栄養薬理学	○	栄養は、健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。健康科学分野で接する機会の多い高齢者、疾病者および障害者においても、運動やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々人の状態に合わせた栄養療法が必要不可欠である。実際に、近年、医療・社会福祉・健康増進分野においても栄養ケア・マネジメントを担う栄養サポートチームの一員としての需要が増えてきている。一方で、栄養の偏りに起因する疾患には薬物治療が必要な場合もある。また、健康増進やリハビリテーションなどの対象となる人は、薬物治療も受けていることが多い。したがって、本授業では健康増進をサポートする者として必要な栄養学と薬理学の基礎を合わせて学ぶ。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	医学概論	○	健康科学分野に関わる人間にとって最低限必要な、医学の基本的な概念や歴史、医療システム、疾病の基礎知識を学ぶ科目である。授業では疾患の原因、分類、予防、概念について幅広く学ぶ。医学の歴史や発展、現代の医療システムや健康政策、医療倫理についての基礎知識を身につけ、医学領域における基本的な理解を促す。医療従事者として必要な基礎的な知識を獲得し、専門分野に進む準備を支援する科目である。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	臨床医学概論	○	本授業では、内科的症候論や診断学等の総論部分と、臓器別の生理、病因、病態論等の各論部分から構成される。各論部分は、臨床医学内科の全領域を網羅する。心臓疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌疾患、免疫疾患など、さまざまな疾患について病態生理や臨床症状、検査法、治療の基本を網羅的に学ぶ。内科領域の臨床的なアプローチや疾患管理についても理解できるようにする。健康科学分野に必要な医学知識や思考力を養成する。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	内科学Ⅰ		健康増進・福祉の現場において内科の基本知識は重要である。内科学Ⅰでは診断学、主要徴候、臨床検査など内科診療の総論を学び、引き続いて循環器・呼吸器・消化器といった主要な疾患について学習する。消化器疾患は一般によく知られた頻度の高いものであり、健康増進・福祉に従事する者として一定の専門知識を有しておくことが望ましい。本講義では、健康増進分野のための内科疾患に関する知識を身につける。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	内科学Ⅱ		内科学Ⅱは、内科学Ⅰに引き続き、健康増進分野・福祉分野における基本的知識である内科の主要領域についての講義を行う。糖尿病・脂質異常症など代謝疾患、生体制御に重要な内分泌系の疾患、生命の維持に直結する水・電解質、酸塩基平衡と腎・泌尿器疾患、血液・造血器疾患、免疫・アレルギー疾患、さらに感染症および感染対策などについて学習する。本講義では、健康増進分野のための内科疾患に関する知識を身につける。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	神経内科学Ⅰ		本授業では、中枢神経系疾患、末梢神経疾患に焦点を当て、その病態生理学や臨床症状、診断方法、治療法について網羅的に学ぶ。脳卒中、てんかん、など、神経内科の疾患の多様性について理解を深め、それらの病態や進行メカニズムを探求する。特に脳血管障害、頭部外傷、変性疾患、末梢神経疾患、筋疾患などの病態とそのその障害（高次脳機能障害、認知症、運動麻痺、知覚障害など）について学ぶ。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	神経内科学Ⅱ		本授業では、神経内科学Ⅰに引き続き、血管障害、認知症、変性疾患、筋疾患に焦点を当て、その病態生理学や臨床症状、診断方法、治療法について網羅的に学ぶ。認知症においては、アルツハイマー病、血管性認知症、変性疾患では脊髄小脳変性症、運動ニューロン病などのその障害について学ぶ。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	整形外科Ⅰ		整形外科学は、全身の骨・関節・筋・靱帯・神経などの運動器が対象で、年齢層も新生児から高齢者までと、どの診療科よりも守備範囲は広範囲である。治療も保存療法から手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたる。健康増進分野における支援においても整形外科学の知識を深めることは重要である。本授業では、関節リウマチ、骨折、フレイルなどの疾患を扱い、エビデンスに基づいた実践ができる基礎能力を養うものである。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	整形外科Ⅱ		整形外科学Ⅱでは、各関節における整形疾患の概要を解説し、機能解剖・診断・検査・治療とリスク管理に重点を置き教授する。股関節疾患、膝関節疾患など、関節疾患と中心に講義を行う。その他、脊髄損傷、小児疾患なども扱う。本授業は、エビデンスに基づいた実践ができる基礎能力を養うものである。	

専門基礎科目	保健医療福祉科目	精神医学		本授業では、心の健康や精神疾患に関する基礎知識の習得をめざすものである。1－2回（総論）では、3回目以降の講義を理解するための基盤となる知識を講義する。3回目以降（各論）は、疾患ごとに疫学、症状、治療までを一貫して講義する。心の疾患の診断基準や治療法、薬物療法、心理療法について理解し、精神的健康の維持と向上に向けた治療の重要性について学ぶ。講義中に適宜事例検討を行う。習得した知識から患者の臨床像を把握できるようになることが望まれる。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	老年医学		老年医学は老年者の疾患の予防、臨床、介護などを目的とした臨床医学の一部門である。本科目では老化の機序、老年者に多い疾患とその特殊性、老年者にみられる生活機能障害とケア、などについて解説する。老年医学では疾病の治療、延命だけでなく、全人的包括医療の視点に立ってQOLの向上に主眼をおいた医療、ケアが重要であり、そのための基礎知識について説明を加える。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	小児科学		本授業では、小児の生理学的・心理学的発達、健康管理、疾患の診断・治療について学ぶ。小児期特有の疾患や病態、感染症、遺伝性疾患などについて習得し、予防接種、栄養、成長のモニタリングなど、小児の健康促進に必要な基礎知識を理解することをめざす。特に新生児および小児疾患のうち、障害に関連する領域を中心に、原因・病態を重視しながら理解をすすめる。また、医療者として必要な感染症の知識も習得する。心身の発達段階に応じた医療介入など、健康な成長と発達をサポートするために必要な知識を習得することをめざす。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	救命救急学	○	医療従事者及び健康科学分野に従事する者として必要となる救命救急医療に関する基礎知識を知り、臨床において対象者の救命に資する能力を取得するため、知識だけではなく実技も交えて実施する。そして人命救助に関わる知識と技術を習得する。	共同
専門基礎科目	保健医療福祉科目	公衆衛生学	○	公衆衛生学は、疾患予防、健康増進を目的とした学問であり、保健医療の最も基本となる学問である。本講義では、公衆衛生の基本的知識や概念を修得するとともに、最新データを用いながら、日本の公衆衛生の現状や課題について学び、地域や社会全体の公衆衛生上の懸案について、学生一人一人が自らに関係のある身近な問題として考えることを目的とする。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	医療倫理学概論		日常的な業務の中においては、些細なものから重大なものまで前例の無い倫理的ジレンマにさらされることが多い。本授業では終末医療、高齢者医療、生殖医療、臓器移植などの生命倫理上の重要な問題から、日常にある些細な倫理的ジレンマ、健康増進に関わる問題にいたるまで、保健・医療・福祉に関わる様々な倫理的課題を扱う。そうした課題に取り組むことで、論拠に基づいて倫理的に推論する姿勢を養い、健康科学分野に関わる職業人として相応しい責任感と目的意識を涵養することを目指す。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	医療制度論	○	治療の場所である病院・診療所、治療を行う医師・看護師、治療の費用を賄う医療保険・介護保険、厚労省・地方自治体等医療にかかわる行政当局など、保健・医療・福祉の現場は様々な要素や関係者から構成される。医療制度はそれらの相互関係とネットワークに関するルールを定めるものである。本授業では、将来、健康増進などの健康科学分野で働くに際して、わが国の医療保険制度と医療の提供体制、医療施策について理解し、それらの現状と課題を把握したうえで、海外の医療保険制度の比較において、持続可能な医療保険制度について考察できるようになることを目指す。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	社会福祉論		将来的に医療や健康科学分野の現場で働く際、医療・健康科学の視点とともに、状況に応じて対象者をとりまく環境、すなわち対象者の生活に目を向けるという福祉的視点を養うことが大切である。授業では、社会福祉に関する基本的事項(法体系、社会資源、その他)について理解を深め、最終的には医療従事者や健康科学分野に従事するものとして、医療機関における福祉職である医療ソーシャルワーカーや、機関外の福祉職及び関連職種とスムーズな協働とはどうあるべきかをイメージできることを目標とする。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	社会保障論	○	本授業は、健康保険、介護保険、国民年金、生活保護など市民生活の安全と安定を保障する基本的な制度について、その理念、構造、機能、歴史、課題等にわたる統一的な視点から体系的に解説することにより、医療系大学の学生として最低限身につけるべき日本の社会保障のグランドデザインを理解することを目指す。	

専門基礎科目	保健医療福祉科目	保健医療福祉行政論Ⅰ	○	本授業は、わが国における保健医療福祉行政の理念と仕組みを学び、保健医療福祉制度の歴史的変遷を理解することで、保健師活動と制度の関連を認識する。また、医療提供体制および医療保険制度・介護保険制度について学び、個別サービスとしての制度を理解し、保健・医療・福祉サービスにおける連携の意義、社会保障や福祉制度の今後の課題や方向性における看護職の役割を考察することを目的とする。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	保健医療福祉行政論Ⅱ		本授業は、保健福祉行政論Ⅰで学んだ保健、医療分野に関する制度の知識を復習しつつ、引き続いて保健師活動の連携相手先となる福祉分野の行政活動についての知識を現場で応用できるレベルまで深く学び、①病院等に就職して行う看護ケアと地域保健活動との有機的な連携の必要性を理解でき、②保健師資格の取得を目指す際の基礎知識を身につけ、③公衆衛生学や疫学について研究を深める契機とすることを目指す。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	社会調査法		本授業では、社会調査を本格的に学ぶ。社会調査の意義、方法を理解するために、授業では調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法などを学ぶ。また、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理などについても実例、模擬データセットを交えて授業を進める。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	健康医療データ解析演習		健康医療データの収集、整理、解析手法を学び、健康問題に関する洞察力を育成する。基本的な統計解析手法から始め、実際の医療データを用いて課題解決に向けた統計的手法を実践的に学習する。またデータベース操作や統計ソフトの使用法、予測モデルの構築など、実際の健康ケアに応用可能なスキルの習得をめざす。模擬データセットを使用し、グループでのプロジェクトベースの演習を通じて、データ解析のスキルとチームワーク力の向上もめざす。基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する科目。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析など）の中からいくつかをとりあげる。この授業は学生が健康医療データを理解し、科学的な手法で問題を分析し、健康ケアの向上に貢献する準備をするための基盤を築くことを学習目標とする。	
専門基礎科目	保健医療福祉科目	シン・メディカルⅠ	○	シンメディカル(Syn-medical)とは、専門職の調和的な協働により、多様かつ変化の激しい医療・福祉・保健における問題を解決する新しい医療のあり方を示す概念である。現代の医療は高度化し、専門分化も進み、様々な職種がチームを組んで医療にあたっている。本授業では、各専門職がどのような仕事であるのかを知り、多職種と比較しながら自分の目指す職業について理解を深める。また、他職種と連携した医療を提供できる基盤の形成として、良好な関係を作るためのコミュニケーション能力、他職種と議論する方法と議論を通して問題解決する能力を習得することを目指す。	共同
専門基礎科目	保健医療福祉科目	シン・メディカルⅡ	○	シンメディカル(Syn-medical)とは、専門職の調和的な協働によって、多様かつ変化の激しい医療・福祉・保健における問題を解決する新しい医療のあり方を示す概念である。シンメディカルⅡでは、模擬事例を元に、各専門職の知識や考え方について議論することを通し、自分の職種を元に相対化することで、自己の専門性と他職種への理解をより深く学習することを目指す。	共同
専門基礎科目	保健医療福祉科目	接患・接遇法		対象者との関係性を構築するためには社会人としての対応力が求められる。本授業では、節度ある礼儀・作法を学び、今後社会に出ていく学生としてふさわしい立ち振る舞いを身に付ける。また、対人心理を意識した話し方や関わり方を学び、社会人としての資質の向上を図る。 授業内容は、「接遇の基礎知識」、「立居振る舞い」、「感じの良い言葉遣い」、「電話対応」などについて、講義をしたのちに、ペアワーク、ディスカッション、演習を中心として展開する。	共同
専門基礎科目	保健医療福祉科目	ホースセラピー		本授業では、地上での馬との関わりや馬の背で揺られる実体験を通して、特に医療・教育・福祉などの分野で馬が介在する意味や今後の可能性について考える。また、群れを成し、社会性が強い馬との非言語コミュニケーションを体験することで、人間同士のコミュニケーションについて更に考えを深めることを目指す。 到達目標としては、①馬という動物の特性および危険性を理解し、安全に馬とコンタクトをとることができる、②馬が人間にもたらす影響や効果を具体的に理解することができる、③馬とのかかわりをもとに、人と馬、人と人におけるコミュニケーションについて熟考できる、ことをめざす。 授業内容は、馬を介在した取り組みとその領域、馬の特性と行動、馬がもたらす影響や効果、ホースセラピーを用いるロールプレイ、医療における馬の活用を教授する。	共同

専門科目	健康科学科目	心身健康科学概論	○	本授業では、認知科学の基本的な理論と実践に焦点を当てる。認知過程、運動制御、学習、記憶、感覚知覚、意志決定などの分野における基本的な概念や最新の研究などについて学び、認知科学の概略を理解する。講義とディスカッション、実習を通じて、認知と運動の関係についても理解することをめざす。 (オムニバス方式／全15回) (6 後藤 昌弘、13 酒井 浩／2回) 共同 認知科学全般について、基本的な概念、主要部分についての概説を講義形式で行う。 (13 酒井 浩／13回) 認知過程、運動制御、学習、記憶、感覚知覚、意志決定などの分野における基本的な概念について講義形式で行う。	オムニバス・共同 (一部)
専門科目	健康科学科目	リハビリテーション医学	○	先端的な医療技術を駆使してもなお障害が残存する疾患や外傷が少なくない。残された障害に対しては細分化された治療医学よりも横断的な視点であるリハビリテーション医学がふさわしい。この科目では障害を有しながら、その人らしい生活復帰を目的とするリハビリテーションの基本的な知識を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (13 酒井 浩／12回) リハビリテーション医学総論，障害分類，評価学，治療学の主要部分についての概説を講義および演習形式で行う。 (29 尾藤祥子／3回) 発達障害に対する評価学，治療学についての概説を講義および演習形式で行う。	オムニバス方式
専門科目	健康科学科目	スポーツ外傷・障害論	○	本授業では、スポーツ中の怪我や障害の原因、メカニズム、予防、治療に焦点を当てる。身体の構造と運動の関連性、スポーツ外傷の種類、予防戦略、リハビリテーション技術などについて学ぶ。最新の研究成果や臨床的なケースを通じて、学生はスポーツ外傷の診断方法、治療法、再発防止策を理解し、スポーツ選手の健康とパフォーマンスの向上に寄与できる知識とスキルを習得することをめざす。	
専門科目	健康科学科目	生活習慣病と身体活動	○	本授業では、生活習慣と健康の関係を探求する。生活習慣病（糖尿病、高血圧、肥満など）の原因、予防、管理を身体活動の視点から学ぶ。運動の生理学、運動と健康の関係性、運動プログラムの設計、食事と運動の統合、ストレス管理、睡眠の重要性などを包括的に網羅する。また、現代の社会問題である肥満やストレスに対処する健康的な生活スタイルについて理解する。身体活動パターンを分析し、健康的な習慣の形成に向けた個別指導方法を学ぶ。そして、実践的な活動指導、ケーススタディ、グループディスカッションを通じて、生活習慣病の予防と管理に関する専門知識を深め、社会に健康情報を提供できる能力の習得をめざす。	
専門科目	健康科学科目	健康増進論	○	現代において、高齢化の進展や疾病構造の変化に伴い、健康増進の重要性が増大し、健康づくりや疾病予防を積極的に増進する必要がある。本授業では、運動による健康管理の重要性・生活習慣病の予防効果を学習する。そして、健康増進に必要な身体的構造・機能について理解を深めるとともに、運動療法を中心とした介入方法について理解することを目標としている。	
専門科目	健康科学科目	体力測定論Ⅰ	○	健康増進を目的とする運動指導に必要な面談による情報収集項目を理解し、また、筋力、パワー、俊敏性、持久力、柔軟性といった体力測定に必要な知識を身につけることを目標とする。本授業では、1. 個別情報収集、2. 体力の測定と評価、3. 形態の測定と評価、4. 測定結果の統計的解釈の4つを学習のテーマとし、データの取り方やその統計的処理方法、結果の解釈を理解して、運動指導の実践者として指導場面に活かせる知識を習得する。	
専門科目	健康科学科目	体力測定論Ⅱ		様々な背景を持つ対象者に面談を行い、体力測定を実施し、測定後の統計処理、運動器の機能評価を行い、得られた結果を考察し文章化する技能の習得を目標とする。受講者自身が検者または被験者となつて、測定をする側だけでなく、測定される側の立場について理解する。レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察を実践し、運動器の機能評価結果を個別カルテに記載する機会とする。	
専門科目	健康科学科目	運動処方論Ⅰ	○	運動プログラム（運動処方）の意義と必要性を理解し、個人の特性や希望に応じて適切な運動プログラムを提供できる知識習得を目標とする。また、運動プログラムの効果測定の方法、安全な運動プログラムの実施方法について理解する。レポート作成を通じて、筋力、パワー、筋肥大、全身持久力の向上、また、ダイエット、アライメント改善等を目標とする運動プログラムを立案する機会とする。	

専門科目	健康科学科目	運動処方論Ⅱ		自転車エルゴメーター、トレッドミル、スタアマスター等のマシンを用いて運動負荷テストを行い、目標心拍数を得るための運動負荷量決定の方法習得を目標とする。また呼気ガス分析装置を用いて運動時の呼気ガス分析を行い、運動の種類、インターバル、室温、個体差等によって異なる運動負荷量について熟考する機会とする。	
専門科目	健康科学科目	パーソナルトレーナー論	○	本授業では、健康増進や障害予防、スポーツ競技力向上などのニーズに応じた運動プログラムを提供するための各種トレーニングやコンディショニングの手法を学び、運動指導を適切に行うことができる知識とスキルを実践的に身に付ける。	
専門科目	健康科学科目	パーソナルトレーナー実習	○	様々な人々（子どもから高齢者まで）を対象にしたトレーニング指導（パーソナルトレーニング）に対する知識を深めるとともに、健康増進や障害予防、スポーツ競技力向上などを目的としたトレーニング方法の基礎理論の習得を目指す。 （71 何川渉、42 梶本浩之／17回） 共同 ・柔軟性（スタティックストレッチ・ダイナミックストレッチ） ・自重エクササイズ ・スタビリティボール・エクササイズ ・レジスタンストレーニング指導の基礎（概論・理論） ・下肢のエクササイズ ・体幹のエクササイズ ・上肢のエクササイズ ・レジスタンストレーニングまとめ ・プライオメトリックトレーニング ・スピードトレーニング ・アジリティトレーニング ・有酸素性持久力トレーニング ・運動心理学・施設と機器の配置及びメンテナンス・法的側面・その他 （6 後藤昌弘、71 何川渉、42 梶本浩之／2回） 共同 ・CPR、AED実習 （27 熊田仁／4回） ・整形外科的疾患や障がい者の運動プログラム ・高齢者、子どもの運動プログラム	オムニバス・共同（一部）
専門科目	健康科学科目	レジスタンストレーニング論Ⅰ		下肢筋及び体幹筋を対象とするマシン及びフリーウェイトトレーニングの種目（スクワット、デッドリフト、レッグカール、レッグプレス等）を目的に応じて選択し、正しい姿勢、フォームで実施できる技能を身につけることを目標とする。また、ストレンクスは筋力、パワー、持久力のみならずスピード、バランス、コーディネーション等の筋機能がパフォーマンスに関わるため、グループワークで負荷量、速さ、レップ数、セット数、インターバル時間、運動頻度といった因子を組み合わせ運動を行った時の電気的活動量を表面筋電図、等速性筋力測定器、近赤外線分光法で測定し、そのセット法が対象筋に与える物理的、代謝的刺激量を測定し、発表する機会とする。	
専門科目	健康科学科目	レジスタンストレーニング論Ⅱ		上肢及び肩の筋を対象とするマシン及びフリーウェイトトレーニングの種目（ベンチプレス、バタフライ、ショルダープレス等）を目的に応じて選択し、正しい姿勢、フォームで実施できる技能を身につけることを目標とする。また、また、ストレンクスは筋力、パワー、持久力のみならずスピード、バランス、コーディネーション等の筋機能がパフォーマンスに関わるため、グループワークで負荷量、レップ数、セット数、インターバル時間、運動頻度といった因子を組み合わせ運動を行った時の電気的活動量を表面筋電図、等速性筋力測定器、近赤外線分光法で測定し、そのセット法が対象筋に与える物理的、代謝的刺激量を測定し、発表する機会とする。	
専門科目	健康科学科目	コンディショニングトレーニング論Ⅰ		一般の人々が快適な日常生活を送るために①アライメント、②筋力、③柔軟性、④全身持久力といった体力要素を総合的に調整する必要性があるのか、また、対象者の年齢、性別、運動歴、場用薬剤、栄養状態、病気や怪我による安静の期間といった条件がこれらの要素にいかに影響を及ぼすかを理解することが目標となる。アライメント異常、筋力低下、柔軟性低下、全身持久力低下の機序、それらの改善方法について理解を深める機会とする。	
専門科目	健康科学科目	コンディショニングトレーニング論Ⅱ		立位、坐位、6分間歩行、椅子からの立ち上がりといった姿勢や動作を行い、その中でアライメントの異常、筋力低下、全身持久力低下、柔軟性低下といった問題点を把握し、それぞれの問題点の改善に向けたプログラム立案までのプロセス理解を目標とする。2～3名の対象者を例に、動作観察、問題点把握、原因想起、運動プログラム立案のプロセスをグループワークで進め、発表する機会とする。	

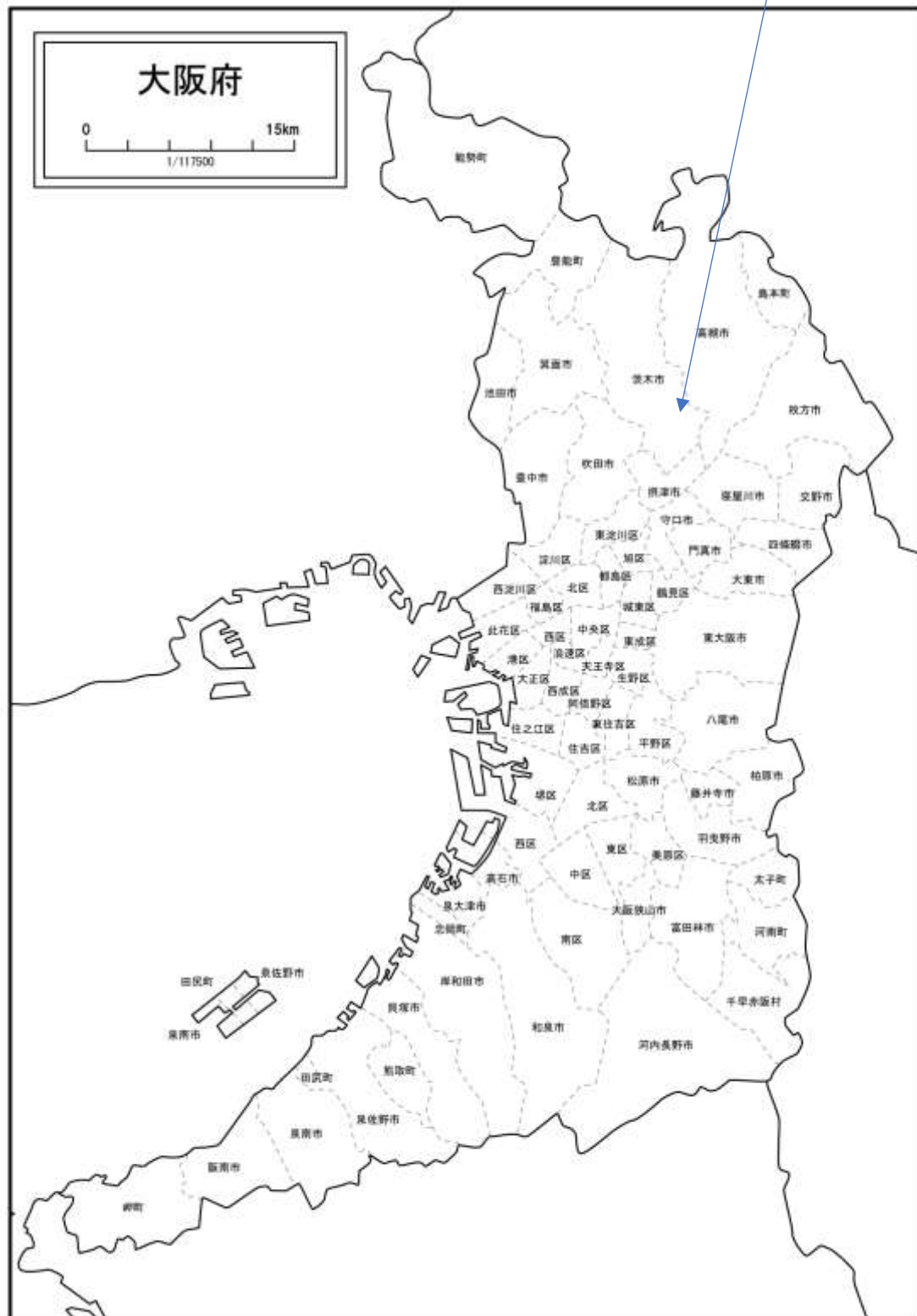
専門科目	健康科学科目	スポーツレクリエーション論		現代社会におけるレクリエーションやスポーツレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得することを目標とする。少子高齢化社会を背景とする地域の課題を認識し、特にスポーツレクリエーションがどのように貢献できるか熟考する機会とする。子育て支援におけるスポーツレクリエーション、介護予防支援におけるスポーツレクリエーション、障害者の自立支援におけるスポーツレクリエーションの取り組み事例を挙げ、レクリエーション事業の展開方法やプログラムの組み立て方、アイスブレーキングやコミュニケーションワーク方法を習得する。	
専門科目	健康科学科目	種目別スポーツ特論		野球、バスケットボール、水泳、ラグビー、サッカー、柔道等の種目別、ポジション別スポーツに求められる運動機能を理解し、ピリオダイゼーション（年間運動プログラム）作成を目標とする。受講者をスポーツ種目別にグループイングし、アクティブラーニングをベースに質疑応答をふくめ発表までのプロセスを経験する。種目別、ポジション別の運動プログラム作成については個別にレポートを作成し、フィードバックと和せて熟考の機会とする。	
専門科目	健康科学科目	障がい者スポーツ特論		本授業では、障がい者スポーツの振興を図り、健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目指す。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツとの接点や関わりについて熟考する機会とする。すべての講義・実技実習受講後は、日本パラスポーツ指導者協会が認定する初級パラスポーツ指導員の資格指定校講習の単位として認定される。 （91 阪上 奈巳／8回） 障がい者福祉施策、スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、コミュニケーションの基礎、障がい者スポーツに関する諸施策、障がいの理解についての講義を担当。 （38 栄徳 美沙季／4回） 障がい者スポーツの意義と理念、障がい者スポーツの紹介とその効果、全国障がい者スポーツ大会並びに国際パラリンピック大会の概要についての担当。 （91 阪上 奈巳・38 栄徳 美沙季／11回） 共同 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫、障がいのある人との交流、障がいに応じたスポーツの工夫についての実技実習を担当。	オムニバス・共同（一部）
専門科目	健康科学科目	スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	○	スポーツ中の緊急事態への対応について学習する。異常な身体状態の評価、救急処置の実施、適切な医療機関への転送手順を学び、緊急時の臨機応変な判断力を習得することを目標とする。骨折、脱臼、捻挫、頭部外傷などスポーツ外傷の適切な診断と処置方法に焦点を当て、実際のケーススタディとシミュレーションを通じて実践的な技術を身につけることもめざす。AEDの使用法、心肺蘇生法（CPR）、出血の止血法など基本的な応急手当も網羅し、実地演習と専門知識を組み合わせ、スポーツフィールドでの安全性を確保し、緊急時に迅速かつ適切に対応できるようになることをめざす。	
専門科目	健康科学科目	スポーツマネジメント論		スポーツマネジメントの定義を説明でき、さらに、様々な領域で実践されているスポーツマネジメントの事例を学習することで課題解決のために必要なマネジメント知識やスキルを養うことを目標とする。スポーツマネージメントの構造、国と地方のスポーツ行政、総合型スポーツクラブ経営戦略、地域スポーツクラブの運営、学校体育経営、個人パーソナルトレーナー経営等をトピックを挙げ、現状の把握と今後の対策について熟考する機会とする。	
専門科目	健康科学科目	コーチング論		スポーツ・トレーニングにおけるコーチの役割理解し、自己のコーチング資質向上の基礎形成を目指す。スポーツ・トレーニング指導者の役割、態度、必要な知識、スキル向上の技術、選手とチームを目標や問題解決に導くためのコーチング行動等についてグループディスカッションの中で熟考する機会とする。	
専門科目	健康科学科目	スポーツ経営学		スポーツ経営に関連する制度や法律を理解すると共に、公共のスポーツ施設、民間のスポーツ施設、学校体育、スポーツイベント等を経営学的な側面から捉え、経営概念及び構造の理解を目指す。実際のスポーツの現場でどのような経営的視点を持ち組織を運営しているのか複数の事例を交えて学ぶ。	

専門科目	健康科学科目	スポーツ心理学		本授業では、競技者のメンタルトレーニングとパフォーマンス向上を探究する。集中力、自己調整、ストレスマネジメント、チームダイナミクスなど、スポーツでの心理的要因を理解する。競技者の心理的強さ、モチベーション、目標設定法、競技中のストレス管理技術など、実用的なスキルを学習する。パフォーマンスの向上、競技者のメンタルヘルスのサポート方法、教育的介入戦略についても学ぶ。ケーススタディ、心理的トレーニングプログラムの設計、アスリートのサポート計画策定などを通じて、競技者のメンタルヘルスを向上させ、最高のパフォーマンスを引き出す方法を習得することをめざす。	
専門科目	健康科学科目	医療心理学	○	本授業では、医療環境での心理学に焦点を当て、対象者の心理的側面や行動を理解するための知識を習得する。評価、健康行動、心理的介入、クリニカルスキル、文化的側面などを学び、対象者の健康維持と改善の支援に役立つ実践的なアプローチを身につけることをめざす。	
専門科目	健康科学科目	臨床心理学	○	臨床心理学は、こころに問題を抱えた人とその周囲の人たちに寄り添い、理解し、支援するための心理学であり、セルフコントロールの力を増進し、コミュニケーション、対人関係の持ち方を円滑にするための知見を探究し、技法を提供する実践的な学問でもある。 本授業では、臨床心理学の基本原則を学習する。精神的健康、疾患の評価、カウンセリング技術、治療法の理論と実践に焦点を当て、実習を通じて、実践的なスキルの向上をめざす。	
専門科目	健康科学科目	社会心理学		本授業では、社会的環境が個人の行動や意識に与える影響を探究する。社会的認知、群集行動、偏見と差別、規範と規則、リーダーシップ、コミュニケーションなど、社会心理学の基本的理論と研究手法を学ぶ。個人の行動や態度が社会環境によってどのように形成され、変化するかを理解し、健康行動、プロフェッショナルの倫理、チームワークなどに関連する実用的な問題に焦点を当てる。また、具体的なケーススタディや社会実験の分析を通じて、社会的影響を正確に評価し、異なる文化や価値観に対応するスキルを養う。この授業では、個人の行動や意識に影響を与える社会的要因を深く理解することをめざす。	
専門科目	健康科学科目	教育心理学		教育心理学は、教育上の働きかけを効果的に行うために、心理学の知見や技術を活用する学問である。本科目では、教育心理学の基礎的な理論を学ぶとともに、学校現場の実践的な事例を紹介しながら学修する。また、適宜グループワークを行い、実践的に学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (11 河野由理 全8回) 教育心理学に関連する社会情緒的な発達、発達理論、人格の理解、コミュニケーション、問題行動、心理教育などを担当する。 (8 近森 聡 全7回) 学習の動機づけ、学習指導、学習評価、学級集団、集団指導、グループのほぐし方、実践的な活用などを担当する。	オムニバス方式
専門科目	健康科学科目	発達臨床心理学		本授業では、ヒトの心の諸機能（知覚、認知、感情、社会性など）の生涯にわたる発達のパターン、心身の成長、社会的環境との相互作用について学ぶ。乳幼児期から老年期までの発達段階や、身体的・知的・感情的な変化、言語習得、社会的関係の発達過程についても学習する。また、発達障害などについても学び、より臨床的な個別の対応方法について講義形式で学ぶ。	
専門科目	健康科学科目	障がい者・障がい児心理学		本授業は、障害者・障害児の心理学に焦点を当て、障害の本質や捉え方の変遷、法律、制度についての理解を深めます。社会が進化する中で障害に対する理解が変遷してきた背景を探り、現行の法的枠組みや制度についても概観します。授業では、異なる障害種（肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、知的障害、発達障害）の特性に焦点を当て、それぞれの障害の特異性を理解します。	
専門科目	健康科学科目	メンタルヘルス論		本授業の前半では、自らのストレスの状況や状態を適切に把握し、不調に早期に気づき、必要があれば他人に助けを求めることの重要性を紹介する。後半では、管理監督者向けの内容を予定しており、部下への配慮の仕方や、部下が不調に陥らないような安全配慮義務に則った対応を詳述する。	
専門科目	健康科学科目	心理アセスメント	○	心理的評価方法とテクニックに焦点を当てる。心理学の基盤を学び、臨床的アセスメントツールの使用法や評価スキルについて学習する。パーソナリティ評価、知能検査、症状評価など幅広いアセスメント手法に触れ、結果の解釈と報告のスキルを育成する。ケーススタディや模擬評価を通じて、臨床心理学の基本的な要素を学習し、様々な心理的ニーズに対処する能力を養い、個人やグループの心の健康を評価方法について理解することをめざす。	

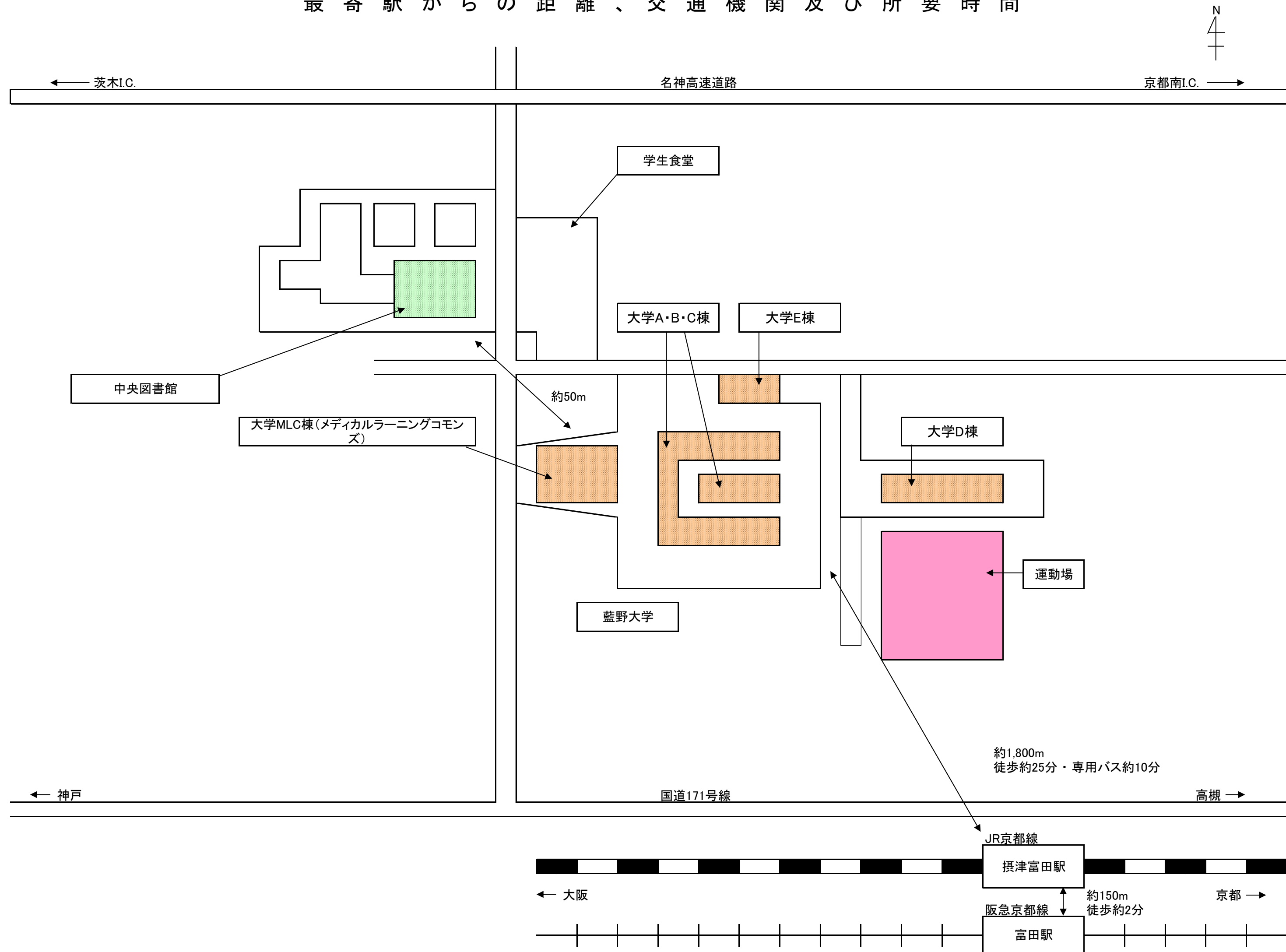
専門科目	健康科学科目	ヘルスコミュニケーション		本授業では、コミュニケーション論で学んだ基礎の上に、医療場面や地域コミュニティでの対象者に対する具体的な配慮と対応の方法や傾聴の姿勢、共感的理解、共感的態度について、より実践的な対応力を身につけるために、ロールプレイなどを通してアクティブに学ぶ。	
専門科目	健康科学科目	身体言語学		本授業では、身体的アプローチを通じてコミュニケーションスキルを学ぶ。身体言語、ジェスチャー、触れ方、空間の利用など、身体的な手法を通じて情報伝達の重要性を学び、コミュニケーションの効果的な構築、信頼の構築、ストレスの軽減、共感の表現など、身体的アプローチが人間関係に与える影響を理解する。授業では、グループ演習、ロールプレイなどを通じて、適切な身体的コミュニケーションスキルを実践と習得をめざす。	
専門科目	健康科学科目	教育相談		教育相談は、子ども達の教育上の諸問題について、子ども自身、保護者、教師などを対象に、助言・指導をすることである。本講義では、教育相談の理論を学ぶとともに、学校現場で児童・生徒とのかかわり方や保護者との面接方法を、具体的な事例（不登校、心身症、いじめ、暴力、非行など）を紹介しながら考察する。また、心理カウンセリングの理論と技法についても学習する。	
専門科目	健康科学科目	特別支援教育特論		特別支援教育とは、一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善するために、適切な教育や指導をとおして必要な支援を行うことである。本授業では、学校教育現場での児童生徒の評価と支援について理解を深める。その過程で、保育所・小学校・支援学校での見学を行い、実践的な理解を目指す。	
専門科目	健康科学科目	就労支援論		障害者が就労することは、地域共生社会の実現と障害を持つ人のリカバリーに重要な役割を担うことから、就労支援を専門とする様々な職種や自治体などでの活動が増えている。本授業は、障害者の就労支援に関する知識と技能を習得することを目指とする。対面講義に加え、当事者とのグループディスカッションを行うなどのアクティブラーニングを実施する。	
専門科目	健康科学科目	健康科学と認知症演習		認知症予防や認知症に対する集団アプローチについて学習する。症状、治療目的別に集団を用いた様々な認知症に対する介入方法を学ぶ。まずは体験を通じて自身や他者に表れた身体的・精神的効果を実感し、その効果がなぜ現れるのかを脳機能から理解を深める。また、地域の認知症予防プログラムや、施設での認知症プログラムの実際場面の見学や体験を行う。前半は、認知症に対するさまざまな集団プログラムについて講義とともに、体験する。後半は、前半の体験をもとに、グループワーク形式でプログラム計画を立てて実践する。	
専門科目	健康科学科目	保育学入門		保育の基本的な理念や技術、子どもの発達に関する基礎知識を身につける。この授業では、保育の歴史や法的基盤、保育の倫理や価値観について学びながら、子どもの身体的、社会的、感情的な発達過程を学ぶ。幼児期の特徴や発達段階、言語習得、遊びの役割などについて深く理解し、適切な保育環境の設計やプログラムの計画方法について学習する。特に、病児保育、発達障害を対象とした児童デイサービスなどの福祉分野で、保育士の視点を活用されることが増えており、本授業では、保育現場、発達障害の子どもを対象とした福祉分野で求められる知識・技術の習得を目指す。 （オムニバス方式／全23回） （29 尾藤祥子／8回） 本授業では、子どもの発達過程、言語習得、遊びの役割、適切な保育プログラムについて学ぶ。 （55 高畑脩平／8回） 本授業では、発達障害、病児保育など、近年のさまざまな疾患や症状に合わせた保育のあり方を学ぶ。 （29 尾藤祥子・55 高畑脩平／7回） 共同 本授業では、保育現場、福祉現場での子どもの評価と支援について理解を深める。その過程で、保育所等の見学を行い、実践的な理解を目指す	オムニバス・共同（一部）
専門科目	健康科学科目	住環境コーディネーター論		急速な高齢化が進展する中、地域包括ケアシステムとして、高齢者や障がい者の生活を支援するための専門性が求められる。本授業では、高齢者や障がい者を取り巻く社会状況を把握し、福祉住環境コーディネーターの意義について学習する。その上で、身体機能と住環境を関連付け、適切な福祉用具の選定、住環境整備に必要となる基礎知識および実践能力を習得し、理学療法士としての専門性を理解することを目指す。学習成果として、福祉住環境コーディネーター資格取得を推進する。	

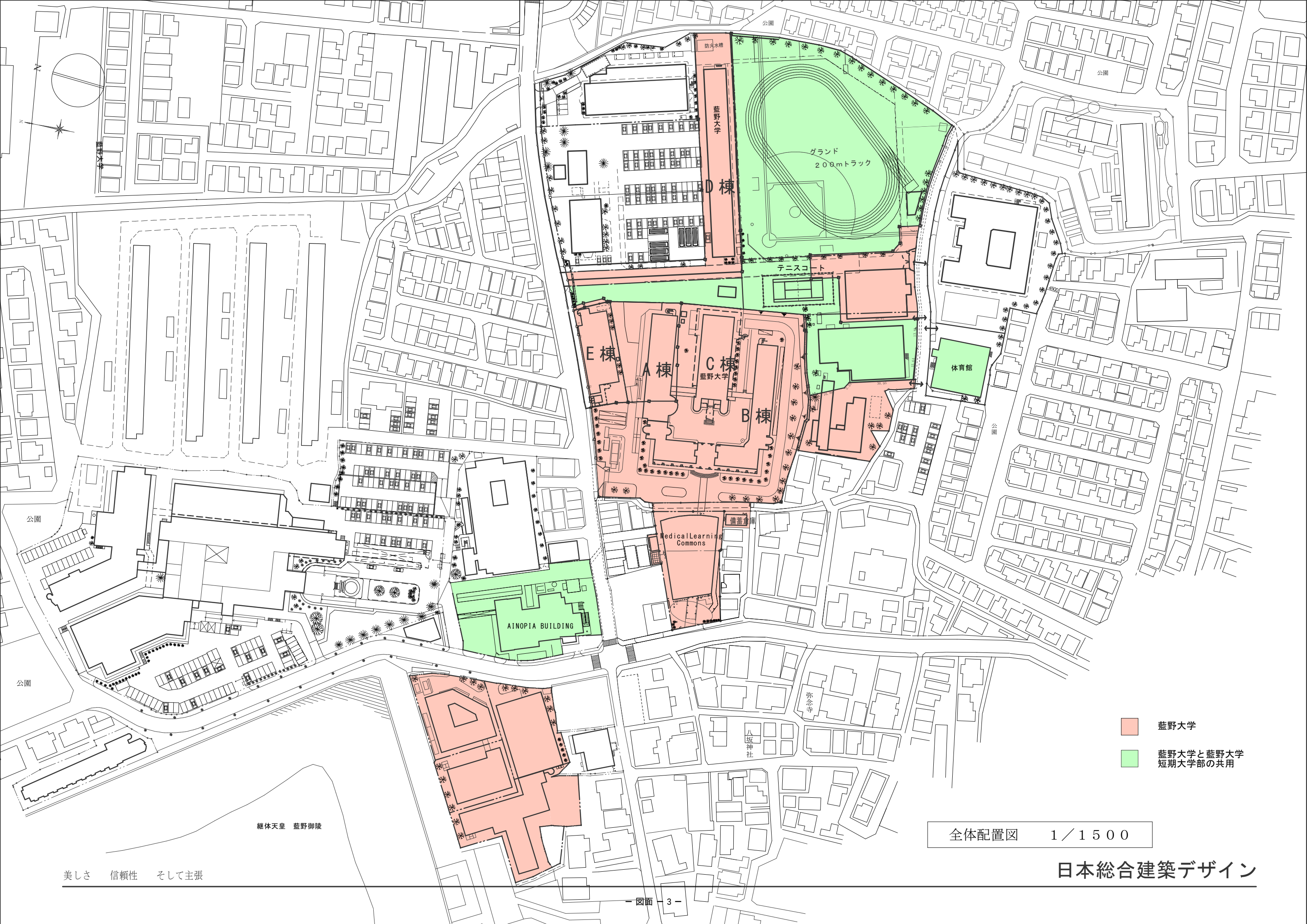
専門科目	実習科目	健康科学実習Ⅰ	○	本授業では、実際の現場を見学したり、地域の健康ニーズを調査し、フィールドワークやインタビューを通じて実践的な健康課題について検討する。そして、調査結果の分析や現場の見学を通して、健康科学分野での活動について検討する。	共同
専門科目	実習科目	健康科学実習Ⅱ	○	本授業では、地域の住民のための健康プログラムや地域貢献事業について調査し、その実践の一部に参加する。実践への参加を通して、地域のニーズに適切に応える方法について実践的に学ぶ。そして健康科学分野における地域貢献のあり方について検討する。	共同
専門科目	実習科目	健康科学実習Ⅲ	○	本授業では、プロジェクトベースで持続可能な健康改善の方法について検討する。地域の特有のニーズに基づいて最適な介入方法を考え、その計画を立案、実施し、実践的な問題解決能力の向上をめざす。心身の健康支援のあり方を実践の中で理解する。	共同
専門科目	実習科目	健康科学実習Ⅳ	○	本授業では、地域の健康課題をさらに深く分析し、継続的な改善策を検討する。持続可能性を重視した戦略の設計や、地域社会の資源を最大限に活用する方法について実践を通して学ぶ。最終的には、提案した健康創生戦略の実施計画を立案、実施し、振り返りを通して、地域社会の健康支援のための知識と技術を習得することをめざす。	共同
専門科目	実習科目	運動指導実践		運動指導を行う現場で、報告、連絡、相談ができるという社会人としての責任について学習し、運動指導やレクリエーションの現場を見学し、指導者の下で運動指導の一部を経験することを目標とする。対象者に対する面談、体組成測定、運動機能評価、アライメント評価、運動プログラム立案をレポートにまとめ、プレゼンテーションを実施し、一連のプロセスを習得する。	
専門科目	健康科学研究	アクションリサーチⅠ	○	健康関連の問題を特定し、アクション・リサーチの手法を学ぶ。課題の特定、問題分析、データ収集、介入計画の策定、評価の方法を習得し、グループ演習を通じて実践的なスキルを習得することをめざす。また、倫理的視点を持ちながら現場の問題に対処し、解決策を見つける能力の習得も重要である。この授業を通して、アクション・リサーチの理論と実践を結びつけ、学生のリサーチスキルと問題解決能力を向上させ、将来の現場で実践力につなげる。	
専門科目	健康科学研究	アクションリサーチⅡ	○	アクション・リサーチ手法を用いて解決策を見つける課題に取り組む。課題の特定、データ収集、分析、介入計画の設計、実施、評価の全工程を学び、現場での問題解決力を養う。グループでのプロジェクトベースの学習を通じて、協働、リーダーシップ、プレゼンテーションスキルを向上させ、学内での演習で、実践的なアクション・リサーチのスキルと倫理的視点を磨き、将来の健康科学分野の現場で活躍する能力の習得をめざす。	
専門科目	健康科学研究	健康科学育研究法Ⅰ	○	研究を行うためには、自ら研究課題を見つけ、先行研究を読み、仮説を立てて検証するための研究手法に関する知識の習得が必要である。本授業では、健康科学分野における問題・課題・疑問を研究手法を用いて探求するために必要となる基礎的知識・能力の獲得を目標とする。これまでに学習した健康科学分野の知識や情報を活用し、研究の一部を経験することで、情報収集能力や分析能力、問題解決能力、論理的思考力の素地を養う。	
専門科目	健康科学研究	健康科学研究法Ⅱ	○	研究を行う上で必要な、自身の研究テーマについて疑問を深めて探求する、実践的能力の獲得を目標とする。本授業では、先行研究を読み解きながら仮説を立て、それを解決するための方法を模索し、研究計画書を作成する。このプロセスの中で情報収集能力や分析能力を含めた問題解決能力や論理的思考力を養う。	共同
専門科目	健康科学研究	健康科学課題研究	○	本授業では、健康科学分野の特に健康増進に関する研究テーマについて積極的に研究を進め、健康科学研究法Ⅱで立案した研究計画を実施し、論文作成・発表までのプロセスを経験する。このプロセスを経て、情報収集能力や分析能力を含め、問題解決能力や論理的思考力を養い、健康科学分野に従事する専門家としての生涯学習の基盤を形成することを目指す。	共同

藍野大学



最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間





- 藍野大学
- 藍野大学と藍野大学短期大学部の共用

全体配置図 1 / 1 5 0 0

日本総合建築デザイン

美しさ 信頼性 そして主張

藍野大学学則

第1章 総 則

(目的)

第1条 藍野大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、学校法人藍野学院創立の精神に基づく人間教育を行い、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする。

(自己点検及び自己評価)

第2条 本学は、教育・研究の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価に必要な細部については、別に定める。

第2章 構 成

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科を置く。

医療保健学部	理学療法学科
	作業療法学科
	臨床工学科
	健康科学科
看護学部	看護学科

(専攻科)

第3条の2 本学に臨床工学専攻科を置く。

2 臨床工学専攻科に関する事項は、別に定める。

(学部及び学科の教育研究上の目的)

第3条の2 医療保健学部は、保健・医療・福祉に係る幅広い知識と技能を教授し、豊かな人間性、倫理観と最良の適応力と創造性を備えた、実践・教育・研究の場で活躍できる保健・医療・福祉人材の育成を目的とする。

(1) 理学療法学科は、人との関わりに重点をおいた教育を行い、医療従事者としての対人能力を育成するとともに、対象者の抱える問題を明確に分析でき、問題解決能力と確かな知識と技術を有するセラピストの育成を目的とする。

(2) 作業療法学科は、作業療法について質の高い専門知識・技能を教授し、豊かな心・技・体を育み、保健・医療・福祉の分野でシンメディカルの理念を実践できる人材の育成を目的とする。

(3) 臨床工学科は、工学と医学の基礎知識に根ざした専門性を身につけることで臨床工学の課題を広い視野にたって総合的に解決できる人材の育成を目的とする。

(4) 健康科学科は、心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関

する専門知識と技能、さらに地域コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることで、様々な健康問題に柔軟に対応し、対象となる個々人のみならず地域コミュニティにおける健康増進に寄与できる人材の育成を目的とする。

2 看護学部は、看護・保健に係る幅広い知識と技能を教授し、豊かな人間性、倫理観と最良の適応力と創造性を備えた、実践・教育・研究の場で活躍できる看護・保健人材の育成を目的とする。

(1) 看護学科は、科学的根拠に基づく看護の専門的能力及び看護の対象となる人間を総合的に理解する能力を有し、看護実践の応用力と問題解決能力を備えた人材の育成を目的とする。

(附置機関)

第4条 本学に次の機関を附置する。

- (1) 藍野大学中央図書館
- (2) 藍野大学中央研究施設
- (3) 藍野大学キャリア開発・研究センター

2 前項各号の機関に関する規程は、別に定める。

(事務局)

第5条 本学に事務局を置く。

2 事務組織及び事務分掌に関する規程は、別に定める。

第3章 学生定員及び修業年限

(学生定員)

第6条 入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

		入学定員	編入学定員	収容定員
医療保健学部	理学療法学科	80名	0名	320名
	作業療法学科	40名	0名	160名
	臨床工学科	30名	0名	120名
	健康科学科	30名	0名	120名
看護学部	看護学科	115名	2名	464名

(3年次)

(修業年限及び在学期間)

第7条 修業年限は4年とする。

2 学生は、休学の期間を除き8年(第26条の規定により、入学した者については同条第2項の規定に定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数)を超えて在学することができない。

第4章 学年・学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第9条 学期を分けて次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで
後期 10月1日から翌年3月31日まで

(授業日数)

第10条 年間の授業日数は定期試験等の期間を含め、原則として35週とする。

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 開学記念日 5月1日
 - (4) 春期休業 3月14日から3月31日まで
 - (5) 夏期休業 8月10日から9月20日まで
 - (6) 冬期休業 12月27日から1月7日まで
- 2 前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目の区分)

第12条 授業科目を分けて、基礎科目、専門基礎科目及び専門科目とする。

- 2 授業科目の種類、単位数、開講年次及び必修、選択科目の別等は、別表1のとおりとする。

(教職課程)

第12条の2 看護学部看護学科に、その教育課程に応じた教育職員免許状授与の所要資格を取得させるための課程を置く。

- 2 前項の免許状の種類は、高等学校教諭1種(看護)及び養護教諭1種とし、授業科目、単位数及び履修方法等は別に定める。

(単位の計算方法)

第13条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については、15～30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技等については、30～45時間をもって1単位とする。
- (4) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じて、前各号に規定する基準を考慮して、教授会の定める時間の授業をもって1単位とする。

(他の大学等における授業科目の履修等)

第13条の2 教授会が教育上有益と認めるときは、他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは外国の短期大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 13 条の 3 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えてはならない。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 13 条の 4 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生制度により修得した単位を含む。）を本学において修得したものと認定することができる。

2 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本学の入学前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学及び再入学の場合を除き、第 13 条の 2 第 1 項及び前条第 1 項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えてはならない。

4 本学に入学した者の既修得単位の認定等に関する事項は、別に定める。

(メディアを利用して行う授業)

第 13 条の 5 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行うものとする。

2 前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

(単位の授与)

第 14 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(追試験)

第 15 条 病気その他本学が認めたやむをえない事由のため、定期試験に欠席した者は、追試験によって単位の修得の認定を受けることができる。

(再試験)

第 16 条 試験の成績が不合格のため、単位の修得認定を受けることができない授業科目については、再試験を行うことがある。

(成績の評価)

第 17 条 授業科目の成績の評価は、AA、A、B、C、Dをもって表し、AA、A、B、Cを合格とし Dを不合格とする。

2 前項の評価は、100 点をもって満点とし、AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満)とする。

3 第 1 項の規定にかかわらず、他大学等において修得した単位を認定する場合は、N (認定)とする。

4 授与又は認定した単位の取消しは、これを認めない。

(委任)

第 18 条 この章に規定するものの他、教育課程及び履修方法等に関し必要な事項は、別に定める。

第 6 章 卒業の要件及び学位

(卒業の要件)

第 19 条 休学期間を除き、本学に 4 年以上(第 26 条の規定により入学を許可された者については、同条第 2 項の規定に定められた在学すべき年数以上) 在学し、次表の単位数を修得した者には教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

学 部	学 科	各科目合計で修得すべき単位数
医療保健学部	理学療法学科 (2012 年度以降入学生)	125 単位以上
	理学療法学科 (2016 年度以降入学生)	126 単位以上
	作業療法学科 (2012 年度以降入学生)	127 単位以上
	作業療法学科 (2020 年度以降入学生)	128 単位以上
	臨床工学科 (2016 年度以降入学生)	130 単位以上
	臨床工学科 (2020 年度以降入学生)	129 単位以上
	健康科学科 (2025 年度以降入学生)	124 単位以上
看護学部	看護学科 (2025 年度以降入学生)	129 単位以上

※ 看護学科編入学生は、別途定める。

2 卒業に必要な単位の修得に関する詳細は、別表 1 に定める。

(学士)

第 20 条 学長は、卒業を認定した者に対して、学士の学位を授与する。

2 学士の学位は、次の区分によるものとし、学位の授与等に関する規定は、藍野大学学位規程に定める。

医療保健学部 学士(理学療法学)、学士(作業療法学)、学士(臨床工学)、学士(健康科学)
看護学部 学士(看護学)

第 7 章 入学・休学及び退学

(入学の時期)

第 21 条 入学、編入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第 22 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に

修了した者。

(6) 文部科学大臣の指定した者。

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第一号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者

(入学の出願)

第 23 条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 前項の書類の提出時期、方法及び提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第 24 条 前条の規定により入学を志願した者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び許可)

第 25 条 前条の規定による選考に合格した者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出すると共に、別に定める納付金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の規定による手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第 26 条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、教授会の議を経て学長は入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者又は中途退学した者。

(2) 短期大学を卒業した者、高等専門学校を卒業した者又は専修学校の専門課程を卒業した者。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した履修科目及び修得した単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が定める。

(転入学)

第 26 条の 2 他の大学に在学している者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考の上、教授会の議を経て、学長は相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第 26 条の 3 第 27 条（退学）の規定により、退学を許可された者で再入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、教授会の議を経て、学長は相当年次に入学を許可することができる。

(退学)

第 27 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第 28 条 疾病その他やむを得ない事情により 2 ヶ月以上就学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 学長は疾病のため就学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第 29 条 休学の期間は、1 年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続きさらに 1 年まで延長することができる。

- 2 休学期間は、通算して 3 年を超えることができない。

- 3 休学期間は、第 7 条第 2 項の在学期間に算入しない。

(復学)

第 30 条 休学の期間が満了したとき又はその期間中に当該休学の事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学するものとする。

第 31 条 削除

(除籍)

第 32 条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 第 7 条第 2 項の規定による在学年限を超えた者。
- (2) 休学の期間が満了し、復学を願い出ない者。
- (3) 第 29 条第 2 項の規定する休学の期間を超えた者。
- (4) 授業料その他学費の納付を怠り、所定の期日までに授業料等の学納金を納入しない者。
- (5) 死亡又は行方不明の届出のあった者。

第 8 章 学 費

(学費)

第 33 条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、学校法人藍野大学学費取扱規程に定める。

- 2 休学した学生については、休学した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。ただし、休学期間が当該期間全域にわたる場合はその期の授業料及び実習実験費は免除する。納入期の単位は、前期と後期の 2 期とし、月割り等の計算はしない。

- 3 復学した学生については、復学した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。納入期の単位は、前期と後期の 2 期とし、月割り等の計算はしない。

- 4 退学し、又は除籍されたとき、若しくは退学の処分を受けた学生については、退学又は除籍した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。納入期の単位は、前期と後期の 2 期とし、月割り等の計算はしない。

(納付金の返還)

第 34 条 既に納付した入学検定料、学費及びその他の納付金は返還しない。ただし、年初に年間学費を納付し、後期全域にわたる休学が認められた場合又は前期中に退学した場合若しくは除籍となった場合は、その限りでない。

(学費の未納)

第 35 条 授業料その他の納付を怠った者は、別に定めるところにより定期試験等の受験を停止し、

又は除籍することがある。

第9章 職員組織

(職員)

第36条 本学に学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員を置く。

2 学長は必要に応じて副学長及び前項のほか必要な職員を置くことができる。

第10章 教授会、運営会議

(教授会)

第37条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。

2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。

3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。

4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。

(運営会議)

第38条 本学に運営会議を置き、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司る。

2 運営会議の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。

第39条 削除

第11章 科目等履修生、聴講生及び外国人学生

(科目等履修生、聴講生)

第40条 本学の一又は複数の授業科目の履修を志願するものについては、授業及び研究に支障をきたさない限りにおいて、選考の上、聴講生又は科目等履修生としてこれを許可することがある。

2 科目等履修生及び聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人学生)

第41条 外国人で入学を志願する者については、選考の上、入学を許可することがある。

2 外国人学生に関して必要な事項は、別に定める。

第12章 賞 罰

(表彰)

第42条 品行方正、かつ、学術優秀な者又は学生として模範的行為があった者については、学長は、教授会の議を経て、これを表彰することができる。

(罰則)

第43条 本学の規則に反し、又は学生としての本分に反した者については、学長は、教授会の議を

経て、懲戒することができる。

- (1) 学業成績不良で成業の見込がないと認められた者。
 - (2) 性行不良で改善の見込がないと認められた者。
 - (3) 正当な理由なくして出席が常でない者。
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者。
- 2 懲戒の種類は、戒告、譴責、停学及び退学とする。
 - 3 前項の停学期間は、在学年限に算入する。
 - 4 懲戒に関する必要な事項は、藍野大学学生懲戒規程に定める。

(学生団体に関すること)

第43条の2 学生の主催する学内団体で本学の精神にもとるもの及び、著しく学内の秩序を乱した
ものに対しては、解散、その他必要措置を命ずることができる。

第13章 公開講座

(公開講座)

第44条 地域住民の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座に関する事項は別に定める。

第12章 雑則

(学則の改廃)

第45条 この学則の改廃は、学長が発議し、理事会の議を経て行う。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 医療保健学部の収容定員は、第6条の規定にかかわらず、平成16年度から平成18年度においては次のとおりとする。

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	計
平成16年度	80名	80名	60名	220名
平成17年度	160名	160名	120名	440名
平成18年度	260名	240名	180名	680名

- 3 この学則うち、第7章第22条については平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。(第36条改正)

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。(第12条第1項、第2項別表1改正)

附 則

この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。(第 9 条改正、第 26 条第 1 項第 3 号削除、同第 2 号改正、第 31 条削除、第 33 条第 1 項改正)

附 則

この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。(第 3 条改正及び第 3 条の 2 追加、第 6 条、第 19 条、第 20 条、第 40 条及び第 41 条改正)

附 則

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(第 4 条、第 11～13 条、第 15～18 条、第 20 条、第 22 条、第 34 条、第 35 条及び第 38 条改正、第 12 条の 2、第 13 条の 2～4 追加)
- 2 第 17 条の成績評価については、平成 23 年度以降の入学生に適用する。

附 則

この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。(第 6 条、第 12 条第 2 項別表 1、第 19 条第 1 項改正)

附 則

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。(第 12 条第 2 項別表 1 改正)

附 則

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。(第 4 条、第 5 条、第 12 条第 2 項別表 1、第 19 条第 1 項改正)

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。(第 12 条第 2 項別表 1、第 27 条、第 37 条第 1 項及び第 3 項改正並びに第 4 項追加並びに第 38 条及び第 39 条削除)

附 則

- 1 この学則は、平成 27 年 9 月 1 日から施行する。(第 26 条の 3、第 38 条改正)
- 2 この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。(第 12 条第 2 項別表 1、第 19 条改正)

附 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。(第 4 条改正)

附 則

- 1 この学則は、平成 29 年 11 月 27 日から施行する。(第 33 条改正)
- 2 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。(第 6 条、第 12 条第 2 項別表 1 改正)

附 則

この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。(第 6 条、第 12 条第 2 項別表 1、第 19 条改正)

附 則

この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。(第 13 条の 5、第 43 条の 2、第 45 条追加、第 43 条改正)

附 則

この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。(第 12 条第 2 項別表 1、第 19 条改正)

附 則

この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。(第 12 条第 2 項別表 1 改正)

附 則

この学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。(第 12 条第 2 項別表 1 改正)

附 則

- 1 この学則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2025 年 3 月 31 日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 2 収容定員は、第 6 条の規定にかかわらず、2025 年度から 2027 年度においては次のとおりとする。

【医療保健学部】	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	臨床工学科	健康科学科
2025 年度	345 名	380 名	160 名	150 名	30 名
2026 年度	230 名	360 名	160 名	140 名	60 名
2027 年度	115 名	340 名	160 名	130 名	90 名
【看護学部】	看護学科				
2025 年度	115 名				
2026 年度	230 名				
2027 年度	347 名（うち 2 名 3 年次編入）				

分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
基 礎 科 目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 7単位 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 計 31単位以上 専門科目 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 129単位以上	
		論理学入門	15			1		1								
		人間学	15			1			1							
		心理学	15			1	1									
		宗教学入門	15			1	1									
		死生学入門	15			1				1						
		統合医療論	15			1				1						
		文化人類学	15			1	1									
		共生社会論	15			1		1								
		人権とジェンダー	15			1		1								
		近畿の歴史と文化	15			1		1								
		法学 ● ★ (○)	30			2	2									
		経済学入門	15			1	1									
		マーケティング論	30			2					2					
		簿記入門	15			1					1					
		フィールドワーク入門	15			1		1								
		ボランティア論	15			1	1									
		国際比較福祉論	15		1	1				1						
		環境と生活	15			1				1						
		発酵学入門	15			1					1					
		数理・データサイエンス・AI入門	15			1		1								
		デジタル・コミュニケーション	30			2				2						
	語学教育科目	英語Ⅰ ● ★ (○)	30	1			1									
		英語Ⅱ ● ★ (○)	30	1				1								
		医療英語Ⅰ	15			1			1							
		医療英語Ⅱ	15			1				1						
		複言語・複文化へのいざないA	15			1	1									
		複言語・複文化へのいざないB	15			1	1									
		複言語・複文化へのいざないC	30			2	2									
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1								
		情報科学Ⅱ	30			1		1								
		数学基礎Ⅰ	30			1	1									
		数学基礎Ⅱ	30			1		1								
		物理学基礎Ⅰ	30			1	1									
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1								
		化学基礎	15			1	1									
		生物学入門	15			1		1								
		再生医療入門	15			1				1						
	初年次教育科目	学びの基盤	30	2			2									
		健康科学	15			1	1									
		コミュニケーション論	15			1	1									
		統計学Ⅰ ○	30	1			1									
		情報科学Ⅰ ● ★ (○)	30	2			2									
		体育講義 ● ★ (○)	30			1		1								
		体育実習 ● ★ (○)	30			1	1									
	その他	国際医療研修	30			1	1									
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専 門 基 礎 科 目	人体の機能と構造	解剖生理学Ⅰ ● ★	30	2			2									
		解剖生理学Ⅱ ● ★	30	2				2								
		生化学 ●	15	1			1									
		代謝栄養学Ⅰ ★	15	1						1						
		代謝栄養学Ⅱ ★	15			1				1						
		薬理学 ● ★	30	2						2						
		微生物学 ● ★	30	2				2								
		病理学 ●	30	2				2								
		病態学Ⅰ（症候論）	30	1					1							
		病態学Ⅱ（病態生理学）	30	1					1							
		病態学Ⅲ（病態臨床学）	30	1						1						
		病態学Ⅳ（病態治療論）	30	1						1						
		臨床検査学	30	1					1							
		基礎医学実習	60	2				2								
	健康支援と社会保障	精神医学概論 ★	30	2				2								
		看護倫理	15	1				1								
		家族看護論	15	1					1							
		がんとターミナルケア	30	2							2					
		ヘルスコミュニケーション	15			1	1									
		医療心理学	15			1	1									
		医療倫理学概論	15	1									1			
		社会保障論	30	1										1		
		医療制度論 ○	30			2	2									
		保健医療福祉行政論Ⅰ ★ ○	30			2							2			
		保健医療福祉行政論Ⅱ ○	30			2								2		
		公衆衛生学 ★ ○	30			2	2									
		疫学 ★ ○	30			2					2					
		保健統計学 ○	30	2				2								
		シン・メディカルⅠ	15	0.5			0.5									
		シン・メディカルⅡ	15	0.5						0.5						
		シン・メディカルⅢ	15	0.5							0.5					
		シン・メディカルⅣ	15	0.5										0.5		
		ホースセラピー	15			1			1							

藍野大学医療保健学部 看護学科（2024年度以降に入学した学生用）															
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎看護	看護学概論 ● ★	30	2			2									
	基礎看護学援助論Ⅰ ● ★	60	2			2									
	基礎看護学援助論Ⅱ ● ★	60	2				2								
	基礎看護学援助論Ⅲ	60	2					2							
	基礎看護学援助論Ⅳ	30	2					2							
	臨床看護総論	15	1				1								
	基礎看護学実習Ⅰ ● ★	45	1			1									
	基礎看護学実習Ⅱ ★	90	2				2								
	看護研究方法論	15	1						1						
	看護管理学	15	1						1						
	国際看護学	15	1						1						
	災害看護学	15	1									1			
	統合看護学実習	90	2									2			
	看護学総合演習	30	1										1		
	国際看護研修	30			1				1						
	卒業研究	90	2										2		
	成人・老年看護	成人看護学概論 ● ★	30	2				2							
		成人看護学援助論Ⅰ ● ★	30	1					1						
		成人看護学援助論Ⅱ ● ★	30	1					1						
		成人看護学演習Ⅰ	30	1						1					
成人看護学演習Ⅱ		30	1						1						
成人看護学実習Ⅰ		90	2							2					
成人看護学実習Ⅱ		90	2							2					
地域・成人看護学実習Ⅰ		45	1							1					
地域・成人看護学実習Ⅱ		45	1							1					
老年看護学概論 ● ★		30	2				2								
老年看護学援助論 ● ★		30	1					1							
老年看護学演習		60	2						2						
老年看護学実習		135	3								3				
地域・老年看護学実習		45	1								1				
母子看護	小児看護学概論 ● ★	30	2				2								
	小児看護学援助論 ● ★	30	1					1							
	小児看護学活動論	30	1						1						
	小児看護学実習 ● ★	90	2							2					
	母性看護学概論 ● ★	30	2				2								
	母性看護学援助論 ● ★	30	1					1							
	母性看護学活動論	30	1						1						
	母性看護学実習	90	2								2				
広域看護	精神看護学概論 ★	30	2				2								
	精神看護学援助論	30	1					1							
	精神看護学活動論	30	1							1					
	精神看護学実習	90	2								2				
	地域・在宅看護学概論 ● ★	30	2				2								
	地域・在宅看護学援助論 ● ★	60	2					2							
	地域・在宅看護学活動論 ● ★	60	2						2						
	地域・在宅看護学実習	90	2								2				
	公衆衛生看護学概論Ⅰ ○	15	1				1								
	公衆衛生看護学概論Ⅱ ○	15			1		1								
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ ○	30			2			2							
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ ○	30			2				2						
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ ○	30			2					2					
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ ○	30			2					2					
教育	公衆衛生看護学統合論 ○	45			3							3			
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ○	180			4								4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ○	45			1								1		
	公衆衛生看護学総合演習 ○	30			1									1	
	看護教育方法Ⅰ ●	30			2			2							
	看護教育方法Ⅱ ●	30			2							2			
	学校保健 ★ ○	30		2			2								
	養護学概論 ★ ○	30			2			2							
	健康相談活動論 ★	60			2					2					
	教育原論 ● ★	30			2	2									
	教職論 ● ★	30		2			2								
	教育社会学 ● ★	30			2		2								
	教育心理学 ● ★	30			2										
	特別支援教育論 ● ★	15			1					1					
	教育課程論 ● ★	30			2			2							
	道德教育の指導法 ★	30			2					2					
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ● ★	30			2				2						
	教育方法論（ICT活用含む） ● ★	30			2				2						
	生徒・進路指導論 ● ★	30			2				2						
	教育相談 ● ★	30			2		2								
教育実習指導 ●	15			1								1			
教育実習 ●	90			2									2		
教職実践演習（高） ●	30			2									2		
養護実習指導 ★	15			1								1			
養護実習 ★	120			4								4			
教職実践演習（養護教諭） ★	30			2									2		

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格、（○）は保健師国家試験受験資格取得者の養護教諭二種取得に関する科目。

藍野大学医療保健学部 看護学科（2022年度以降に入学した学生用）

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 6単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 計 31単位以上 専門科目 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 129単位以上
		論理学入門	15			1		1							
		人間学	15			1			1						
		心理学	15			1	1								
		宗教学入門	15			1	1								
		文化人類学	15			1	1								
		欧米の文化	15			1	1								
		近畿の伝統文化	15			1		1							
		日本史の見方	15			1		1							
		法学 ● ★ (○)	30			2	2								
		経済学入門	15			1	1								
		フィールドワーク入門	15			1		1							
		ボランティア論	15			1	1								
		世界の保健医療	15		1					1					
		国際比較福祉論	15		1					1					
		環境と生活	15			1				1					
		科学技術論	15			1		1							
		発酵学入門	15			1					1				
	語学教育科目	英語Ⅰ ● ★ (○)	30	1			1								
		英語Ⅱ ● ★ (○)	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1					
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1								
		フランス語入門Ⅱ	15			1	1								
		複言語学習のすすめ	30			2	2								
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1							
		情報科学Ⅱ	30			1		1							
		数学基礎Ⅰ	30			1	1								
		数学基礎Ⅱ	30			1		1							
		物理学基礎Ⅰ	30			1	1								
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1							
		化学基礎	15			1	1								
		生物学入門	15			1		1							
		再生医療入門	15			1				1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1								
		コミュニケーション論	15			1	1								
		文章表現法	15			1	1								
		統計学Ⅰ ○	30	1			1								
		情報科学Ⅰ ● ★ (○)	30	2			2								
		体育講義 ● ★ (○)	30			1		1							
		体育実習 ● ★ (○)	30			1	1								
	その他	国際医療研修	30			1	1								
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	人体の機能と構造	解剖生理学Ⅰ ● ★	30	2			2								
		解剖生理学Ⅱ ● ★	30	2				2							
		生化学 ●	15	1			1								
		代謝栄養学Ⅰ ★	15	1						1					
		代謝栄養学Ⅱ ★	15			1				1					
		薬理学 ● ★	30	2						2					
		微生物学 ● ★	30	2				2							
		病理学 ●	30	2				2							
		病態学Ⅰ（症候論）	30	1					1						
		病態学Ⅱ（病態生理学）	30	1					1						
		病態学Ⅲ（病態臨床学）	30	1						1					
		病態学Ⅳ（病態治療論）	30	1						1					
		臨床検査学	30	1					1						
		基礎医学実習	60	2				2							
	健康支援と社会保障	精神医学概論 ★	30	2				2							
		看護倫理	15	1				1							
		家族看護論	15	1						1					
		がんとターミナルケア	30	2							2				
		ヘルスコミュニケーション	15			1	1								
		医療心理学	15			1	1								
		医療倫理学概論	15	1									1		
		社会保障論	30	1										1	
		医療制度論 ○	30			2	2								
		保健医療福祉行政論Ⅰ ★ ○	30			2							2		
		保健医療福祉行政論Ⅱ ○	30			2								2	
		公衆衛生学 ★ ○	30			2	2								
		疫学 ★ ○	30			2					2				
		保健統計学 ○	30		2			2							
		シンメディカルⅠ	15	0.5			0.5								
		シンメディカルⅡ	15	0.5						0.5					
		シンメディカルⅢ	15	0.5							0.5				
		シンメディカルⅣ	15	0.5									0.5		
		ホースセラピー	15			1			1						

藍野大学医療保健学部 看護学科（2022年度以降に入学した学生用）															
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基盤看護	看護学概論 ● ★	30	2			2									
	基礎看護学援助論Ⅰ ● ★	60	2			2									
	基礎看護学援助論Ⅱ ● ★	60	2				2								
	基礎看護学援助論Ⅲ	60	2					2							
	基礎看護学援助論Ⅳ	30	2					2							
	臨床看護総論	15	1				1								
	基礎看護学実習Ⅰ ● ★	45	1			1									
	基礎看護学実習Ⅱ ★	90	2				2								
	看護研究方法論	15	1						1						
	看護管理学	15	1						1						
	国際看護学	15	1						1						
	災害看護学	15	1									1			
	統合看護学実習	90	2									2			
	看護学総合演習	30	1										1		
	国際看護研修	30			1				1						
	卒業研究	90	2										2		
	成人・老年看護	成人看護学概論 ● ★	30	2				2							
		成人看護学援助論Ⅰ ● ★	30	1					1						
		成人看護学援助論Ⅱ ● ★	30	1					1						
成人看護学演習Ⅰ		30	1						1						
成人看護学演習Ⅱ		30	1						1						
成人看護学実習Ⅰ		90	2							2					
成人看護学実習Ⅱ		90	2							2					
地域・成人看護学実習Ⅰ		45	1							1					
地域・成人看護学実習Ⅱ		45	1							1					
老年看護学概論 ● ★		30	2				2								
老年看護学援助論 ● ★		30	1					1							
老年看護学演習		60	2						2						
老年看護学実習		135	3								3				
地域・老年看護学実習		45	1								1				
母子看護	小児看護学概論 ● ★	30	2				2								
	小児看護学援助論 ● ★	30	1					1							
	小児看護学活動論	30	1						1						
	小児看護学実習 ● ★	90	2							2					
	母性看護学概論 ● ★	30	2				2								
	母性看護学援助論 ● ★	30	1					1							
	母性看護学活動論	30	1						1						
	母性看護学実習	90	2							2					
精神看護	精神看護学概論 ★	30	2				2								
	精神看護学援助論	30	1					1							
	精神看護学活動論	30	1						1						
	精神看護学実習	90	2							2					
	地域・在宅看護学概論 ● ★	30	2				2								
	地域・在宅看護学援助論 ● ★	60	2					2							
	地域・在宅看護学活動論 ● ★	60	2						2						
	地域・在宅看護学実習	90	2								2				
	公衆衛生看護学概論Ⅰ ○	15	1				1								
	公衆衛生看護学概論Ⅱ ○	15			1		1								
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ ○	30			2			2							
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ ○	30			2				2						
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ ○	30			2					2					
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ ○	30			2					2					
広域看護	公衆衛生看護学統合論 ○	45			3							3			
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ○	180			4								4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ○	45			1							1			
	公衆衛生看護学総合演習 ○	30			1								1		
	教育	看護教育方法Ⅰ ●	30			2				2					
		看護教育方法Ⅱ ●	30			2							2		
		学校保健 ★ ○	30		2				2						
		養護学概論 ★ ○	30			2				2					
		健康相談活動論 ★	60			2					2				
		教育原論 ● ★	30			2	2								
		教職論 ● ★	30		2			2							
		教育社会学 ● ★	30		2			2							
		教育心理学 ● ★	30			2									
		特別支援教育論 ● ★	15			1					1				
教育課程論 ● ★		30			2			2							
道德教育の指導法 ★		30			2					2					
特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ● ★		30			2				2						
教育方法論（ICT活用含む） ● ★		30			2				2						
生徒・進路指導論 ● ★		30			2				2						
教育相談 ● ★		30			2		2								
教育実習指導 ●		15			1								1		
教育実習 ●		90			2								2		
教職実践演習（高） ●		30			2								2		
養護実習指導 ★		15			1								1		
養護実習 ★	120			4								4			
教職実践演習（養護教諭） ★	30			2								2			

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格、（○）は保健師国家試験受験資格取得者の養護教諭二種取得に関する科目。

藍野大学医療保健学部 看護学科（2020年度以降に入学した学生用）

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 6単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 計 31単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択必修科目4単位以上 計 73単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 127単位以上
		論理学入門	15			1		1							
		人間学	15			1			1						
		心理学	15			1	1								
		宗教学入門	15			1	1								
		文化人類学	15			1	1								
		欧米の文化	15			1	1								
		近畿の伝統文化	15			1		1							
		日本史の見方	15			1		1							
		法学 ● ★ (○)	30			2	2								
		経済学入門	15			1	1								
		フィールドワーク入門	15			1		1							
		ボランティア論	15			1	1								
		世界の保健医療	15		1					1					
		国際比較福祉論	15		1					1					
		環境と生活	15			1				1					
		科学技術論	15			1		1							
		発酵学入門	15			1					1				
	語学教育科目	英語Ⅰ ● ★ (○)	30	1			1								
		英語Ⅱ ● ★ (○)	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1					
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1								
		フランス語入門Ⅱ	15			1	1								
		複言語学習のすすめ	30			2	2								
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1							
		情報科学Ⅱ	30			1		1							
		数学基礎Ⅰ	30			1	1								
		数学基礎Ⅱ	30			1		1							
		物理学基礎Ⅰ	30			1	1								
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1							
		化学基礎	15			1	1								
		生物学入門	15			1		1							
		再生医療入門	15			1				1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1								
		コミュニケーション論	15			1	1								
		文章表現法	15			1	1								
		統計学Ⅰ ○	30	1			1								
		情報科学Ⅰ ● ★ (○)	30	2			2								
		体育講義 ● ★ (○)	30			1		1							
		体育実習 ● ★ (○)	30			1	1								
	その他	国際医療研修	30			1	1								
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	人体の機能と構造	解剖生理学Ⅰ ● ★	30	2			2								
		解剖生理学Ⅱ ● ★	30	2				2							
		生化学 ●	15	1			1								
		代謝栄養学Ⅰ ★	15	1						1					
		代謝栄養学Ⅱ ★	15			1				1					
		薬理学 ● ★	30	2						2					
		微生物学 ● ★	30	2				2							
		病理学 ●	30	2				2							
		病態学Ⅰ（症候論）	30	1						1					
		病態学Ⅱ（病態生理学）	30	1						1					
		病態学Ⅲ（病態臨床学）	30	1							1				
		病態学Ⅳ（病態治療論）	30	1							1				
		臨床検査学	30	1						1					
		基礎医学実習	60	2					2						
	健康支援と社会保障	精神医学概論 ★	30	2				2							
		看護倫理	15	1				1							
		家族看護論	15	1						1					
		がんとターミナルケア	30	2							2				
		ヘルスコミュニケーション	15			1	1								
		医療心理学	15			1	1								
		医療倫理学概論	15	1									1		
		社会保障論	30	1										1	
		医療制度論	30			2	2								
		保健医療福祉行政論Ⅰ ★ ○	30			2							2		
		保健医療福祉行政論Ⅱ ○	15			1								1	
		公衆衛生学 ★ ○	30			2	2								
		疫学 ★ ○	30			2					2				
		保健統計学 ○	30		2			2							
		シンメディカルⅠ	15	0.5			0.5								
		シンメディカルⅡ	15	0.5						0.5					
		シンメディカルⅢ	15	0.5							0.5				
		シンメディカルⅣ	15	0.5										0.5	
		ホースセラピー	15			1			1						

藍野大学医療保健学部 看護学科（2020年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
基礎看護	看護学概論 ● ★	30	2			2								
	基礎看護学援助論Ⅰ ● ★	60	2			2								
	基礎看護学援助論Ⅱ ● ★	60	2				2							
	基礎看護学援助論Ⅲ	60	2					2						
	基礎看護学援助論Ⅳ	30	2					2						
	基礎看護学実習Ⅰ ● ★	45	1				1							
	基礎看護学実習Ⅱ ★	90	2					2						
	看護研究方法論	15	1							1				
	看護管理学	15	1							1				
	国際看護学	15	1							1				
	災害看護学	15	1									1		
	統合看護学実習	90	2									2		
	看護学総合演習	30	1										1	
	国際看護研修	30			1					1				
	卒業研究	90	2										2	
成人・老年看護	成人看護学概論 ● ★	30	2					2						
	成人看護学援助論Ⅰ ● ★	30	1						1					
	成人看護学援助論Ⅱ ● ★	30	1						1					
	成人看護学演習Ⅰ	30	1							1				
	成人看護学演習Ⅱ	30	1							1				
	成人看護学実習Ⅰ	135	3									3		
	成人看護学実習Ⅱ	135	3									3		
	老年看護学概論 ● ★	30	2					2						
	老年看護学援助論 ● ★	30	1						1					
	老年看護学演習	60	2							2				
	老年看護学実習Ⅰ	45	1								1			
	老年看護学実習Ⅱ	135	3									3		
母子看護	小児看護学概論 ● ★	30	2					2						
	小児看護学援助論 ● ★	30	1						1					
	小児看護学活動論	30	1								1			
	小児看護学実習 ● ★	90	2									2		
	母性看護学概論 ● ★	30	2					2						
	母性看護学援助論 ● ★	30	1						1					
	母性看護学活動論	30	1							1				
	母性看護学実習	90	2									2		
専門科目	精神看護学概論 ★	30	2					2						
	精神看護学援助論	30	1						1					
	精神看護学活動論	60	2								2			
	精神看護学実習	90	2									2		
	在宅看護学概論 ● ★	30	2					2						
	在宅看護学援助論 ● ★	30	1								1			
	在宅看護学活動論 ● ★	30	1								1			
	在宅看護学実習	90	2									2		
	公衆衛生看護学概論Ⅰ ○	15	1				1							
	公衆衛生看護学概論Ⅱ ○	15			1		1							
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ ○	30			2			2						
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ ○	30			2				2					
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ ○	30			2					2				
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ ○	30			2						2			
	公衆衛生看護学統合論 ○	45			3								3	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ○	180			4									4
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ○	45			1								1	
	公衆衛生看護学総合演習 ○	30			1									1
広域看護	看護教育方法Ⅰ ●	30			2				2					
	看護教育方法Ⅱ ●	30			2								2	
	学校保健 ★ ○	30		2				2						
	養護学概論 ★ ○	30			2				2					
	健康相談活動論 ★	60			2						2			
	教育原論 ● ★	30			2	2								
	教職論 ● ★	30		2			2							
	教育社会学 ● ★	30		2			2							
	教育心理学 ● ★	30			2		2							
	特別支援教育論 ● ★	15			1					1				
	教育課程論 ● ★	30			2			2						
	道德教育の指導法 ★	30			2					2				
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ● ★	30			2				2					
	教育方法論 ● ★	30			2				2					
	生徒・進路指導論 ● ★	30			2					2				
	教育相談 ● ★	30			2		2							
	教育実習指導 ●	15			1								1	
	教育実習 ●	90			2									2
	教職実践演習（高） ●	30			2									2
	養護実習指導 ★	15			1								1	
	養護実習 ★	120			4								4	
	教職実践演習（養護教諭） ★	30			2									2

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格、
（○）は保健師国家試験受験資格取得者の養護教諭二種取得に関する科目。

藍野大学医療保健学部 看護学科（2019年度以降に入学した学生用）

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1						卒業要件 基礎科目 必修科目 6単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 70単位 選択必修科目4単位以上 計 74単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 129単位以上
		論理学入門	15			1		1	1						
		人間学	15			1	1		1						
		心理学	15			1	1		1						
		宗教学入門	15			1	1		1						
		文化人類学	15			1	1		1						
		欧米の文化	15			1	1		1						
		近畿の伝統文化	15			1		1		1					
		日本史の見方	15			1		1		1					
		法学 ● ★	30			2	2		2						
		経済学入門	15			1	1		1						
		フィールドワーク入門	15			1		1		1					
		ボランティア論	15			1	1		1						
		世界の保健医療	15		1			1		1					
		国際比較福祉論	15		1			1		1					
		環境と生活	15			1		1		1					
		科学技術論	15			1		1		1					
		発酵学入門	15			1					1		1		
		心のサイエンス	15			1	1		1						
		からだの化学と機能	15			1		1		1					
	語学教育科目	英語Ⅰ ● ★	30	1			1								
		英語Ⅱ ● ★	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1					
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1		1						
		フランス語入門Ⅱ	15			1		1		1					
		複言語学習のすすめ	30			2	2		2						
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1		1					
		情報科学Ⅱ	30			1		1		1					
		数学基礎Ⅰ	30			1	1		1						
		数学基礎Ⅱ	30			1		1		1					
		物理学基礎Ⅰ	30			1	1		1						
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1		1					
		化学基礎	15			1	1		1						
		生物学入門	15			1		1		1					
		再生医療入門	15			1		1		1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1		1						
		コミュニケーション論	15			1	1		1						
		文章表現法	15			1	1		1						
		統計学Ⅰ ○	30	1			1								
		情報科学Ⅰ ● ★	30	2			2								
		体育講義 ● ★	30			1		1		1					
		体育実習 ● ★	30			1	1		1						
	その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1	
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ ● ★	30	2			2									
	解剖生理学Ⅱ ● ★	30	2				2								
	生化学 ●	30			1	1									
	臨床生化学	30	1							1					
	代謝栄養学 ★	30	2						2						
	薬理学 ● ★	30	2						2						
	微生物学 ● ★	30	2				2								
	病理学 ●	30	2				2								
	病態学Ⅰ（症候論）	30	1					1							
	病態学Ⅱ（病態生理学）	30	1					1							
	病態学Ⅲ（病態臨床学）	30	1						1						
	病態学Ⅳ（病態治療論）	30	1						1						
	臨床検査学	30	1					1							
	基礎医学実習	60	2				2								
	精神医学概論 ★	30	2				2								
	リハビリテーション総論	30	2				2								
	ターミナルケア	30	2							2					
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1									
	医療心理学	15			1	1									
	医療倫理学	30	2								2				
	社会保障論	30	1									1			
	医療制度論	30			2	2									
	保健福祉行政論Ⅰ ★ ○	30			2						2				
	保健福祉行政論Ⅱ ○	15			1							1			
	公衆衛生学 ★ ○	30			2	2									
	疫学 ★ ○	30			2					2					
	保健統計学 ○	30	2				2								
	シンメディカル論	15	1							1					
	ホースセラピー	15			1			1		1					

藍野大学医療保健学部 看護学科（2019年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	看護学概論 ● ★	30	2			2								
	基礎看護学援助論Ⅰ ● ★	60	2			2								
	基礎看護学援助論Ⅱ ● ★	60	2				2							
	基礎看護学活動論Ⅰ	30	2					2						
	基礎看護学活動論Ⅱ	60	2					2						
	臨床看護総論	30	2						2					
	基礎看護学実習Ⅰ ● ★	45	1				1							
	基礎看護学実習Ⅱ ★	90	2					2						
	成人看護学概論 ● ★	30	2					2						
	成人看護学援助論Ⅰ ● ★	30	1						1					
	成人看護学援助論Ⅱ ● ★	30	1						1					
	成人看護学演習Ⅰ	30	1							1				
	成人看護学演習Ⅱ	30	1							1				
	成人看護学実習Ⅰ	135	3								3			
	成人看護学実習Ⅱ	135	3									3		
	老年看護学概論 ● ★	30	2					2						
	老年看護学援助論 ● ★	30	1						1					
	老年看護学演習	60	2							2				
	老年看護学実習	180	4								4			
	小児看護学概論 ● ★	30	2					2						
	小児看護学援助論 ● ★	30	1						1					
	小児看護学活動論	30	1							1				
	小児看護学実習 ● ★	90	2								2			
	母性看護学概論 ● ★	30	2					2						
	母性看護学援助論 ● ★	30	1						1					
	母性看護学活動論	30	1							1				
	母性看護学実習	90	2								2			
	精神看護学概論 ★	30	2						2					
	精神看護学援助論	30	1					1						
	精神看護学活動論	60	2							2				
	精神看護学実習	90	2								2			
	在宅看護学概論 ● ★	30	2					2						
	在宅看護学援助論 ● ★	30	1							1				
	在宅看護学活動論 ● ★	30	1							1				
	在宅看護学実習	90	2								2			
	統合看護実践論Ⅰ	30	2							2				
	統合看護実践論Ⅱ	30	2									2		
	統合看護学実習	90	2									2		
	看護学総合演習	30	1										1	
	公衆衛生看護学概論 ○	30		2			2							
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ ○	30			2			2						
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ ○	30			2				2					
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ ○	30			2					2				
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ ○	30			2					2				
	公衆衛生看護学活動論Ⅲ ○	30			2							2		
	公衆衛生看護管理論 ○	30			2							2		
	学校保健 ★ ○	30		2				2						
	養護学概論 ★ ○	30			2				2					
	健康相談活動論 ★	60			2					2				
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ○	180			4							4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ○	45			1							1		
	公衆衛生看護学総合演習 ○	30			1								1	
	卒業研究	90	2										2	
教育	教職論 ● ★	30		2			2							
	教育原論 ● ★	30			2	2								
	教育心理学 ● ★	30			2		2							
	教育社会学 ● ★	30		2			2							
	教育課程論 ● ★	30			2			2						
	特別支援教育論 ● ★	15			1				1					
	看護教育方法Ⅰ ●	30			2				2					
	看護教育方法Ⅱ ●	30			2						2			
	道德教育の指導法 ★	30			2					2				
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ● ★	30			2				2					
	教育方法論 ● ★	30			2				2					
	生徒・進路指導論 ● ★	30			2				2					
	教育相談 ● ★	30			2		2							
	教育実習指導 ●	15			1							1		
	教育実習 ●	90			2								2	
	教職実践演習（高） ●	30			2								2	
	教職実践演習（養護教諭） ★	30			2								2	
	養護実習指導 ★	15			1							1		
	養護実習 ★	120			4							4		

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格取得に関する科目。

藍野大学医療保健学部 看護学科（2018年度以降に入学した学生用）

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1						卒業要件 基礎科目 必修科目 6単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 70単位 選択必修科目4単位以上 計 74単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 129単位以上
		論理学入門	15			1		1		1					
		人間学	15			1	1		1						
		心理学	15			1	1		1						
		宗教学入門	15			1	1		1						
		文化人類学	15			1	1		1						
		欧米の文化	15			1	1		1						
		近畿の伝統文化	15			1		1		1					
		日本史の見方	15			1		1		1					
		法学 ● ★	30			2	2		2						
		経済学入門	15			1	1		1						
		フィールドワーク入門	15			1		1		1					
		ボランティア論	15			1	1		1						
		世界の保健医療	15		1			1		1					
		国際比較福祉論	15		1			1		1					
		環境と生活	15			1		1		1					
		科学技術論	15			1		1		1					
		発酵学入門	15			1					1		1		
		心のサイエンス	15			1	1		1						
		からだの化学と機能	15			1		1		1					
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1								
		英語Ⅱ	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1					
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1		1						
		フランス語入門Ⅱ	15			1		1		1					
		複言語学習のすすめ	30			2	2		2						
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1		1					
		情報科学Ⅱ	30			1		1		1					
		数学基礎Ⅰ	30			1	1		1						
		数学基礎Ⅱ	30			1		1		1					
		物理学基礎Ⅰ	30			1	1		1						
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1		1					
		化学基礎	15			1	1		1						
		生物学入門	15			1		1		1					
		再生医療入門	15			1		1		1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1		1						
		コミュニケーション論	15			1	1		1						
		文章表現法	15			1	1		1						
		統計学Ⅰ	30	1			1								
		情報科学Ⅰ	30	2			2								
		体育講義 ● ★	30			1		1		1					
	その他	体育実習 ● ★	30			1	1		1						
		国際医療研修	30			1		1		1		1		1	
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2									
	解剖生理学Ⅱ	30	2				2								
	生化学 ●	30			1	1									
	臨床生化学	30	1							1					
	代謝栄養学	30	2						2						
	薬理学	30	2						2						
	微生物学	30	2				2								
	病理学	30	2				2								
	病態学Ⅰ（症候論）	30	1					1							
	病態学Ⅱ（病態生理学）	30	1					1							
	病態学Ⅲ（病態臨床学）	30	1						1						
	病態学Ⅳ（病態治療論）	30	1						1						
	臨床検査学	30	1					1							
	基礎医学実習	60	2				2								
	精神医学概論	30	2				2								
	リハビリテーション総論	30	2				2								
	ターミナルケア	30	2							2					
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1									
	医療心理学	15			1	1									
	医療倫理学	30	2									2			
	社会保障論	30	1										1		
	医療制度論	30			2	2									
	保健福祉行政論Ⅰ ★ ○	30			2							2			
	保健福祉行政論Ⅱ ○	15			1								1		
	公衆衛生学 ★	30			2	2									
	疫学 ★ ○	30			2					2					
	保健統計学	30	2				2								
	シンメディカル論	15	1							1					
	ホースセラピー	15			1			1		1					

藍野大学医療保健学部 看護学科（2018年度以降に入学した学生用）															
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	看護学概論	30	2			2									
	基礎看護学援助論Ⅰ	60	2			2									
	基礎看護学援助論Ⅱ	60	2				2								
	基礎看護学活動論Ⅰ	30	2					2							
	基礎看護学活動論Ⅱ	60	2					2							
	臨床看護総論	30	2						2						
	基礎看護学実習Ⅰ	45	1				1								
	基礎看護学実習Ⅱ	90	2						2						
	成人看護学概論	30	2					2							
	成人看護学援助論Ⅰ	30	1						1						
	成人看護学援助論Ⅱ	30	1						1						
	成人看護学演習Ⅰ	30	1							1					
	成人看護学演習Ⅱ	30	1							1					
	成人看護学実習Ⅰ	135	3								3				
	成人看護学実習Ⅱ	135	3								3				
	老年看護学概論	30	2					2							
	老年看護学援助論	30	1						1						
	老年看護学演習	60	2							2					
	老年看護学実習	180	4								4				
	小児看護学概論	30	2					2							
	小児看護学援助論	30	1						1						
	小児看護学活動論	30	1							1					
	小児看護学実習	90	2								2				
	母性看護学概論	30	2					2							
	母性看護学援助論	30	1						1						
	母性看護学活動論	30	1							1					
	母性看護学実習	90	2								2				
	精神看護学概論	30	2						2						
	精神看護学援助論	30	1					1							
	精神看護学活動論	60	2							2					
	精神看護学実習	90	2								2				
	在宅看護学概論	30	2					2							
	在宅看護学援助論	30	1							1					
	在宅看護学活動論	30	1							1					
	在宅看護学実習	90	2								2				
	統合看護実践論Ⅰ	30	2							2					
	統合看護実践論Ⅱ	30	2									2			
	統合看護学実習	90	2									2			
	看護学総合演習	30	1										1		
	公衆衛生看護学概論 ○	30		2			2								
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ ○	30			2			2							
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ ○	30			2				2						
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ ○	30			2					2					
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ ○	30			2					2					
	公衆衛生看護学活動論Ⅲ ○	30			2							2			
	公衆衛生看護管理論 ○	30			2							2			
	学校保健 ★ ○	30		2				2							
	養護学概論 ★	30			2				2						
	健康相談活動論 ★	60			2					2					
	公衆衛生看護学実習Ⅰ ○	180			4							4			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ ○	45			1							1			
	公衆衛生看護学総合演習 ○	30			1								1		
	卒業研究	90	2										2		
	教育	教職論 ● ★	30		2			2							
		教育原論 ● ★	30			2	2								
		教育心理学 ● ★	30			2		2							
		教育社会学 ● ★	30		2			2							
		教育課程論 ● ★	30			2			2						
		看護教育方法Ⅰ ●	30			2				2					
		看護教育方法Ⅱ ●	30			2							2		
		道徳教育の研究 ★	30			2					2				
		特別活動の指導 ● ★	30			2				2					
		教育方法論 ● ★	30			2				2					
		生徒・進路指導論 ● ★	30			2				2					
		教育相談 ● ★	30			2		2							
		教育実習指導 ●	15			1					1				
		教育実習 ●	90			2								2	
		教職実践演習（高） ●	30			2								2	
		教職実践演習（養護教諭） ★	30			2								2	
		養護実習指導 ★	15			1							1		
		養護実習 ★	120			4								4	

* ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修。

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修。

医療保健学部 看護学科（3年次編入学生）（2021年度以降編入学生）											
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考	
			必修	選択必修	選択	3年		4年			
						前	後	前	後		
基礎科目	哲学入門	15			1	1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から3単位以上選択 合計 47単位以上 (認定単位数82単位と合せ129単位以上)	
	論理学入門	15			1		1		1		
	人間学	15			1	1		1			
	心理学	15			1	1		1			
	宗教学入門	15			1	1		1			
	文化人類学	15			1	1		1			
	欧米の文化	15			1	1		1			
	近畿の伝統文化	15			1		1		1		
	日本史の見方	15			1		1		1		
	法学 ●	30			2	2		2			
	経済学入門	15			1	1		1			
	フィールドワーク入門	15			1		1		1		
	ボランティア論	15			1	1		1			
	世界の保健医療	15			1		1		1		
	国際比較福祉論	15			1		1		1		
	環境と生活	15			1		1		1		
	科学技術論	15			1		1		1		
	発酵学入門	15			1	1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1			
	からだの化学と機能	15			1		1		1		
	英語Ⅰ	30	1				1				
	英語Ⅱ	30	1					1			
	医療英語Ⅰ	15			1			1			
	医療英語Ⅱ	15			1				1		
	フランス語入門Ⅰ	15			1	1		1			
	フランス語入門Ⅱ	15			1		1		1		
	複言語学習のすすめ	30			2	2		2			
	統計学Ⅱ	30			1		1		1		
	情報科学Ⅱ	30			1		1		1		
	数学基礎Ⅰ	30			1	1		1			
	数学基礎Ⅱ	30			1		1		1		
	物理学基礎Ⅰ	30			1	1		1			
	物理学基礎Ⅱ	30			1		1		1		
	化学基礎	15			1	1		1			
	生物学入門	15			1		1		1		
	再生医療入門	15			1		1		1		
	学びの基盤	15	1				1				
	健康科学	15			1	1		1			
	コミュニケーション論	15			1	1		1			
	文章表現法	15	1					1			
	統計学Ⅰ	30	1				1				
	情報科学Ⅰ	30	2				2				
	体育講義 ●	30			1		1		1		
	体育実習 ●	30			1		1		1		
	国際医療研修	30			1		1		1		
	その他	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から4年前期まで				
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2					
	解剖生理学Ⅱ	30	2				2				
	生化学 ●	30			1	1		1			
	臨床生化学	30	2					2			
	代謝栄養学	30	2				2				
	薬理学	30	2				2				
	微生物学	30	2						2		
	病理学	30	2						2		
	病態学Ⅰ（症候論）										
	病態学Ⅱ（病態生理学）										
	病態学Ⅲ（病態臨床学）										
	病態学Ⅳ（病態治療論）										
	臨床検査学	30			1	1		1			
	基礎医学実習	60			2		2		2		
	精神医学概論										
	リハビリテーション総論	30			2		2		2		
	ターミナルケア	30			2	2		2			
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1		1			
	医療心理学	15			1	1		1			
	医療倫理学	30	2					2			
	社会保障論	30	1						1		
	医療制度論	30			2	2		2			
	保健福祉行政論Ⅰ										
	保健福祉行政論Ⅱ										
	公衆衛生学	30	2			2					
	疫学										
	保健統計学										
	シンメディカル論	15	1					1			
	ホースセラピー	15			1	1		1			

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）を取得する場合は必修

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科（3年次編入学生）（2021年度以降編入学生）											
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考	
			必修	選択必修	選択	3年		4年			
						前	後	前	後		
専門科目	看護学概論	30	2			2					
	基礎看護学援助論Ⅰ	60	2			2					
	基礎看護学援助論Ⅱ	60	2				2				
	基礎看護学活動論Ⅰ	30			2	2		2			
	基礎看護学活動論Ⅱ	60			2	2		2			
	臨床看護総論	30			2		2		2		
	基礎看護学実習Ⅰ	45			1		1		1		
	基礎看護学実習Ⅱ										
	成人看護学概論	30			2	2		2			
	成人看護学援助論Ⅰ	30	1				1				
	成人看護学援助論Ⅱ	30	1				1				
	成人看護学演習Ⅰ	30			1	1		1			
	成人看護学演習Ⅱ	30			1	1		1			
	成人看護学実習Ⅰ										
	成人看護学実習Ⅱ										
	老年看護学概論	30			2	2		2			
	老年看護学援助論	30	1				1				
	老年看護学演習	60			2	2		2			
	老年看護学実習										
	小児看護学概論	30	2			2					
	小児看護学援助論	30	1						1		
	小児看護学活動論	30	1					1			
	小児看護学実習										
	母性看護学概論	30			2	2		2			
	母性看護学援助論	30	1						1		
	母性看護学活動論	30	1					1			
	母性看護学実習										
	精神看護学概論	30			2		2		2		
	精神看護学援助論	30			1	1		1			
	精神看護学活動論	60			2	2		2			
	精神看護学実習										
	在宅看護学概論	30			2	2		2			
	在宅看護学援助論	30			1	1		1			
	在宅看護学活動論	30			1	1		1			
	在宅看護学実習										
	統合看護実践論Ⅰ	30			2	2		2			
	統合看護実践論Ⅱ	30			2	2		2			
	統合看護学実習										
	看護学総合演習										
	公衆衛生看護学概論										
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ										
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ										
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ										
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ										
	公衆衛生看護学活動論Ⅲ										
	公衆衛生看護管理論										
	学校保健										
	養護学概論										
	健康相談活動論										
	公衆衛生看護学実習Ⅰ										
	公衆衛生看護学実習Ⅱ										
	公衆衛生看護学総合演習										
	卒業研究	90	2							2	
	教職論	30			2		2			2	
	教育原論	30			2	2		2			
	教育心理学	30			2		2		2		
	教育社会学	30			2		2		2		
	教育課程論	30			2	2		2			
	特別支援教育論	15			1	1		1			
	看護教育方法Ⅰ	30			2		2		2		
	看護教育方法Ⅱ	30			2			2			
	道德教育の指導法	30			2	2		2			
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	30			2		2		2			
教育方法論	30			2		2		2			
生徒・進路指導論	30			2		2		2			
教育相談	30			2		2		2			
教育実習指導	15			1	1		1				
教育実習	45			2				2			
教職実践演習（高）	30			2				2			
教職実践演習（養護教諭）											
養護実習指導											
養護実習											

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）を取得する場合は必修

藍野大学医療保健学部 理学療法学科（2024年度以降に入学した学生用）

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門			1	1								卒業要件 基礎科目 10単位 必修科目 9単位以上 選択科目 9単位以上 ・教養教育科目・初年次教育科目・その他から6単位以上 ・語学教育科目から1単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 34単位 計 34単位以上 専門科目 必修科目 71単位 計 71単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2単位以上 合計 126単位以上	
		論理学入門			1		1								
		人間学			1				1						
		心理学			1	1									
		宗教学入門			1	1									
		死生学入門			1				1						
		統合医療論			1				1						
		文化人類学			1	1									
		共生社会論			1		1								
		人権とジェンダー			1		1								
		近畿の歴史と文化			1		1								
		法学			2	2									
		経済学入門			1	1									
		マーケティング論			2						2				
		簿記入門			1						1				
		フィールドワーク入門			1		1								
		ボランティア論			1	1									
		国際比較福祉論			1				1						
		環境と生活			1				1						
		発酵学入門			1						1				
		数理・データサイエンス・AI入門			1		1								
		デジタル・コミュニケーション			2				2						
	語学教育科目	英語Ⅰ	1			1									
		英語Ⅱ	1				1								
		医療英語Ⅰ			1				1						
		医療英語Ⅱ			1				1						
		複言語・複文化へのいざないA			1	1									
		複言語・複文化へのいざないB			1	1									
		複言語・複文化へのいざないC			2	2									
	理系基礎科目	統計学Ⅱ			1				1						
		情報科学Ⅱ			1		1								
		数学基礎Ⅰ	1			1									
		数学基礎Ⅱ			1		1								
		物理学基礎Ⅰ	1			1									
		物理学基礎Ⅱ			1		1								
		化学基礎			1	1									
		生物学入門			1		1								
		再生医療入門			1				1						
	初年次教育科目	学びの基盤	2			2									
		健康科学			1	1									
		コミュニケーション論	1				1								
		統計学Ⅰ	1						1						
		情報科学Ⅰ	2			2									
		体育実習			1	1									
	その他	国際医療研修			1	1									
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目	—		1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生体構造論Ⅰ	1			1									
		生体構造論Ⅱ	1			1									
		生体構造論Ⅲ	1				1								
		生体機能論Ⅰ	1			1									
		生体機能論Ⅱ	1			1									
		生体機能論Ⅲ	1				1								
		生体機能構造論実習	1			1									
		機能神経解剖学		2					2						
		運動生理学	1						1						
		スポーツ生理学		1					1						
		運動学	2				2								
		運動学演習	1						1						
		運動学実習	1						1						
		バイオメカニクス	1						1						
		生化学		1			1								
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養薬理学	1						1						
		病理学	2				2								
		腫瘍病理学		1					1						
		内科学Ⅰ	1						1						
		内科学Ⅱ	1						1						
		神経内科学Ⅰ	1						1						
		神経内科学Ⅱ	1						1						
		整形外科Ⅰ	1						1						
		整形外科Ⅱ	1						1						
		精神医学Ⅰ	1						1						
		老年医学	1						1						
		小児科学	1						1						
		公衆衛生学概論	1				1								
		生体計測学	1								1				
		救命救急学	1				1								
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療統計学	1								1				
		リハビリテーション医学	1								1				
		社会福祉論	1						1						
		社会保障論		1			1								
		医療倫理学概論	1						1						
		シン・メディカルⅠ	0.5			0.5									
		シン・メディカルⅡ	0.5						0.5						
		シン・メディカルⅢ	0.5								0.5				
		シン・メディカルⅣ	0.5										0.5		
		接患・接遇法		1					1						
		ホースセラピー		1					1						

藍野大学医療保健学部 理学療法学科（2024年度以降に入学した学生用）															
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	30	1			1								
		体表解剖学演習	30	1				1							
		日常生活活動学演習	30	1						1					
		運動療法学	30	2					2						
		理学療法学総論	30	1						1					
		理学療法管理学	30	2								2			
	理学療法評価学	理学療法評価学	30	2				2							
		理学療法評価学実習	45	1					1						
		臨床推論	30	1						1					
		臨床推論演習	30	1							1				
		理学療法診断論	30	1								1			
	理学療法治療学	物理療法学実習	45	1						1					
		義肢学	30	2						2					
		装具学	30	2							2				
		運動療法学実習	45	1						1					
		運動器理学療法学	30	2							2				
		運動器理学療法学実習	45	1								1			
		脳血管管理学療法学	30	2							2				
		脳血管管理学療法学実習	45	1								1			
		神経筋理学療法学	30	2							2				
		神経筋理学療法学実習	45	1								1			
		呼吸器系理学療法学	30	2							2				
		循環・代謝系理学療法学	30	2							2				
		発達理学療法学	30	2							2				
		地域理学療法学	30	2							2				
		地域理学療法学演習	30	1								1			
		がん理学療法学	30	2							2				
		緩和医療論	15		1							1			
		住環境コーディネーター論	30		2					2					
		スポーツ理学療法論	30		2						2				
		障がい者スポーツ特論	45		1		1								
		パーソナルトレーナー論	30		2			2							
		パーソナルトレーナー実習	45		1				1						
		健康増進論	15		1								1		
		マニュアルセラピー論Ⅰ	30		1							1			
		マニュアルセラピー論Ⅱ	30		1								1		
		再生医療と理学療法	15		1							1			
		支援工学と理学療法	15		1								1		
		理学療法学総合演習	90	2										2	
	臨床実習	臨床見学実習	45	1				1							
		臨床観察実習Ⅰ	45	1					1						
		臨床観察実習Ⅱ	45	1						1					
		臨床評価実習Ⅰ	45	1							1				
		臨床評価実習Ⅱ	180	4								4			
		臨床地域理学療法学実習	45	1									1		
		臨床総合実習	720	16										16	
	理学療法研究	理学療法学研究法演習Ⅰ	30	1							1				
		理学療法学研究法演習Ⅱ	30	1								1			
		卒業研究	90	2										2	

藍野大学医療保健学部 理学療法学科（2020年度以降に入学した学生用）

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 10単位 必修科目 10単位 選択科目 9単位以上 ・教養教育科目・初年次教育科目・その他から6単位以上 ・語学教育科目から1単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 34単位 計 34単位以上 専門科目 必修科目 71単位 計 71単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2単位以上 合計 126単位以上
		論理学入門	15			1		1							
		人間学	15			1				1					
		心理学	15			1	1								
		宗教学入門	15			1	1								
		文化人類学	15			1	1								
		欧米の文化	15			1	1								
		近畿の伝統文化	15			1		1							
		日本史の見方	15			1		1							
		法学	30			2	2								
		経済学入門	15			1	1								
		フィールドワーク入門	15			1		1							
		ボランティア論	15			1	1								
		世界の保健医療	15			1				1					
		国際比較福祉論	15			1				1					
		環境と生活	15			1				1					
		科学技術論	15			1		1							
		発酵学入門	15			1					1				
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1								
		英語Ⅱ	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1					
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1								
		フランス語入門Ⅱ	15			1	1								
		複言語学習のすすめ	30			2	2								
		理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1				1				
			情報科学Ⅱ	30			1		1						
	数学基礎Ⅰ		30	1			1								
	数学基礎Ⅱ		30			1		1							
	物理学基礎Ⅰ		30	1			1								
	物理学基礎Ⅱ		30			1		1							
	化学基礎		15			1	1								
	生物学入門		15			1		1							
	再生医療入門		15			1				1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1								
		コミュニケーション論	15	1				1							
		文章表現法	15	1			1								
		統計学Ⅰ	30	1					1						
		情報科学Ⅰ	30	2			2								
	その他	体育実習	30			1	1								
		国際医療研修	30			1	1								
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—				1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生体構造論Ⅰ	30	1			1								
		生体構造論Ⅱ	30	1			1								
		生体構造論Ⅲ	30	1				1							
		生体機能論Ⅰ	30	1			1								
		生体機能論Ⅱ	30	1			1								
		生体機能論Ⅲ	30	1				1							
		生体機能構造論実習	45	1			1								
		機能神経解剖学	30		2					2					
		運動生理学	30	1					1						
		スポーツ生理学	15		1					1					
		運動学	30	2				2							
		運動学演習	30	1					1						
		運動学実習	45	1						1					
		バイオメカニクス	30	1					1						
		生化学	30		1			1							
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養薬理学	30	1						1					
		病理学	30	2				2							
		腫瘍病理学	15		1						1				
		内科学Ⅰ	30	1					1						
		内科学Ⅱ	30	1						1					
		神経内科学Ⅰ	30	1					1						
		神経内科学Ⅱ	30	1						1					
		整形外科Ⅰ	30	1					1						
		整形外科Ⅱ	30	1						1					
		精神医学Ⅰ	30	1					1						
		老年医学	30	1						1					
		小児科学	30	1						1					
		公衆衛生学概論	15	1				1							
		生体計測学	30	1							1				
		救命救急学	15	1				1							
	医療医療福祉とリハビリテーションの理念	医療統計学	30	1								1			
		リハビリテーション医学	30	1							1				
		社会福祉論	30	1					1						
		社会保障論	30		1			1							
		医療倫理学概論	15	1					1						
		シンメディカルⅠ	15	0.5			0.5								
		シンメディカルⅡ	15	0.5					0.5						
		シンメディカルⅢ	15	0.5						0.5					
		シンメディカルⅣ	15	0.5									0.5		
		接患・接遇法	15		1				1						
		ホースセラピー	15		1				1						

藍野大学医療保健学部 理学療法学科（2020年度以降に入学した学生用）																
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	30	1			1									
		体表解剖学演習	30	1				1								
		日常生活活動学演習	30	1						1						
		運動療法学	30	2					2							
		理学療法学総論	30	1						1						
		理学療法管理学	30	2								2				
	理学療法評価学	理学療法評価学	30	2				2								
		理学療法評価学実習	45	1					1							
		臨床推論	30	1						1						
		臨床推論演習	30	1							1					
		理学療法診断論	30	1								1				
	理学療法治療学	物理療法学実習	45	1						1						
		義肢学	30	2						2						
		装具学	30	2							2					
		運動療法学実習	45	1						1						
		運動器理学療法学	30	2							2					
		運動器理学療法学実習	45	1									1			
		脳血管管理学療法学	30	2								2				
		脳血管管理学療法学実習	45	1									1			
		神経筋理学療法学	30	2								2				
		神経筋理学療法学実習	45	1									1			
		呼吸器系理学療法学	30	2								2				
		循環・代謝系理学療法学	30	2								2				
		小児理学療法学	30	2								2				
		地域理学療法学	30	2								2				
		地域理学療法学演習	30	1									1			
		がん理学療法学	30	2									2			
		緩和医療論	15			1							1			
		住環境コーディネーター論	30			2					2					
		スポーツ理学療法論	30			2						2				
		障がい者スポーツ特論	45			1		1								
		パーソナルトレーナー論	30			2			2							
		パーソナルトレーナー実習	45			1				1						
		健康増進論	15			1								1		
		マニュアルセラピー論Ⅰ	30			1							1			
		マニュアルセラピー論Ⅱ	30			1								1		
		再生医療と理学療法	15			1							1			
		支援工学と理学療法	15			1								1		
		理学療法学総合演習	90	2											2	
		臨床実習	臨床見学実習	45	1				1							
			臨床観察実習Ⅰ	45	1					1						
			臨床観察実習Ⅱ	45	1						1					
			臨床評価実習Ⅰ	45	1							1				
	臨床評価実習Ⅱ		180	4									4			
	臨床地域理学療法学実習		45	1									1			
	臨床総合実習		720	16										16		
	理学療法研究	理学療法学研究法演習Ⅰ	30	1							1					
		理学療法学研究法演習Ⅱ	30	1								1				
		卒業研究	90	2										2		

藍野大学医療保健学部 作業療法学科（2024年度以降に入学した学生用）															
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 9単位 選択科目 10単位以上 ・教養教育科目から5単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 33単位 選択必修科目 2単位以上 計 35単位以上 専門科目 必修科目 70単位 選択科目 4単位以上 計 74単位以上 合計 128単位以上	
	論理学入門	15			1		1								
	人間学	15			1				1						
	心理学	15			1	1									
	宗教学入門	15			1	1									
	死生学入門	15			1				1						
	統合医療論	15			1				1						
	文化人類学	15			1	1									
	共生社会論	15			1		1								
	人権とジェンダー	15			1		1								
	近畿の歴史と文化	15			1		1								
	法学	30			2	2									
	経済学入門	15			1	1									
	マーケティング論	30			2					2					
	簿記入門	15			1					1					
	フィールドワーク入門	15			1		1								
	ボランティア論	15			1	1									
	国際比較福祉論	15			1				1						
	環境と生活	15			1				1						
	発酵学入門	15			1					1					
	数理・データサイエンス・AI入門	15			1		1								
	デジタル・コミュニケーション	30			2				2						
	英語Ⅰ	30	1			1									
	英語Ⅱ	30	1				1								
	医療英語Ⅰ	15			1			1							
	医療英語Ⅱ	15			1				1						
	複言語・複文化へのいざないA	15			1	1									
	複言語・複文化へのいざないB	15			1	1									
	複言語・複文化へのいざないC	30			2	2									
	統計学Ⅱ	30			1				1						
	情報科学Ⅱ	30			1		1								
	数学基礎Ⅰ	30	1			1									
	数学基礎Ⅱ	30			1		1								
	物理学基礎Ⅰ	30			1	1									
	物理学基礎Ⅱ	30			1		1								
	化学基礎	15			1	1									
	生物学入門	15			1		1								
	再生医療入門	15			1				1						
	初年次教育科目	学びの基盤	30	2			2								
	健康科学	15			1	1									
	コミュニケーション論	15	1				1								
	統計学Ⅰ	30	1					1							
	情報科学Ⅰ	30	2			2									
	体育実習	30			1	1									
	国際医療研修	30			1	1									
	その他	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目	—		1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生体構造論Ⅰ	30	1			1								
	生体構造論Ⅱ	30	1			1									
	生体構造論Ⅲ	30	1				1								
	生体機能論Ⅰ	30	1			1									
	生体機能論Ⅱ	30	1			1									
	生体機能論Ⅲ	30	1				1								
	機能神経解剖学	30	2						2						
	基礎運動学	30	2						2						
	基礎運動学実習	30	1						1						
	バイオメカニクス	30	1						1						
	生化学	30		1			1								
	栄養薬理学	30	1						1						
	病理学	30	2						2						
	内科学Ⅰ	30	1						1						
	内科学Ⅱ	30	1						1						
	神経内科学Ⅰ	30	1						1						
	神経内科学Ⅱ	30	1						1						
	整形外科科学Ⅰ	30	1						1						
	整形外科科学Ⅱ	30	1						1						
	精神医学Ⅰ	30	1						1						
	精神医学Ⅱ	30	1						1						
	老年医学	30	1						1						
	小児科学	30	1						1						
	救命救急学	15	1				1								
	生体機能計測論	15	1							1					
	臨床心理学	30	1				1								
	住環境コーディネート論	30		2						2					
	ヘルスプロモーション	30	1										1		
	メンタルヘルス論	30		2						2					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	30	1			1								
	社会保障論	30	1						1						
	社会福祉論	30		1			1								
	シン・メディカルⅠ	15	0.5			0.5									
	シン・メディカルⅡ	15	0.5						0.5						
	シン・メディカルⅢ	15	0.5							0.5					
	シン・メディカルⅣ	15	0.5										0.5		
	接患・接遇法	15		1					1						
	ホースセラピー	15		1					1						

藍野大学医療保健学部 作業療法学科（2024年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
基礎 作業療法学	作業療法学総論	30	1			1								
	基礎作業学	30	1			1								
	基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2								
	基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2							
	保健医療福祉実習	30	1			1								
	作業療法管理学	30	2						2					
作業療法評価学	作業療法評価学総論	30	1				1							
	発達過程評価学演習	60	2					2						
	身体機能評価学演習	60	2					2						
	精神心理評価学演習	60	2					2						
	作業療法評価学演習Ⅰ	30	1						1					
	作業療法評価学演習Ⅱ	30	1							1				
専門 科目 作業療法治療学	作業療法治療学総論	30	1				1							
	作業療法治療学演習	30	1								1			
	発達過程治療学	30	1						1					
	発達過程治療学演習	30	1							1				
	精神心理治療学演習Ⅰ	60	2						2					
	精神心理治療学演習Ⅱ	30	1							1				
	身体障害治療学演習Ⅰ	60	2						2					
	身体障害治療学演習Ⅱ	60	2							2				
	身体障害治療学演習Ⅲ	30	1							1				
	身体障害治療学演習Ⅳ	60	2							2				
	身体障害治療学演習Ⅴ	30	1							1				
	日常生活・環境作業療法学演習	60	2							2				
	高齢期作業療法学	30	1					1						
	地域作業療法学Ⅰ	30	2								2			
	地域作業療法学Ⅱ	30	2								2			
	作業療法研究法	30	1								1			
	卒業研究	90	2										2	
	特別支援教育特論	30				1			1					
	保育学入門	45			2				2					
	脳・認知科学作業療法論	30			1								1	
	作業療法と認知症	30			1				1					
	作業療法と認知症演習	30			1						1			
	義肢・装具学	30	1								1			
	スポーツ作業療法論	30			1				1					
	機能神経解剖学演習	30			1				1					
	職業的作業療法論	15			1				1					
作業療法学総合演習	30	1										1		
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	45	1				1							
	臨床見学実習Ⅱ	45	1				1							
	臨床評価実習Ⅰ	90	2						2					
	臨床評価実習Ⅱ	270	6								6			
	臨床地域作業療法実習	45	1								1			
	総合臨床実習Ⅰ	315	7									7		
総合臨床実習Ⅱ	315	7									7			

藍野大学医療保健学部 作業療法学科（2020年度以降に入学した学生用）

分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択科目 11単位以上 ・教養教育科目から5単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から2単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 選択必修科目 4単位以上 計 35単位以上 専門科目 必修科目 70単位 選択科目 4単位以上 計 74単位以上 合計 128単位以上	
		論理学入門	15			1		1								
		人間学	15			1				1						
		心理学	15			1	1									
		宗教学入門	15			1	1									
		文化人類学	15			1	1									
		欧米の文化	15			1	1									
		近畿の伝統文化	15			1		1								
		日本史の見方	15			1		1								
		法学	30			2	2									
		経済学入門	15			1	1									
		フィールドワーク入門	15			1		1								
		ボランティア論	15			1	1									
		世界の保健医療	15			1				1						
		国際比較福祉論	15			1				1						
		環境と生活	15			1				1						
		科学技術論	15			1		1								
		発酵学入門	15			1					1					
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1									
		英語Ⅱ	30	1				1								
		医療英語Ⅰ	15			1			1							
		医療英語Ⅱ	15			1				1						
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1									
		フランス語入門Ⅱ	15			1	1									
		複言語学習のすすめ	30			2	2									
		理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1				1					
	情報科学Ⅱ		30			1		1								
	数学基礎Ⅰ		30	1			1									
	数学基礎Ⅱ		30			1		1								
	物理学基礎Ⅰ		30			1	1									
	物理学基礎Ⅱ		30			1		1								
	化学基礎		15			1	1									
	生物学入門		15			1		1								
	再生医療入門	15			1				1							
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1									
		健康科学	15			1	1									
		コミュニケーション論	15	1				1								
		文章表現法	15			1	1									
		統計学Ⅰ	30	1					1							
		情報科学Ⅰ	30	2			2									
		体育実習	30			1	1									
		国際医療研修	30			1	1									
	その他	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—		1 または 2	1年前期から4年前期まで										
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生体構造論Ⅰ	30	1			1									
		生体構造論Ⅱ	30	1			1									
		生体構造論Ⅲ	30	1				1								
		生体機能論Ⅰ	30	1			1									
		生体機能論Ⅱ	30	1			1									
		生体機能論Ⅲ	30	1				1								
		機能神経解剖学	30	2					2							
		基礎運動学	30	2					2							
		基礎運動学実習	30	1						1						
		バイオメカニクス	30	1					1							
		生化学	30		1			1								
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養薬理学	30	1						1						
		病理学	30		2					2						
		内科学Ⅰ	30	1					1							
		内科学Ⅱ	30	1						1						
		神経内科学Ⅰ	30	1						1						
		神経内科学Ⅱ	30	1							1					
		整形外科Ⅰ	30	1					1							
		整形外科Ⅱ	30	1						1						
		精神医学Ⅰ	30	1					1							
		精神医学Ⅱ	30	1						1						
		老年医学	30	1						1						
		小児科学	30	1						1						
		救命救急学	15	1				1								
		生体機能計測論	15	1							1					
		臨床心理学	30	1				1								
		住環境コーディネート論	30		2						2					
	ヘルスプロモーション	30	1										1			
	メンタルヘルス論	30		2							2					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	30	1				1								
		社会保障論	30	1						1						
		社会福祉論	30		1			1								
		シンメディカルⅠ	15	0.5				1								
		シンメディカルⅡ	15	0.5						1						
		シンメディカルⅢ	15	0.5							1					
		シンメディカルⅣ	15	0.5										1		
		接患・接遇法	15		1				1							
		ホースセラピー	15		1				1							

藍野大学医療保健学部 作業療法学科（2020年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学総論	30	1			1							
	基礎作業学	30	1			1								
	基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2								
	基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2							
	保健医療福祉実習	30	1			1								
	作業療法管理学	30	2							2				
	作業療法評価学総論	30	1				1							
	発達過程評価学演習	60	2					2						
	身体機能評価学演習	60	2					2						
	精神心理評価学演習	60	2					2						
	作業療法評価学演習Ⅰ	45	1					1						
	作業療法評価学演習Ⅱ	45	1							1				
	日常生活・環境評価学演習	60	2							2				
	作業療法治療学総論	30	1					1						
	作業療法治療学演習	45	1								1			
	発達過程作業療法治療学	30	1						1					
	発達過程作業療法治療学演習	60	2							2				
	精神心理作業療法治療学演習Ⅰ	60	2						2					
	精神心理作業療法治療学演習Ⅱ	30	1							1				
	中枢性疾患作業療法治療学演習Ⅰ	60	2						2					
	中枢性疾患作業療法治療学演習Ⅱ	30	1							1				
	中枢性疾患作業療法治療学演習Ⅲ	30	1							1				
	骨・関節疾患作業療法治療学演習	60	2							2				
	神経筋・内部疾患作業療法治療学演習	30	1							1				
	日常生活・環境作業療法学演習	60	2							2				
	高齢期作業療法学	30	1					1						
	地域作業療法学	30	2								2			
	地域作業療法学演習	60	2								2			
	作業療法研究法	30	1								1			
	卒業研究	90	2									2		
	特別支援教育特論	30				1							1	
	脳・認知科学作業療法論	30			1			1						
	作業療法と認知症	30			1				1					
	作業療法と認知症演習	30			1					1				
	高次脳機能障害作業療法	30			1						1			
	義肢・装具学	30	1							1				
	スポーツ作業療法論	30			1				1					
	機能神経解剖学演習	30			1							1		
	職業的作業療法論	15			1								1	
	作業療法学総合演習	30	1										1	
	臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	45	1				1						
	臨床実習	臨床見学実習Ⅱ	45	1				1						
	臨床実習	臨床評価実習Ⅰ	90	2					2					
	臨床実習	臨床評価実習Ⅱ	270	6							6			
	臨床実習	臨床地域作業療法実習	45	1							1			
	臨床実習	総合臨床実習Ⅰ	270	6								6		
	臨床実習	総合臨床実習Ⅱ	270	6								6		

藍野大学医療保健学部 作業療法学科（2019年度以降に入学した学生用）															
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	哲学入門	15			1	1		1						卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択科目 11単位以上 ・教養教育科目から5単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から2単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 2単位以上 計 35単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択科目 4単位以上 計 73単位以上 合計 127単位以上	
	論理学入門	15			1		1	1							
	人間学	15			1		1	1							
	心理学	15	1			1									
	宗教学入門	15			1	1		1							
	文化人類学	15			1	1		1							
	欧米の文化	15			1	1		1							
	近畿の伝統文化	15			1		1	1							
	日本史の見方	15			1		1	1							
	法学	30			2	2		2							
	経済学入門	15			1	1		1							
	フィールドワーク入門	15			1		1	1							
	ボランティア論	15			1	1		1							
	世界の保健医療	15			1		1	1							
	国際比較福祉論	15			1		1	1							
	環境と生活	15			1		1	1							
	科学技術論	15			1		1	1							
	発酵学入門	15			1					1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1							
	からだの化学と機能	15			1		1	1							
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1								
		英語Ⅱ	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1			1						
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1		1						
		フランス語入門Ⅱ	15			1		1	1						
		複言語学習のすすめ	30			2	2		2						
		理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1				1				
	情報科学Ⅱ		30			1		1		1					
	数学基礎Ⅰ		30	1			1								
	数学基礎Ⅱ		30			1		1		1					
	物理学基礎Ⅰ		30			1	1		1						
	物理学基礎Ⅱ		30			1		1	1						
	化学基礎		15			1	1		1						
	生物学入門		15			1		1	1						
	再生医療入門		15			1		1	1						
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1		1						
		コミュニケーション論	15			1		1		1					
		文章表現法	15			1	1		1						
		統計学Ⅰ	30	1					1						
		情報科学Ⅰ	30	2			2								
		体育実習	30			1	1		1						
	その他	国際医療研修	30			1		1		1		1			1
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	生体構造論Ⅰ	30	1			1									
	生体構造論Ⅱ	30	1			1									
	生体構造論Ⅲ	30	1				1								
	生体機能論Ⅰ	30	1			1									
	生体機能論Ⅱ	30	1			1									
	生体機能論Ⅲ	30	1				1								
	生体機能構造論実習Ⅰ	45	1				1								
	生体機能構造論実習Ⅱ	45	1			1									
	生体機能構造論実習Ⅲ	45	1				1								
	機能神経解剖学	30		2					2						
	基礎運動学	30	1					1							
	基礎運動学実習	30	1						1						
	バイオメカニクス	30			1				1						
	生化学	30			1		1								
	栄養学	30			2				2						
	薬理学	30			2				2						
	病理学	30		2					2						
	リハビリテーション医学	30	1				1								
	内科学Ⅰ	30	1					1							
	内科学Ⅱ	30	1						1						
	神経内科学Ⅰ	30	1						1						
	神経内科学Ⅱ	30	1							1					
	整形外科Ⅰ	30	1						1						
	整形外科Ⅱ	30	1							1					
	精神医学Ⅰ	30	2						2						
	精神医学Ⅱ	30	2							2					
	老年医学	30	1							1					
	小児科学	30	1							1					
	医療倫理学	30	2						2						
	医療心理学	15	1				1								
	臨床心理学	30	1					1							
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1									
	メンタルヘルス論	30			2						2				
	社会保障論	30	1							1					
	社会福祉論	30	1					1							
	住環境論	30		2							2				
	シメディカル論	15	1								1				
	接患・接遇法	15		1					1						
	ホースセラピー	15			1				1		1				

藍野大学医療保健学部 作業療法学科（2019年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	作業療法学総論	30	2			2								
	基礎作業学	30	2			2								
	基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2								
	基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2							
	作業療法評価学総論	30	2				2							
	発達過程評価学演習	60	2					2						
	身体機能評価学演習	60	2					2						
	心理社会評価学演習	60	2					2						
	生活環境評価学演習	30	1							1				
	作業療法治療学総論	30	2				2							
	乳幼児期作業療法学演習	60	2						2					
	学童青年期作業療法学	30	2							2				
	心理社会作業療法学	30	2							2				
	心理社会作業療法学演習	60	2						2					
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅰ	60	2						2					
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	60	2							2				
	整形疾患作業療法学演習	60	2							2				
	特定・内部疾患作業療法学	30	2							2				
	高齢期作業療法学	30	2							2				
	作業療法臨床分析学演習	30	1							1				
	地域作業療法学	30	2							2				
	地域作業療法学演習	30	1									1		
	地域作業療法臨床実習	45	1									1		
	作業療法研究法	30	2							2				
	作業療法研究実習	90	2										2	
	作業療法学総合演習	30	1										1	
	対人関係特論	30				2			2					
	障害と犯罪心理	30				2					2			
	特別支援教育特論	30				2								2
	精神障害ケアマネジメント論	30				2								2
	認知神経作業療法特論	30				2					2			
	作業療法と倫理	30				2			2					
	福祉用具特論	30				2								2
	作業療法と認知症	30				2							2	
	集団作業療法特論	30				2				2				
	高次脳機能特論	30				2								2
	義肢・装具特論	30				2								2
	ハンドセラピー特論	30				2								2
	障害者スポーツ特論	30				2								2
	解剖運動学特論	30				2								2
	保健医療福祉実習	30	1				1							
	臨床実習Ⅰ	45	1					1						
	臨床実習Ⅱ	45	1						1					
	臨床実習Ⅲ	135	3									3		
	臨床実習Ⅳ	360	8									8		
	臨床実習Ⅴ	360	8										8	

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2024年度以降に入学した学生用）																
分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 11単位 選択科目 11単位以上 ・教養教育科目から8単位以上 （ただし、「文化人類学」「共生社会論」「人権とジェンダー」「近畿の歴史と文化」「法学」「経済学入門」「マーケティング論」「簿記入門」「フィールドワーク入門」「ボランティア論」のうち1単位以上を選択） ・語学教育から1単位以上 ・理系基礎・初年次教育科目・その他から2単位以上 小計 22単位以上 専門基礎科目 必修科目 41単位 選択必修科目 5単位以上 ・1年次配当科目から 2単位以上 ・2-3年次配当科目から3単位以上 小計 46単位以上 専門科目 必修科目 61単位 小計 61単位 合計 129単位以上	
		論理学入門	15			1		1								
		人間学	15			1				1						
		心理学	15			1		1								
		宗教学入門	15			1	1									
		死生学入門	15			1				1						
		統合医療論	15			1				1						
		文化人類学	15			1	1									
		共生社会論	15			1		1								
		人権とジェンダー	15			1		1								
		近畿の歴史と文化	15			1		1								
		法学	30			2	2									
		経済学入門	15			1	1									
		マーケティング論	30			2						2				
		簿記入門	15			1						1				
		フィールドワーク入門	15			1		1								
		ボランティア論	15			1	1									
		国際比較福祉論	15			1				1						
		環境と生活	15			1				1						
		発酵学入門	15			1						1				
	理系基礎科目	数理・データサイエンス・AI入門	15			1		1								
		デジタル・コミュニケーション	30			2				2						
		英語Ⅰ	30	1			1									
		英語Ⅱ	30	1				1								
		医療英語Ⅰ	15			1				1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1						
		複言語・複文化へのいざないA	15			1	1									
		複言語・複文化へのいざないB	15			1	1									
		複言語・複文化へのいざないC	30			2	2									
	初年次教育科目	統計学Ⅱ	30			1		1								
		数学基礎Ⅰ	30	1			1									
		数学基礎Ⅱ	30	1				1								
		物理学基礎Ⅰ	30	1			1									
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1								
		化学基礎	15	1			1									
		生物学入門	15			1		1								
		再生医療入門	15			1				1						
	その他	国際医療研修	30			1	1									
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	医学分野（基礎）	解剖学Ⅰ	30	2			2									
		解剖学Ⅱ	30	2				2								
		生理学Ⅰ	30	2			2									
		生理学Ⅱ	30	2				2								
		生理学実習	30	1					1							
		医学概論	30	1			1									
		病理学概論	30	1					1							
		臨床生化学	30	1					1							
		感染症・免疫学	30	1						1						
		臨床薬理学	30	1					1							
		公衆衛生学	30	2				2								
		臨床支援技術学	30	1					1							
	工学分野	数学基礎演習Ⅰ	30		1		1									
		数学基礎演習Ⅱ	30		1			1								
		物理学基礎演習	30		1			1								
		数学	30	2					2							
		物理学	30	2					2							
		基礎工学実習	30		1				1							
		工学解析基礎	15		1					1						
		システム・制御工学	30	2						2						
		情報科学Ⅱ	30	1			1									
		情報処理技術入門	15		1						1					
		センシング技術入門	15		1							1				
		情報科学実習	60	2					2							
	医用機器学分野（基礎）	機械工学Ⅰ	30	2					2							
		機械工学Ⅱ	15		1						1					
		機械工学実習	60	2						2						
		電気工学Ⅰ	30	1				1								
		電気工学Ⅱ	30	1					1							
		電気工学実習	60	2						2						
		電子工学Ⅰ	30	1						1						
		電子工学Ⅱ	30	1							1					
		電子工学実習	60	2							2					
		計測論	30	1					1							
		ホースセラピー	15			1			1							
		シン・メディカルⅠ	15	0.5			0.5									
	保健医療福祉分野（基礎）	シン・メディカルⅡ	15	0.5					0.5							
		シン・メディカルⅢ	15	0.5							0.5					
		シン・メディカルⅣ	15	0.5										0.5		
		社会保障論	30			1								1		
	医療倫理学分野（基礎）	医療倫理学概論	15		1			1								

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2024年度以降に入学した学生用）															
分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	医学分野（臨床）	臨床医学外科総論	30	2								2			
		臨床医学内科総論	30	2					2						
		呼吸器病態学	15	1						1					
		循環器病態学	15	1						1					
		腎泌尿器病態学	15	1						1					
		麻酔集中治療医学	15	1							1				
	生体医工学分野	バイオメカニクス	30	2								2			
		生体物性工学	30	2						2					
		医用材料工学	30	2					2						
		臨床工学概論Ⅰ	30	1			1								
		臨床工学概論Ⅱ	30	1				1							
	生体機能代行装置学分野（臨床）	人工心肺制御学Ⅰ	30	2							2				
		人工心肺制御学Ⅱ	30	2								2			
		人工呼吸制御学Ⅰ	30	2							2				
		人工呼吸制御学Ⅱ	30	2								2			
		血液浄化療法学Ⅰ	30	2							2				
		血液浄化療法学Ⅱ	30	2								2			
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	30	1							1				
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	30	1								1			
		手術実践実習	30	1								1			
	医用機器学分野（臨床）	生体計測装置学Ⅰ	30	2						2					
		生体計測装置学Ⅱ	30	2							2				
		生体計測機器学実習	30	1								1			
		心血管カテーテル治療学	30	2								2			
		医用治療機器学Ⅰ	30	2						2					
		医用治療機器学Ⅱ	30	2							2				
		医用治療機器学実習	30	1								1			
	医用機器安全管理学分野	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2							2				
		医用機器安全管理学Ⅱ	30	2								2			
		医用機器安全管理学実習	30	1									1		
		臨床工学関連法規	15	1									1		
	生涯学習のための取り組み	臨床工学演習Ⅰ	30			1			1						
		臨床工学演習Ⅱ	30			1					1				
		臨床工学特論	30	1									1		
		臨床工学総合演習	30	1										1	
		臨床工学特別演習	45	1								1			
		卒業研究	90	2										2	
	統合分野	臨床実習講義	30	2									2		
		臨床実習Ⅰ	40	1										1	
		臨床実習Ⅱ	40	1										1	
		臨床実習Ⅲ	40	1										1	
		臨床実習Ⅳ	40	1										1	
		臨床実習Ⅴ	40	1										1	

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2023年度以降に入学した学生用）															
分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1								卒業要件 基礎科目 必修科目 10単位 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から8単位以上 ・語学教育から1単位以上 ・理系基礎・初年次教育科目・その他から3単位以上 小計 22単位以上 専門基礎科目 必修科目 41単位 選択必修科目 5単位以上 ・1年次配当科目から 2単位以上 ・2-3年次配当科目から3単位以上 小計 46単位以上 専門科目 必修科目 61単位 小計 61単位 合計 129単位以上
		論理学入門	15			1		1							
		人間学	15			1				1					
		心理学	15			1		1							
		宗教学入門	15			1	1								
		文化人類学	15			1	1								
		欧米の文化	15			1	1								
		近畿の伝統文化	15			1		1							
		日本史の見方	15			1		1							
		法学	30			2	2								
		経済学入門	15			1	1								
		フィールドワーク入門	15			1		1							
		ボランティア論	15			1	1								
		世界の保健医療	15			1				1					
		国際比較福祉論	15			1				1					
		環境と生活	15			1				1					
		科学技術論	15			1		1							
		発酵学入門	15			1						1			
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1								
		英語Ⅱ	30	1				1							
		医療英語Ⅰ	15			1			1						
		医療英語Ⅱ	15			1				1					
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1								
		フランス語入門Ⅱ	15			1	1								
		複言語学習のすすめ	30			2	2								
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1							
		数学基礎Ⅰ	30	1			1								
		数学基礎Ⅱ	30	1				1							
		物理学基礎Ⅰ	30	1			1								
		物理学基礎Ⅱ	30			1		1							
		化学基礎	15	1			1								
		生物学入門	15			1		1							
		再生医療入門	15			1				1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								
		健康科学	15			1	1								
		コミュニケーション論	15			1	1								
		文章表現法	15			1	1								
		統計学Ⅰ	30	1			1								
		情報科学Ⅰ	30	2			2								
		体育実習	30			1	1								
	その他	国際医療研修	30			1	1								
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで								
専門基礎科目	医学分野（基礎）	解剖学Ⅰ	30	2			2								
		解剖学Ⅱ	30	2				2							
		生理学Ⅰ	30	2			2								
		生理学Ⅱ	30	2				2							
		生理学実習	30	1					1						
		医学概論	30	1			1								
		病理学概論	30	1					1						
		臨床生化学	30	1					1						
		感染症・免疫学	30	1						1					
		臨床薬理学	30	1					1						
		公衆衛生学	30	2				2							
		臨床支援技術学	30	1					1						
	工学分野	数学基礎演習Ⅰ	30		1		1								
		数学基礎演習Ⅱ	30		1			1							
		物理学基礎演習	30		1			1							
		数学	30	2					2						
		物理学	30	2					2						
		基礎工学実習	30		1				1						
		工学解析基礎	15		1					1					
		システム・制御工学	30	2						2					
		情報科学Ⅱ	30	1			1								
		情報処理技術入門	15		1							1			
		センシング技術入門	15		1								1		
		情報科学実習	60	2					2						
	医工連携分野（基礎）	機械工学Ⅰ	30	2					2						
		機械工学Ⅱ	15		1						1				
		機械工学実習	60	2						2					
		電気工学Ⅰ	30	1				1							
	医用機器学分野（基礎）	電気工学Ⅱ	30	1					1						
		電気工学実習	60	2						2					
		電子工学Ⅰ	30	1						1					
		電子工学Ⅱ	30	1							1				
	医工連携分野（基礎）	電子工学実習	60	2							2				
		計測論	30	1					1						
	医工連携分野（基礎）	ホースセラピー	15			1			1						
		シンメディカルⅠ	15	0.5			1								
		シンメディカルⅡ	15	0.5						1					
		シンメディカルⅢ	15	0.5							1				
	医工連携分野（基礎）	シンメディカルⅣ	15	0.5										1	
		社会保障論	30			1								1	
	医工連携分野（基礎）	医療倫理学概論	15		1			1							

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2023年度以降に入学した学生用）															
分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	医学分野（臨床）	臨床医学外科総論	30	2								2			
		臨床医学内科総論	30	2				2							
		呼吸器病態学	15	1					1						
		循環器病態学	15	1					1						
		腎泌尿器病態学	15	1					1						
		麻酔集中治療医学	15	1						1					
	生体医工学分野	バイオメカニクス	30	2								2			
		生体物性工学	30	2				2							
		医用材料工学	30	2					2						
		臨床工学概論Ⅰ	30	1			1								
		臨床工学概論Ⅱ	30	1				1							
	生体機能代行装置学分野（臨床）	人工心肺制御学Ⅰ	30	2							2				
		人工心肺制御学Ⅱ	30	2								2			
		人工呼吸制御学Ⅰ	30	2							2				
		人工呼吸制御学Ⅱ	30	2								2			
		血液浄化療法学Ⅰ	30	2							2				
		血液浄化療法学Ⅱ	30	2								2			
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	30	1							1				
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	30	1								1			
		手術実践実習	30	1								1			
	医用機器学分野（臨床）	生体計測装置学Ⅰ	30	2					2						
		生体計測装置学Ⅱ	30	2							2				
		生体計測機器学実習	30	1								1			
		心血管カテーテル治療学	30	2								2			
		医用治療機器学Ⅰ	30	2					2						
		医用治療機器学Ⅱ	30	2							2				
		医用治療機器学実習	30	1								1			
	医用安全管理学分野	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2					2						
		医用機器安全管理学Ⅱ	30	2							2				
		医用機器安全管理学実習	30	1								1			
		臨床工学関連法規	15	1								1			
	生涯学習のための取り組み	臨床工学演習Ⅰ	30				1		1						
		臨床工学演習Ⅱ	30				1				1				
		臨床工学特論	30	1										1	
		臨床工学総合演習	30	1										1	
		臨床工学特別演習	45	1								1			
		卒業研究	90	2										2	
	統合分野	臨床実習講義	30	2									2		
		臨床実習Ⅰ	40	1										1	
		臨床実習Ⅱ	40	1										1	
		臨床実習Ⅲ	40	1										1	
		臨床実習Ⅳ	40	1										1	
		臨床実習Ⅴ	40	1										1	

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2020年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1							卒業要件 基礎科目 必修科目 11単位 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から8単位以上 ・語学教育から1単位以上 ・理系基礎・初年次教育科目・ その他から3単位以上 小計 23単位以上 専門基礎科目 必修科目 46単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 1単位以上 小計 49単位以上 専門科目 必修科目 57単位 小計 57単位 合計 129単位以上
		論理学入門	15			1		1						
		人間学	15			1			1					
		心理学	15			1		1						
		宗教学入門	15			1	1							
		文化人類学	15			1	1							
		欧米の文化	15			1	1							
		近畿の伝統文化	15			1		1						
		日本史の見方	15			1		1						
		法学	30			2	2							
		経済学入門	15			1	1							
		フィールドワーク入門	15			1		1						
		ボランティア論	15			1	1							
		世界の保健医療	15			1			1					
		国際比較福祉論	15			1			1					
		環境と生活	15			1			1					
		科学技術論	15			1		1						
		発酵学入門	15			1				1				
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1							
		英語Ⅱ	30	1				1						
		医療英語Ⅰ	15			1			1					
		医療英語Ⅱ	15			1				1				
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1							
		フランス語入門Ⅱ	15			1	1							
		複言語学習のすすめ	30			2	2							
	理系基礎科目	統計学Ⅱ	30			1		1						
		数学基礎Ⅰ	30	1			1							
		数学基礎Ⅱ	30	1				1						
		物理学基礎Ⅰ	30	1			1							
		物理学基礎Ⅱ	30	1				1						
		化学基礎	15	1			1							
		生物学入門	15			1		1						
		再生医療入門	15			1			1					
	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1							
		健康科学	15			1	1							
		コミュニケーション論	15			1	1							
		文章表現法	15			1	1							
		統計学Ⅰ	30	1			1							
		情報科学Ⅰ	30	2			2							
		体育実習	30			1	1							
	その他	国際医療研修	30			1	1							
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略の大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで							
専門基礎科目	医学分野（基礎）	解剖学Ⅰ	30	2			2							
		解剖学Ⅱ	30	2				2						
		生理学Ⅰ	30	2			2							
		生理学Ⅱ	30	2				2						
		生理学実習	30	1					1					
		医学概論	30	1			1							
		病理学概論	30	1					1					
		生化学	30	1				1						
		臨床生化学	30	1					1					
		感染症・免疫学	30	1						1				
		臨床薬理学	30	1							1			
		公衆衛生学	30	2				2						
		医療基礎技術	30	1					1					
	工学分野	数学基礎演習Ⅰ	30		1		1							
		数学基礎演習Ⅱ	30		1			1						
		物理学基礎演習Ⅰ	30		1		1							
		物理学基礎演習Ⅱ	30		1			1						
		数学	30	1					1					
		物理学	30	1					1					
		基礎工学実習	30	1					1					
		数学・物理学演習	30	1						1				
		システム・制御工学	30	2						2				
		情報科学Ⅱ	30	1			1							
	医用機器学分野（基礎）	情報科学Ⅲ	30	2				2						
		情報科学実習	60	2					2					
		機械工学	30	2					2					
		機械工学演習	30	1							1			
		機械工学実習	60	2						2				
		電気工学Ⅰ	30	1				1						
		電気工学Ⅱ	30	1					1					
	電気工学実習	60	2						2					
	社会保健学	電子工学Ⅰ	30	1					1					
		電子工学Ⅱ	30	1						1				
		電子工学実習	60	2							2			
		計測工学	30	2					2					
		ホースセラピー	15			1			1					
		シンメディカルⅠ	15	0.5			1							
		シンメディカルⅡ	15	0.5					1					
	シンメディカルⅢ	15	0.5						1					
	シンメディカルⅣ	15	0.5									1		
	その他	社会保障論	30			1							1	
		医療倫理学	30			2		2						

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2020年度以降に入学した学生用）															
分野		授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	医学分野（臨床）	臨床医学外科総論	30	1								1			
		臨床医学内科総論	30	1					1						
		呼吸器病態学	15	1						1					
		循環器病態学	15	1						1					
		腎泌尿器病態学	15	1						1					
		麻酔集中治療医学	15	1							1				
	生体医工学分野	生体医工学	30	2									2		
		生体物性学	30	2					2						
		医用材料学	30	2						2					
		臨床工学概論Ⅰ	30	1			1								
		臨床工学概論Ⅱ	30	1				1							
	生体機能代行装置学分野（臨床）	人工心肺制御学Ⅰ	30	2							2				
		人工心肺制御学Ⅱ	30	2								2			
		人工呼吸制御学Ⅰ	30	2							2				
		人工呼吸制御学Ⅱ	30	2								2			
		血液浄化療法学Ⅰ	30	2							2				
		血液浄化療法学Ⅱ	30	2									2		
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	30	1							1				
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	30	1								1			
		手術実践実習	30	1								1			
	医用機器学分野（臨床）	生体計測装置学Ⅰ	30	2						2					
		生体計測装置学Ⅱ	30	2							2				
		生体計測機器学実習	30	1									1		
		心血管カテーテル治療学	30	2								2			
		医用治療機器学Ⅰ	30	2						2					
		医用治療機器学Ⅱ	30	2							2				
		医用治療機器学実習	30	1								1			
	医用安全管理学分野	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2						2					
		医用機器安全管理学Ⅱ	30	2							2				
		医用機器安全管理学実習	30	1									1		
		臨床工学関連法規	30	1									1		
	生涯学習のための取り組み	臨床工学演習Ⅰ	30			1			1						
		臨床工学演習Ⅱ	30			1					1				
		臨床工学特論	30	1										1	
		臨床工学総合演習	30	1										1	
		臨床工学特別演習	45	1								1			
		卒業研究	90	2										2	
	統合分野	臨床実習講義	30	1									1		
		臨床実習Ⅰ	45	1										1	
		臨床実習Ⅱ	45	1										1	
		臨床実習Ⅲ	45	1										1	
		臨床実習Ⅳ	45	1										1	

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2018年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
基礎科目	教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1					卒業要件 基礎科目 必修科目 13単位 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から8単位以上 ・語学教育・理系基礎・ 初年次教育科目・その他から4単位以上 小計 25単位以上 専門基礎科目 必修科目 42単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 1単位以上 小計 45単位以上 専門科目 必修科目 60単位 小計 60単位 合計 130単位以上
		論理学入門	15			1		1		1				
		人間学	15			1		1		1				
		心理学	15			1		1		1				
		宗教学入門	15			1	1		1					
		文化人類学	15			1	1		1					
		欧米の文化	15			1	1		1					
		近畿の伝統文化	15			1		1		1				
		日本史の見方	15			1		1		1				
		法学	30			2	2		2					
		経済学入門	15			1	1		1					
		フィールドワーク入門	15			1		1		1				
		ボランティア論	15			1	1		1					
		世界の保健医療	15			1		1		1				
		国際比較福祉論	15			1		1		1				
		環境と生活	15			1		1		1				
		科学技術論	15			1		1		1				
		発酵学入門	15			1					1		1	
		心のサイエンス	15			1	1		1					
		からだの化学と機能	15			1		1		1				
	語学教育科目	英語Ⅰ	30	1			1							
		英語Ⅱ	30	1				1						
		医療英語Ⅰ	15			1			1					
		医療英語Ⅱ	15			1				1				
		英文抄読	30	2							2			
		フランス語入門Ⅰ	15			1	1		1					
		フランス語入門Ⅱ	15			1		1		1				
	理系基礎科目	複言語学習のすすめ	30			2	2		2					
		統計学Ⅱ	30			1		1		1				
		数学基礎Ⅰ	30	1			1							
		数学基礎Ⅱ	30	1				1						
		物理学基礎Ⅰ	30	1			1							
		物理学基礎Ⅱ	30	1				1						
		化学基礎	15	1			1							
		生物学入門	15			1		1		1				
	初年次教育科目	再生医療入門	15			1		1		1				
		学びの基盤	15	1			1							
		健康科学	15			1	1		1					
		コミュニケーション論	15			1	1		1					
		文章表現法	15			1	1		1					
		統計学Ⅰ	30	1			1							
		情報科学Ⅰ	30	2			2							
	その他	体育実習	30			1	1		1					
		国際医療研修	30			1		1		1		1		
		大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで							
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	30	2			2								
	解剖学Ⅱ	30	2				2							
	生理学Ⅰ	30	2			2								
	生理学Ⅱ	30	2				2							
	生理学実習	45	1				1							
	医学概論	30	1			1								
	病理学概論	30	1					1						
	生化学	30	1				1							
	臨床生化学	30	1						1					
	感染症・免疫学	30	1						1					
	臨床薬理学	30	1					1						
	公衆衛生学	30	1				1							
	社会保障論	30			1							1		
	医療倫理学	30			2		2							
	医療基礎技術	30	1					1						
	数学基礎演習Ⅰ	30	1			1								
	数学基礎演習Ⅱ	30	1				1							
	物理学基礎演習Ⅰ	30	1			1								
	物理学基礎演習Ⅱ	30	1				1							
	数学	30	1					1						
	応用数学	30		1						1				
	物理学	30	1						1					
	数学・物理学演習	30		1						1				
	電気工学Ⅰ	30	1				1							
	電気工学Ⅱ	30	1					1						
	電気工学実習	60	2						2					
	電子工学Ⅰ	30	1						1					
	電子工学Ⅱ	30	1							1				
	電子工学実習	60	2							2				
	機械工学	30	2						2					
機械工学演習	30		1						1					
機械工学実習	60	2								2				
システム・制御工学	30	2							2					
情報科学Ⅱ	30	1					1							
情報科学Ⅲ	30	2						2						
情報科学実習	60	2						2						
ホースセラピー	15			1				1		1				

藍野大学医療保健学部 臨床工学科（2018年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	臨床工学概論	30	1			1								
	生体医工学	30	2					2						
	生体物性学	30	2					2						
	医用材料学	30	2						2					
	生体計測装置学Ⅰ	30	2						2					
	生体計測装置学Ⅱ	30	2							2				
	生体計測機器学実習	30	1								1			
	心血管カテーテル治療学	30	2								2			
	医用画像診断機器学	30	2					2						
	医用治療機器学Ⅰ	30	2						2					
	医用治療機器学Ⅱ	30	2							2				
	医用治療機器学実習	30	1									1		
	人工心肺制御学Ⅰ	30	2							2				
	人工心肺制御学Ⅱ	30	2									2		
	人工呼吸制御学Ⅰ	30	2							2				
	人工呼吸制御学Ⅱ	30	2									2		
	血液浄化療法学Ⅰ	30	2								2			
	血液浄化療法学Ⅱ	30	2									2		
	人工心肺制御学実習	30	1									1		
	血液浄化療法学実習	30	1										1	
	人工呼吸制御学実習	30	1										1	
	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2							2				
	医用機器安全管理学Ⅱ	30	2								2			
	医用機器安全管理学実習	30	1										1	
	臨床工学関連法規	30	1						1					
	臨床医学外科総論	30	1							1				
	臨床医学内科総論	30	1							1				
	呼吸器病態学	30	1							1				
	循環器病態学	30	1								1			
	腎泌尿器病態学	30	1							1				
	麻酔集中治療医学	30	1								1			
	臨床実習講義	30	1										1	
	臨床血液浄化実習	45	1											1
	臨床手術室実習	45	1											1
	臨床集中治療室実習	45	1											1
	臨床医療機器管理実習	45	1											1
シンメディカル論	15	1										1		
臨床工学特論	30	1											1	
臨床工学総合演習	30	1											1	
臨床工学特別演習	90	2									2			
卒業研究	90	2											2	

藍野大学医療保健学部 健康科学科（2025年度以降に入学した学生用）														
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	心身健康科学概論	30	2			2								
	リハビリテーション医学	30	1				1							
	スポーツ外傷・障害論	30	2					2						
	生活習慣病と身体活動	30	2					2						
	健康増進論	15	1								1			
	体力測定論Ⅰ	30	2			2								
	体力測定論Ⅱ	30			2		2							
	運動処方論Ⅰ	30	2			2								
	運動処方論Ⅱ	30			2		2							
	パーソナルトレーナー論	30	2						2					
	パーソナルトレーナー実習	45	1							1				
	レジスタンストレーニング論Ⅰ	30			2			2						
	レジスタンストレーニング論Ⅱ	30			2				2					
	コンディショニングトレーニング論Ⅰ	30			2					2				
	コンディショニングトレーニング論Ⅱ	30			2						2			
	スポーツレクリエーション論	30			2				2					
	種目別スポーツ特論	15			1						1			
	障がい者スポーツ特論	45			1		1							
	スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	30	2								2			
	スポーツマネジメント論	30			2						2			
	コーチング論	30			2							2		
	スポーツ経営学	15			1								1	
	スポーツ心理学	30			2							2		
	医療心理学	15	1				1							
	臨床心理学	30	1					1						
	社会心理学	30			2				2					
	教育心理学	30			2			2						
	発達臨床心理学	30			2					2				
	障がい者・障がい児心理学	30			2						2			
	メンタルヘルス論	30			2							2		
	心理アセスメント	30	2						2					
	ヘルスコミュニケーション	15			1		1							
	身体言語学	15			1			1						
	教育相談	30			2					2				
	特別支援教育特論	30			1									1
	就労支援論	15			1									1
	健康科学と認知症演習	30			1							1		
	保育学入門	45			2					2				
	住環境コーディネーター論	30			2							2		
	健康科学実習Ⅰ	30	2					2						
	健康科学実習Ⅱ	30	2						2					
	健康科学実習Ⅲ	60	4							4				
	健康科学実習Ⅳ	60	4								4			
	運動指導実践	60			4							4		
	健康科学研究													
	アクションリサーチⅠ	15	1						1					
アクションリサーチⅡ	15	1						1						
健康科学研究法Ⅰ	30	2								2				
健康科学研究法Ⅱ	30	2									2			
健康科学課題研究	60	4										4		

藍野大学看護学部 看護学科（2025年度以降に入学した学生用）																
分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基盤看護	看護学概論 ● ★	30	2			2										
	基礎看護学援助論Ⅰ ● ★	60	2			2										
	基礎看護学援助論Ⅱ ● ★	60	2				2									
	基礎看護学援助論Ⅲ	60	2					2								
	基礎看護学援助論Ⅳ	30	2					2								
	臨床看護総論	15	1					1								
	基礎看護学実習Ⅰ ● ★	45	1				1									
	基礎看護学実習Ⅱ ★	90	2					2								
	看護研究方法論	15	1							1						
	看護管理学	15	1							1						
	国際看護学	15	1							1						
	災害看護学	15	1										1			
	統合看護学実習	90	2										2			
	看護学総合演習	30	1												1	
	国際看護研修	30				1				1						
	卒業研究	90	2											2		
	成人・老年看護	成人看護学概論 ● ★	30	2					2							
		成人看護学援助論Ⅰ ● ★	30	1						1						
		成人看護学援助論Ⅱ ● ★	30	1						1						
		成人看護学演習Ⅰ	30	1							1					
		成人看護学演習Ⅱ	30	1							1					
		成人看護学実習Ⅰ	90	2									2			
		成人看護学実習Ⅱ	90	2									2			
		地域・成人看護学実習Ⅰ	45	1									1			
地域・成人看護学実習Ⅱ		45	1									1				
老年看護学概論 ● ★		30	2					2								
老年看護学援助論 ● ★		30	1						1							
老年看護学演習		60	2							2						
老年看護学実習		135	3									3				
地域・老年看護学実習		45	1									1				
母子看護	小児看護学概論 ● ★	30	2					2								
	小児看護学援助論 ● ★	30	1						1							
	小児看護学活動論	30	1							1						
	小児看護学実習 ● ★	90	2									2				
	母性看護学概論 ● ★	30	2					2								
	母性看護学援助論 ● ★	30	1						1							
	母性看護学活動論	30	1							1						
	母性看護学実習	90	2									2				
精神看護	精神看護学概論 ★	30	2					2								
	精神看護学援助論	30	1						1							
	精神看護学活動論	30	1								1					
	精神看護学実習	90	2									2				
	地域・在宅看護学概論 ● ★	30	2					2								
	地域・在宅看護学援助論 ● ★	60	2						2							
	地域・在宅看護学活動論 ● ★	60	2							2						
	地域・在宅看護学実習	90	2									2				
	広域看護	公衆衛生看護学概論Ⅰ ○	15	1					1							
		公衆衛生看護学概論Ⅱ ○	15				1		1							
		公衆衛生看護学援助論Ⅰ ○	30				2			2						
		公衆衛生看護学援助論Ⅱ ○	30				2				2					
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ ○	30				2					2				
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ ○	30				2					2				
公衆衛生看護学統合論 ○		45				3							3			
公衆衛生看護学実習Ⅰ ○		180				4								4		
公衆衛生看護学実習Ⅱ ○		45				1								1		
公衆衛生看護学総合演習 ○		30				1									1	
教育		看護教育方法Ⅰ ●	30				2				2					
	看護教育方法Ⅱ ●	30				2								2		
	学校保健 ★ ○	30			2				2							
	養護学概論 ★ ○	30			2					2						
	健康相談活動論 ★	60			2						2					
	教育原論 ● ★	30			2	2										
	教職論 ● ★	30		2			2									
	教育社会学 ● ★	30		2			2									
	教育心理学 ● ★	30			2		2									
	特別支援教育論 ● ★	15			1						1					
	教育課程論 ● ★	30			2				2							
	道德教育の指導法 ★	30			2						2					
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ● ★	30			2					2						
	教育方法論（ICT活用含む） ● ★	30			2					2						
	生徒・進路指導論 ● ★	30			2					2						
	教育相談 ● ★	30			2		2									
	教育実習指導 ●	15			1									1		
	教育実習 ●	90			2									2		
	教職実践演習（高） ●	30			2									2		
	養護実習指導 ★	15			1									1		
	養護実習 ★	120			4									4		
	教職実践演習（養護教諭） ★	30			2									2		

＊ ●は高等学校教諭一種（看護）、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格、（○）は保健師国家試験受験資格取得者の養護教諭二種取得に関する科目。

藍野大学 教授会規程

〔 2004 年 4 月 1 日 〕
〔 制 定 〕

（目的）

第1条 この規程は、藍野大学学則第37条第4項の規定に基づき、藍野大学教授会（以下「教授会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（構成）

第2条 教授会は、教授及び准教授（以下、「構成員」という。）をもって組織する。

2 教授会は、学部長が議長となる。

3 学部長に事故あるときは、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。

（開催）

第3条 教授会は、原則として毎月（8月を除く。）1回定例に開催する。ただし、緊急に開催する場合は、この限りでない。

2 学部長は、構成員の4分の1以上から開催要求があったときは、教授会を招集しなければならない。

（開催通知）

第4条 教授会を招集するに当たっては、予め審議事項等を記載した書面をもって学部長がこれを招集する。

（定足数）

第5条 教授会は、教授（休職中及び外国出張中の者を除く。）の3分2以上の出席がなければこれを開くことができない。ただし、別段の定めがあるときはこの限りでない。

（審議事項）

第6条 教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学、卒業及び除籍

（2）学位の授与

（3）教育課程、試験及び単位認定

（4）学生の賞罰

（5）教育研究に関する諸規程の改廃に関すること。

（6）前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長、研究科長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議又は学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（議事及び議決）

第7条 教授会の議事は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところ

ろによる。

(意見の聴取)

第8条 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(議事録の作成)

第9条 教授会の議事については、議事録を作成し、次回の教授会（やむを得ない事情があるときは、その次の教授会）において確認するものとする。

(事務)

第10条 教授会に関する事務は、学生支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学長が別に定める。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年5月27日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年5月24日から施行し、平成20年4月1日より適用する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年3月16日から施行する。

附 則

この規程は、2021年6月9日から施行する。

附 則

この規程は、2021年8月25日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

①	設置の趣旨及び必要性	p. 2
②	学部・学科等の特色	p. 4
③	学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 5
④	教育課程の編成の考え方及び特色	p. 5
⑤	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 8
⑥	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場	p.11
⑦	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	p.12
⑧	取得可能な資格	p.14
⑨	入学者選抜の概要	p.14
⑩	教員編成実施組織等の編制の考え方及び特色	p.16
⑪	研究の実施についての考え方、体制、取組	p.18
⑫	施設、設備等の整備計画	p.18
⑬	管理運営	p.20
⑭	自己点検・評価	p.24
⑮	情報の公表	p.26
⑯	教育内容等の改善を図るための組織的な取組	p.27
⑰	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p.28

藍野大学 医療保健学部健康科学科 設置の趣旨及び必要性

① 設置の趣旨及び必要性

1. 本学の沿革

藍野学院（現学校法人藍野大学）は、昭和 43 年に医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院を開校し、昭和 50 年に高等看護学院を設立した。昭和 54 年には学校法人藍野学院を設立し、藍野看護専門学校を開校した。その後、昭和 58 年には理学療法学科、作業療法学科、医療秘書・病院管理学科を併設し、学校名を藍野医療技術専門学校に改称した。

昭和 60 年に藍野学院短期大学を開学、平成 5 年には専攻科を設立した。その後、平成 8 年には滋賀医療技術専門学校を開校、平成 16 年に藍野大学が開学した。平成 19 年には藍野学院短期大学附属藍野高等学校を開校、同年に藍野大学看護学科の教職課程が認定された。平成 22 年に臨床工学科を開設、藍野医療福祉専門学校を廃校した。

平成 24 年には藍野学院短期大学を藍野大学短期大学部に改称し、藍野学院短期大学附属藍野高等学校を藍野高等学校に改称した。平成 27 年には藍野大学大学院看護学研究科を開設した。平成 29 年に法人名称を学校法人藍野学院から学校法人藍野大学に改称した。そして、令和 2 年にびわこリハビリテーション専門職大学を開学した。令和 6 年には藍野大学大学院健康科学研究科を開設した。このように、学校法人藍野大学は医療や看護分野での教育・研究機関として、長い歴史と進化を経て、現在に至るまで、質の高い医療人を輩出し、地域医療に貢献している（資料 1）。

2. 学科を設置する必要性

藍野大学は、現在、医療系大学として看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科を有している。健康科学科は、日本の現在の保健・医療・福祉の状況をふまえ、得に少子高齢化社会における健康増進と保健・福祉分野の支援の必要性を重視し、設置を計画している。日本の人口構成は急速に変化しており、高齢者の割合が増加する一方で、出生率は低下し続けているのは周知のことである。この少子高齢化の進行に伴い、医療費の抑制や介護保険の抑制は喫緊の解決すべき課題である。

令和 5 年に厚生労働省の「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の全部改正について」では、21 世紀における第三次国民健康づくり運動（健康日本 21（第三次））の開始に合わせて、国民の健康増進に関して、基本的な方針の見直しが行われた。まず健康寿命の延伸と健康格差の縮小については、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現のため、個人の行動と健康状態の改善に加え、個人を取り巻く社会環境の整備やその質の向上を通じて、健康寿命の延伸及び健康格差の縮小を実現する」ことを掲げている。そして個人の健康に注目するだけでなく、社会環境の向上（就労、ボランティア、居場所づくり、社会参加の取組）、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりも方針として列挙されている。

これらをふまえると、中高年の医療費抑制や介護予防がますます重要となってくる。特に医療ニーズや健康課題は個別化・複雑化しており、今後は、生活習慣病や認知症などの慢性疾患がさらに増加することが予測され、子どもから大人、また健常者から障がい者まで、受ける医療を抑制しつつ健康を維持できるようにする必要もある。病気や怪我を未然に予防しながら生活すること、そして健康寿命の延伸が必要であり、そのためには医学、トレーニング科学、心理学、社会学など、多角的な視点で、幅広く健康について理解し、人々の包括的な健康管理と健康増進を科学的根拠に基づいて総合的に支援できる人材育成が必要である。

3. 教育研究上の目的、養成する人材像及び学位授与の方針

本学の建学の精神「愛智精神〔Philo-sophia〕にもとづく人間教育」に基づき、人間愛と知性と情操を高め、継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心をもった医療従事者の養成に努めてきた。広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することを教育目的として、教育機関としての役割を果たしてきた。本学では、社会・経済の変化や保健・医療・福祉のあり方の急速な動きの中で、豊かな人間性、倫理観と最良の適応力と創造性を基盤に、実践・教育・研究の場で活躍できる保健・医療・福祉に携わる人材を育成する。

1) 健康科学科の養成する人材像

- (1) 保健・医療・福祉の幅広い知識を習得している人材
- (2) 健康科学に関する専門知識と技能を習得し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を備えている人材
- (3) 地域の人々の健康促進を図るためのコミュニケーション能力とリーダーシップを備えた人材

2) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

本学の基本理念、健康科学科の養成する人材像に基づき、健康科学科における卒業時の到達目標は以下の通りとする。在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士（健康科学）の称号を与える。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

I. 知識

1. 心と身体健康科学に関する専門的知識を習得している。（健康科学専門の知識）
2. 新しい健康科学を創造するための基盤となる幅広い科学的知識、人や文化、社会情勢などの知識を習得している。（アカデミックな知識）

II. 技能

1. 心と身体に関する健康の維持や改善を支援する専門的技能を習得している。（健康科学専門の技能）
2. 科学的根拠に基づいて論理的に考える能力を習得している。また、職業生活、社会生活などで必要なコミュニケーション、情報リテラシー、問題解決力を習得している。（汎用的な技能）

III. 態度・姿勢

1. 健康科学の分野で実践する者として、また社会人として必要な倫理観、行動力を備え、新たな知識や技能への関心と主体的に生涯学び続ける意思を持つことができる。(健康科学専門の態度・姿勢)
2. 社会情勢の変化や科学技術の発展に関心を持ち、生涯学び続ける意思を持つことができる。(汎用的な態度・技能)

IV. 協創

1. 多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。(協働的な問題解決)
2. 健康科学分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探究ができる。(アカデミックな探求)

② 学部・学科等の特色

藍野大学の建学の精神「愛智精神 (Philo-sophia) にもとづく人間教育」を行い、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することである。本学科は、保健・医療・福祉に係る幅広い知識と技能を教授し、豊かな人間性、倫理観と最良の適応力と創造性を備えた、実践・教育・研究の場で活躍できる能力を修得することを目的とする。

健康科学科は、心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関する専門知識と技能、さらに地域コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることで、様々な健康問題に柔軟に対応し、対象となる個々人のみならず地域コミュニティにおける健康増進に寄与できる人材育成を目的とする。そのため、総合的な教養を学ぶとともに、健康科学分野に関しては、医学知識を基盤に、トレーニング科学、心理学を中心に学び、心と身体の健康増進を支援するための健康科学の専門知識と技能、問題解決能力、コミュニケーション能力、リーダーシップについて学ぶことを特色とする。

育成にあたっては、健康科学について学びながら、健康運動実践指導者、NSCA パーソナルトレーナーなどの資格取得条件を満たすように教育課程を編成し、健康科学の知識や技術の習得を目指す。

1) 保健・医療・福祉の幅広い知識を習得している人材の育成

人々の心と身体の健康を維持または改善に関わる実践者になるためには、保健・医療・福祉についての幅広い知識を習得している必要がある。まず、健康という概念について理解し、疾病の予防、健康な生活習慣など公衆衛生施策、医療制度や医療サービスの仕組みを理解し、社会福祉施策など、幅広い知識を有した人材を育成する。

2) 健康科学に関する専門知識と技能を習得し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を備えている人材

心と身体の健康の概念を包括的に理解し、医学知識を基盤に、解剖学、生理学、栄養

学、心理学などの専門分野を通じて健康に関する基本的な知識を習得し、生体計測やトレーニング科学に基づいたトレーニング指導の技能を身につける。また心理学に基づいた健康行動の変容を促進するための理論や技能も習得し、健康に不安に関する問題解決能力を有する人材を育成する。

3) 地域の人々の健康促進を図るためのコミュニケーション能力とリーダーシップを備えた人材の育成

地域との連携を図りながら、健康に関する課題に対処するためのコミュニケーション能力を有し、リーダーシップを発揮でき、地域の健康促進に向けた創生的なアプローチを推進できる人材を育成する。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

名称と学位は、以下のとおりとする。

1. 学科の名称について

健康科学に関する諸問題について、医学知識を基盤に、トレーニング科学、心理学、社会学などの観点から人の健康に関する知識を習得し、特に科学的根拠に基づいた知識と技能について学ぶ学科であることから、「健康科学科」とする。

2. 学位の名称について

学位は、学士（健康科学）とする。

3. 英語名称について

英語名称は以下の通りとする。

大学名 藍野大学	Aino University
学部名 医療保健学部	Faculty of Health Science
学科名 健康科学科	Department of Health Science
学士（健康科学）	Bachelor of Health Science

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成の基本的な考え方

本学の基本理念、健康科学科の養成する人材像及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3領域で編成し、健康科学に広く関わる者として必要な一般教養科目や、心と身体の健康科学の支援を実践するために必要な知識と技能を習得するための科目で編成している。

基礎科目は、教養教育科目・語学教育科目・理系基礎科目・生涯学習系科目・初年次教育

科目・その他に区分しており、科学的思考の基盤、人間と生活、教育と社会に関する教育内容が習得できるように編成している。

専門基礎科目は、保健医療福祉科目として、医学の基礎、社会福祉に関する教育内容が習得できるように編成している。

専門科目は、健康科学科目、実習科目、健康科学研究に区分しており、専門基礎科目の医学の知識を学びながら、1年次から段階的に専門科目を学べるように編成した。また、講義で学んだことを早い段階で実践的に学べるように、1年次から3年次まで実習科目を配置した。さらに4年次1年間の健康科学課題研究（卒業研究に該当する）を通じて、健康科学における分析力、科学的な思考力、問題解決能力を身につけ、健康科学分野を発展させる能力を持つ人材を育成する。

科目とディプロマ・ポリシーとの対応関係はカリキュラム・マップに示した（資料2）。またコース・ツリーには、ディプロマ・ポリシーとの関連性、科目履修の順序と配当年次を示し、知識と技能の体系化が可視化している（資料3）。

2. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

健康科学科のディプロマ・ポリシーに基づき、講義、演習、実習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

I. 基礎科目

1. 良き市民として生きるため、また国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢についての知識を得るため、哲学入門、文化人類学、世界の保健医療などの科目を配置する。
2. 新しい健康科学を創造する基盤となる幅広い科学知識を習得するため、数学、情報科学、数理・データサイエンス・AI入門などの科目を配置する。
3. 汎用的技能習得のため、学びの基盤、文章表現法、統計学、コミュニケーション論などの科目を配置する。

II. 専門基礎科目

1. 健康科学の基盤となる知識を習得するため、解剖生理学、運動学、運動生理学、医学概論などの科目を配置する。
2. 健康科学に携わる者として基盤となる保健・医療・福祉に関する幅広い知識を習得するため、社会保障論、社会福祉論などの科目を配当する。
3. 協働的な問題解決能力を習得するため、シンメディカルⅠ・Ⅱを配置する。

III. 専門科目

1. 健康科学の実践に必要な知識と技能を習得するため、健康増進論、体力測定論、パーソナルトレーナー論、スポーツ外傷・障害論、臨床心理学などの科目を配置する。
2. 健康科学を実践的に学び、健康科学に携わる者としての態度や技能を習得するため、実習を各学年に配置する。
3. 健康科学に関する学術的な問いについて研究し、またアカデミックスキルを習得するため、アクションリサーチ、健康科学研究法、健康科学課題研究などを配置する。

3. 人材育成と教育課程について

- 1) 保健・医療・福祉の幅広い知識を習得している人材育成のための教育課程

基礎科目、専門基礎科目の中で、「公衆衛生学」「救命救急学」「医療制度論」「社会保障論」など、健康科学分野の支援を実践するために必要な保健・医療・福祉に関する科目を配置する。

2) 健康科学に関する専門知識と技能を習得している人材育成のための教育課程

専門基礎科目と専門科目の総合的な習得と、「アクションリサーチ」「健康科学実習」「健康科学課題研究」などの科目を配置し、健康科学分野における分析力、科学的な思考力、実践力を身につける。

3) 地域の人々の健康促進を図るためのコミュニケーション能力とリーダーシップ、問題解決能力を備えた人材育成のための教育課程

専門科目の中に地域の人々の心と身体の健康に関する課題解決を実践的に学ぶための実習科目「健康科学実習Ⅰ～Ⅳ」を1年次から3年次まで配置し、この科目を通して専門的なコミュニケーション能力や、課題解決能力、リーダーシップ、問題解決能力を育成する。

4. 科目領域とその理由

1) 基礎科目

基礎科目は、DPのⅠ-2、Ⅱ-2、Ⅲ-2を育成するために、習得すべき知識や考え方、人としての生き方、これからの社会のあり方などの理解を深めるための科目を配置している。教育目的によって必須科目と選択科目に振り分け、教養教育科目・語学教育科目・理系基礎科目・生涯学習系科目・初年次教育科目・その他に区分の中で指定した単位数以上を選択できるように設定している。基礎科目では、必修科目8単位であり、授業は講義と演習で行う。

(1) 教養教育科目

「哲学入門」「人間学」「共生社会論」「国際比較福祉論」など、22科目を配置している。

(2) 語学教育科目

「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を必須科目とし、他に「複言語・複文化へのいざないA（ドイツ語）」などの科目を配置している。

(3) 理系基礎科目

「化学基礎」「生物学入門」「物理学基礎Ⅰ」などの科目を配置している。

(4) 生涯学習系科目

「教育原論」「教育社会学」「生涯学習論Ⅰ・Ⅱ」「生涯学習支援論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置している。

(5) 初年次教育科目

必須科目として「学びの基盤」「コミュニケーション論」「統計学Ⅰ」「情報科学Ⅰ」などの科目を配置している。

(6) その他

「国際医療研修」などの科目を配置している。

2) 専門基礎科目

(1) 保健医療福祉科目

専門基礎科目は、DP の I-2、II-2、IV-1・2 を育成するために、保健医療福祉科目の区分の中に、必須科目として、医学の基礎となる「解剖生理学 I・ii」「運動生理学」「医学概論」「救命救急学」「公衆衛生学」「社会保障論」「シン・メディカル I・II」などの科目を配置している。専門基礎科目では、必須科目は、21 単位である。授業は講義と演習で行う。

3) 専門科目

(1) 健康科学科目

専門基礎科目は、DP の II-1、III-1 を育成するために、健康科学科目の区分の中に、必須科目として、「心身健康科学概論」「健康増進論」「体力測定論 I」「パーソナルトレーナー論」「医療心理学」「臨床心理学」「健康科学課題研究(卒業論文)」などの科目を配当している。また実習科目として、「健康科学実習 I・II・III・IV」を配置している。必須科目は、43 単位である。授業は講義、演習、実習で行う。

4) 主要授業科目について

本学科の人材育成の目的は、保健・医療・福祉の幅広い知識を習得し、健康科学に関する専門知識と技能を習得し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を有する人材である。それらをふまえて、本学科の主要科目は、医学や福祉の基礎知識、トレーニング科学の知識と実践を中心とした科目で構成している。医学や福祉の基礎知識では、「解剖生理学 I・II」「運動学」「公衆衛生学」「救急救命学」「社会保障論」などを配置している。またトレーニング科学の知識と実践に関する科目は、「心身健康科学概論」「健康増進論」「体力測定論 I」「パーソナルトレーナー論」「レジスタンストレーニング論 I・II」「コンディショニングトレーニング論 I・II」などを配置している。

5) 単位時間数

本学の単位時間数は、授業は 15 時間～30 時間、演習・実習は 30～45 時間で設定している。

6) 1 年間の授業期間はセメスター制で 2 期間（前期・後期）であり、十分な教育効果を確保するために、原則 35 週とする。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 授業方法

授業は、講義、演習、実習から構成し、主に知識の習得については講義を行い、技能や態度などの習得には演習を行い、知識と技能、そして態度を統合した経験を通して学ぶ機会として実習を実施する。授業ではアクティブラーニングとして、グループワークやディスカッションを多用し、学生が主体的かつ能動的な授業への参加を促進する。知識の習得だけではなく、課題解決能力の獲得、コミュニケーション能力の獲得も目標として実施する。また、本学には教育支援システム（manaba：株式会社朝日ネット、以下 manaba と

する)があり、事前学習や事後学習、課題提出、授業後の質問などをいつでも実施でき、大学教育においてすべての授業・研究指導に付加的機能として活用する。

授業に参加する学生数は、健康科学科の専門科目については概ね 30 人を想定している。演習授業については、5～10 人規模のグループに分けて、補助教員を配置して指導を行う。

実習科目である「健康科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、1施設に1～3人程度を配置し、実習ごとに学習目標と実施内容を明確にして、現場と連携を取りながら各学生に公平な指導や、学習の評価ができるように配慮する。

2. 健康科課題研究（卒業研究）

卒業研究は、ゼミ制で行う。3年次前期の「健康科学研究法Ⅰ」の中で、各ゼミの研究分野、研究テーマ、ゼミの実施方法などを学生に提示し、可能な限り、学生が希望するゼミに振り分けるようにする。3年次後期の「健康科学研究法Ⅱ」は、ゼミ単位での活動となり、研究課題の絞り込み、情報収集と分析、研究計画書の作成を行う。4年次卒業研究に該当する科目「健康課題研究」は通年科目であり、3年次後期で計画した研究について実験、結果のまとめ、考察を行い、卒業論文をまとめる。この過程において、教員や学生同士のディスカッション、途中経過の報告会などを行い、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション能力を高める。学習成果は、討議内容、研究計画、倫理審査申請書、データ収集・処理、論文内容、発表について総合的に評価を行う。

3. 履修科目の年間上限登録

本学の規定では、各学年で登録できる単位数は、前期・後期あわせて 50 単位である。ただし、2年生以上の学生については、前年度末時点での累積 GPA が 3.00 以上の場合は、前期・後期科目あわせて 55 単位を上限としている。

4. 他大学における授業科目の履修

本学では、本学入学前に大学または短期大学等において履修した単位を卒業要件単位の一部として認定することがある。単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位は、本学において開講する基礎科目の授業内容に見合う授業科目とし、在学中に他大学等で習得した単位と合わせて 60 単位以内である。

在学中に他大学等で修得した単位は、教務委員会で審査のうえ、本学の単位として認めることがある。ただし認定できる単位は入学前の既修得単位と合わせて 60 単位以内としている。

5. 担任制度、オフィスアワー制度の導入

各学年にクラス担任を配置し、基幹教員、事務センター職員、キャリアセンター職員が連携して学生の学習支援を行う。

基幹教員は、学生からの授業や履修、学生生活全般に関する質問や相談に応じるために、特定の時間を設けることとする（1～2回/週）。この時間帯であれば予約することなく教員

を訪問できる。またこの時間帯以外でも、教員が研究室に在室している場合は、教員は学生に対応する。

6. 履修指導方法

1) 入学時オリエンテーション

入学時にオリエンテーションを実施し、本学の教育理念、教育目標、4年間で習得を目指す能力（ディプロマポリシー）、卒業後の進路などについて説明する。このガイダンスでは、カリキュラムマップ（資料2）、コースツリー（資料3）、履修モデル（資料4①、資料4②）、を提示し、カリキュラムの編成（カリキュラムポリシー）の考え方、履修登録、履修方法、学習方法、大学内の施設利用方法などについても説明する。

2) 履修ガイダンス

1年次～4年次の各学年の前期および後期の開始前に履修ガイダンスを行う。履修登録、履修指導、学習支援、健康管理など、学生生活全般の支援について説明する。

3) 履修指導体制

全ての科目についてシラバスを作成し、科目の概要、学習到達目標、授業の内容、授業方法、事前・事後学習、成績評価の方法、教科書、参考書を学生がいつでも閲覧できるようにする。

履修指導は、学科の基幹教員（主に担任）が担当する。学生の将来の進路について相談しながら、体系的に学ぶことができるよう適切な履修方法、学生支援を行う。また事務センター職員とも連携し、学生の相談に随時応じる。

7. 学習成果の評価方法

本学の成績評価はシラバス（授業概要）に記載されている評価方法（筆記試験、口述試験、レポート、論文、実技等）に基づいて科目担当教員が総合的に行う。評価基準は次のとおりである。

成績評価	評点	GP	判定
AA	90～100点	4	合格 (単位認定)
A	80～89点	3	
B	70～79点	2	
C	60～69点	1	
D	0～59点	0	不合格 (単位不認定)
F対象外	—	0	

※F対象外は、試験の受験資格がない者や試験に欠席した者等で、担当教員が評価対象外と判断した場合を表す。

※実習科目については、学科ごとに別に定める。

※既修得単位認定については、成績評価は付されず、成績証明書等にN(認定)と表示される。

本学では、AA、A、B、C、D（不可）の5段階で評価を行う。また、アメリカの大学をはじめ現在多くの日本の大学で導入されている GPA（Grade Point Average）制度を併用している。GPA とは、履修登録した科目毎の5段階評価（AA、A、B、C、D）を4から0までのポイント（GP: Grade point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点である。GPA には不合格科目の成績や途中で履修放棄した科目の成績も算定の対象となるので、選択（選択必須）科目については、学期途中で履修中止ができる制度を設けている。

GPA 制度により、学生が履修登録した科目を自主的、意欲的に学習することを促進することが狙いである。また、各学期の GPA と累積（入学から現在まで）の GPA を通知し、学修レベルの進展度合い、修得科目全体の成績水準がわかり、教員の指導にも活用している。

8. 卒業要件

本学は単位制を採用しており、次のすべての条件を満たしている者に単位認定資格が与えられる。①履修登録をしている者、②出席時間数が実質授業時間数の2/3以上であること（実質授業時間数とは、定期試験を実施するまでの授業時間数ではなく、その科目が終了するまでの授業時間数。また、公欠の時間数は除く）、③当該学期の学費を納入していることとする。

- 1) 基礎科目では、必修科目8単位、選択科目16単位以上履修することとし、教養教育科目・初年次教育科目・その他から5単位以上、語学教育科目から1単位以上、残り10単位以上は、教養教育・語学教育・理系基礎・生涯学習系・その他のいずれから選択する。
- 2) 専門基礎科目では、必修科目21単位、専門科目では、必修科目43単位、専門基礎科目と専門科目の選択科目から36単位以上を取得し、合計124単位以上取得することを卒業要件とする。なお、履修科目の登録上限は50単位（年間）と定める。

区分	必須単位数	選択単位数	合計
基礎科目	8単位	16単位以上	24単位以上
専門基礎科目	21単位	36単位以上	100単位以上
専門科目	43単位		
合計	72単位	52単位以上	124単位以上

⑥ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

本学は、対面授業で授業を行っているが、一部多様なメディアを利用した教育方法も実施している。

1. 実施場所

インターネットの接続が可能である学生の居住内、あるいはインターネット接続環境が整っており学習に適した場所とする。

2. 実施方法

オンラインで授業を実施する場合、①オンデマンド方式と②同時双方向性方式のどちらかである。①オンデマンド方式の場合、manaba を活用し、授業資料、授業動画をアップし、予習、復習、課題提出などを行う。②同時双方向性方式では、インターネット回線を通じて教員の音声や画像および教材画面を同時に配信する双方向性のライブ授業を行う。このライブ授業の配信は、「Web 会議システム：Zoom（有料版）」を利用し、実施する。また事前学習や事後学習、課題提出などは、manaba を利用する。

3. 当該実施方法が告示の要件を満たすものであることの説明

本学が導入している「Zoom」を利用したライブ配信システムは、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱い、同時かつ双方向に行われるものであり、対面授業に相当する教育効果が期待できる。

教員による講義音声や教員を写した映像、板書情報、講義時の教室映像、教員による提示資料などは、インターネット回線を利用して配信する。また、②同時双方制方式の場合、授業中の学生からの質問や議論は、チャット機能ならびに発言機能を通じて行われ、教員および受講中の学生全員が参加でき、双方向性の授業を展開できる。なお、オンライン授業は限られた科目のみであり（1～5 科目程度）、学内でインターネット回線を利用して受講したとしても十分に対応できるサーバーを整備し、インターネット回線速度を保障しており、現時点でオンライン授業の受講に支障はきたしていない。

本学には manaba があり、事前学習や事後学習、課題提出、授業後の質問などをいつでも実施でき、教育においてすべての授業・研究指導に付加的機能として活用できる。

以上のシステム運用・指導体制により、メディアを高度に利用した指導は、同時かつ双方向性を満たし、学外で履修するのに特に問題はない。

⑦ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

1. 実習の目的

本学科では、学外で実習を行う「健康科学実習Ⅰ～Ⅳ」を1年次から3年次までに配置している。この実習の目的は、学生が健康科学の理論と実践を統合し、専門知識と技能を向上させることである。具体的には、実習を通じて学生が実務経験を積み、実際の健康科学の仕事や研究に関する理解を深めることを学習の目標とする。また、将来のキャリアに役立つ能力や自己成長を促進することも目指す。

2. 実習先の確保状況

実習先は、27 件確保できている。業界とのパートナーシップや基幹教員のネットワークを活用し、適切な実習先を確保する。これにより、学生が興味や専門領域に応じて選択肢

を持つことができる。2025 年度の開設後も引き続き新しい実習先の確保に努める予定である（資料 5）。

3. 実習先との契約内容

実習先との契約内容は、実習期間、実習の学習目標、実習内容、学生指導、評価基準、学生への支援、機密保持などに関する規定を含む。契約は大学と実習先の責任を明確にし、実習プロセスの円滑な運営を確保し、学生が十分に学習できる環境を準備する。

4. 実習水準の確保の方策

実習水準の確保は、学生の深い学びを促進するための重要な要素である。実習水準を維持するため、まずは本学科の実習における学習目標の理解を促進するための合同会議を開催する。また、定期的の実習先の評価や学生からのフィードバックも提供し、大学と実習先が協働で実習内容、指導者の配置などを考え、実習水準を確保する。

5. 実習先との連携体制

実習先との連携は、定期的な会議や連絡、実習訪問を通じて、情報共有や課題解決を円滑に行う体制を整え、学生の学習支援を行う。

6. 実習前の準備

実習前の準備として、実習のオリエンテーションを行う。実習内容、学習目標の確認、実習での課題、基礎知識、技能の確認、倫理的な行動規範、態度などを明確に提示し、学生が実習先で適切な言動が取れるように理解を促す。

7. 実習指導計画

実習指導計画は、実習科目ごとの実習目標や学習成果を明確にし、適切な課題やプロジェクトを設定して実施する。学年進行に合わせて、学生のニーズや興味関心を考慮し、それに沿った実習内容や実習指導を検討し、計画を立案する。

8. 実習巡回による指導

実習巡回による指導は、定期的な訪問やフィードバックを通じて、学習の進捗状況や課題を把握し、必要に応じて学生に支援や助言を行う。実習教育の質の向上を目指し、実習先での指導者との対話を通じて、学生の抱える課題を共有しながら、指導方法などを協働で検討する。

9. 実習先における指導者

実習先における指導者は、学生を専門的に指導し、サポートする責任がある。実習先の指導者は、専門的な知識と経験を持ち、学生の成長を促進する能力を備えていることを条件とする。実習先には定期的な研修の開催や情報交換などを通じて、指導者の能力向上を

図る。

10. 成績評価と単位認定

成績評価と単位認定は、実習の終了後に実施する。学生の実習成果や学習プロセスを評価し、適切なフィードバックを行う。実習前に評価基準は学生と指導者に明確に提示し、学習成果の目標の理解を促す。これらの評価によって、単位の認定が行われる。

⑧ 取得可能な資格

1. 健康運動実践指導者

ア 民間資格、イ 受験資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

2. NSCA パーソナルトレーナー

ア 民間資格、イ 受験資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

3. 初級パラスポーツ指導員

ア 民間資格、イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

⑨ 入学者選抜の概要

1. 入学者受け入れの基本方針（アドミッション・ポリシー）

心と身体の健康に関して、①保健・医療・福祉の幅広い知識の習得、②健康科学に関する専門知識と技能の習得、③地域コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを習得し、社会に貢献できる人材育成を目的に掲げ、この人材を育成するための教育課程を編成した。養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、健康科学科のアドミッション・ポリシーについて、学力の3要素である、①【知識・技能】基礎的・基本的な知識・技能、②【思考力・判断力・表現力】自ら必要な思考力・判断力・表現力等の能力、③【主体性・協働性】主体性を持ち、多様な人々と協働して学習する態度（主体性・多様性・協働性）の評価とアドミッション・ポリシーとの関連性についても合わせて以下に示す。

入学者受け入れの基本方針（アドミッション・ポリシー：AP）

1. 人々の心と身体の健康づくりの重要性について理解がある人【知識・技能】
2. 人々の健康や福祉の向上とそれに向けた活動に関心が高く、周りの人々と協働できる人【主体性・協働性】

3. 人の話を聴くことができ、論理的に考え、自分の考えを相手にわかるように示せる人【思考力・判断力・表現力】
4. 英語、国語の読解力・言語運用能力を有し、生物、化学、物理、数学を通じて得られる自然科学思考力を有する人【知識・技能】

本学では、入学志願者の意欲、適性、能力などを多面的かつ総合的に評価・判定する入試方法として、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、一般選抜入試を行う。

2. 募集人員

募集人員は 30 人とする。

3. 選抜方法

選抜方法は、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、一般選抜入試の 3 つを設定し、多様な入試形態で実施することで、アドミッション・ポリシーに合致した学生を受け入れる。

1) 選抜方法とアドミッション・ポリシー、学力の 3 要素の関連性

(1) 総合型選抜入試 AP1、AP2、AP3

資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行う。

(2) 学校推薦型選抜入試 AP1、AP3、AP4

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行う。そして、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行うとともに、「大学入学志願理由書」「推薦書」により主体性、協働性を評価する。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価する。

(3) 一般選抜入試 AP4

複数科目からなる個別学力試験により、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行う。

(4) 大学入学共通テスト利用入試 AP4

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行う。

2) 選抜方法の概要

(1) 総合選抜型入試 募集人員 9 人

総合選抜型入試は、適性重視型選抜入試、シン・メディカル入試、社会人（高校既卒者）入試を行う。AP1、AP2、AP3の評価を重視する入試であり、本学の基本理念や教育目標を理解し、強い志望動機、高い入学意欲などを評価する。また令和 6 年度大学入学者選抜実施要項に従い、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・

判断力・表現力等も適切に評価するため、調査書等の出願書類だけではなく、小論文、レポート、グループディスカッション、個人面接を行い、適正に合格者を定める。高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を卒業した者及び卒業見込みの者で、適性重視型選抜入試と社会人（高校既卒者）入試は、調査書・大学入学志望理由書・小論文・個人面接、シン・メディカル入試は、調査書・大学入学志望理由書・グループディスカッション・個人面接により評価する。

（２）学校推薦型入試 募集人員 14 人

学校推薦型入試は、指定校推薦入試、公募制推薦入試を行う。AP1、AP3、AP4 の評価を重視する入試であり、本学の基本理念や教育目標を理解し、強い志望動機、高い入学意欲などを評価する。また令和 6 年度大学入学者選抜実施要項に従い、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等も適切に評価するため、調査書等の出願書類だけではなく、小論文、基礎学力試験、個人面接も行い、適正に合格者を定める。高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を卒業見込みの者で、指定校推薦入試は、調査書・大学入学志望理由書・小論文・個人面接、公募制推薦入試は、基礎学力試験（英語、国語、数学分野から 1 分野あるいは 2 分野を選択する）・個人面接により評価する。

（３）一般選抜入試 募集人員 7 人

一般選抜入試は、一般選抜入試、大学入試共通テスト利用入試を行う。AP4 の評価を重視する入試である。一般選抜入試は、入学志願者の学力を評価・判定するために「英語」「国語」「数学①（数学Ⅰ、数学 A）」「物理（物理基礎）」「化学（科学基礎）」「生物（生物基礎）」の中から、2 教科選択の場合はすべて選択とし評価・判定を行い、3 教科選択の場合は、英語を必須教科とし、残りの 5 教科から 2 教科選択し、評価・判定を行う。この入試は、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を卒業した者及び卒業見込みの者を対象として実施する。

大学入試共通テスト利用入試は、健康科学を学ぶために必要な基礎学力として、「国語」「外国語」「数学①（数学Ⅰ、数学 A）」「数学②（数学Ⅱ、数学 B、数学 C）」「理科」「情報」の 5 教科・科目のうち、高得点 2 教科・科目で評価・判定する。

4. 入学者選抜の体制

本学の入学者選抜を行うための組織として入学試験・学生募集委員会がある。入学試験・学生募集委員会は、入学試験の実施計画し、この委員会の下部組織である入学試験問題作問検討部会が委嘱と作問の検討を行う。入学試験当日は、学長、各学科長を管理責任者として待機させ、入学試験・学生募集委員会、入学試験問題作問検討部会とともに公平かつ厳正な入学者選抜を実施している。

⑩ 教員研究実施組織等の編制の考え方及び特色

1. 教員組織編成の考え方

本学科の人材養成の目的を達成するための教育課程を実現するために、基幹教員には豊

富な実務経験と、十分な教育研究業績がある教員により組織を編成した。

基幹教員の配置においては、各教員の専門領域における教育研究業績や実務経験により、担当する科目を決定した。

本学科基幹教員は、原則として修士以上の学位を持つ者とし、教授、准教授、講師、助教を配置した。

2. 教員組織編成の特色

本学科では、完成年度までに 8 人の基幹教員を配置する。教員整備の年次計画としては開設年度の令和 7 年度 6 人（教授 4 人、助教 2 人）、令和 8 年度 1 人（教授）、令和 9 年度 1 人（教授）就任予定である。本学科の教育目標を達成するため主要授業科目は、本学科の基幹教員が担当する。すべての基幹教員はオフィスアワーを設定し、学生対応を行う。

1) 学位を有する教員確保

基幹教員 8 人のうち、5 人は博士号の学位を有し、3 人は修士号の学位を有している。修士以上の学位を有し得ない教員については、職位に準じる教育研究の実績、研究業績を十分に備えている者とする。職位は教授 6 人、助教 2 人である。

2) 教育研究歴

基幹教員の 8 人は、大学での講義実施の経験があり、大学教員としての教育研究実績がある。また臨床実習での指導経験者 2 人、サービ斯拉ーニングの経験者 2 人、教科書や教材の作成の経験者 7 人、その他、公開講座の実績など、様々な教育研究歴を有している。

3) 研究実績と研究体制

基幹教員 8 人のうち、教授 6 人の学術論文の業績は平均 35 編である。研究分野は、基礎医学、スポーツ健康科学、人間科学、社会福祉学、教育学が中心であり、高い洞察力、分析力を持って、優れた業績を残している。これまでの教員の研究力を最大限活かして卒業研究を行い、本学科の人材育成の目標である専門知識と専門技能の習得と、問題解決能力獲得の指導にあたる。

3. 基幹教員の年齢構成と定年規程

本学科の基幹教員の就任時の年齢構成は附帯事項で指摘されたように高い。特に教授の年齢が高いが、本学科の教育研究には欠かせない教員であり、高い教育研究レベルを維持し、本学科の開設にあたっては大きく貢献することが期待できる。しかし、今後の教育研究の継続、教育研究内容の質の担保と向上のために、完成年度に向けて、令和 11 年には教授 2 人、令和 12 年には教授 2 人をそれぞれ若手の教授と入れ替え、令和 13 年には 1 人を若手の准教授と入れ替え、他 3 人については講師 2 人、助教 1 人の構成になるよう、若手教員の採用と育成を視野に入れ、教員の年齢構成をバランスの取れた配置にする予定である。

なお、定年に関しては、就業規則上、65 歳となっているが、本学の任期制教員に関する

規程により延長を可能としている。

⑪ 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、教員の研究活動の活性化を図るため、以下の体制、取組を行っている。

1) 科学研究費補助金応募の促進

毎年の新規採択数 10 件程度を目標とし、採択された場合は科研費採択者の研究内容をホームページで紹介している。また採択者数を増加させるために申請内容の事前チェック体制を強化している。

2) 科研費以外の競争的研究資金の採択の促進

毎年新規採択数 5 件程度を目標とし、応募の促進を図るため、競争的資金募集情報を学内教員で共有している。また競争的資金獲得研究者の指名とテーマをホームページで紹介している。

3) 受託研究、奨学金寄付金件数の増加の支援

新規採択に向けての研究の強化、産学協同事業の展開とトランスレーショナルリサーチの強化のための体制を整えている。

4) 研究員、客員研究員の受け入れ体制

大学全体の研究力向上のため、適宜新規研究員、客員研究員を選出する。また連携企業における研究員の受け入れ、研究支援体制の構築も行っている。

5) 特許出願及び取得の支援

新規特許取得が可能な研究については、その支援を行う。

6) 中央研究施設による論文発表及び知的財産の管理及び活用

中央研究施設では教員の研究促進のため、毎年研究成果発表を行っている。また研究活動の広報を強化している。

中央研究施設は教員だけではなく、高大連携授業、学部生の卒業研究、大学院生の研究などでの活用も促進している。

7) 外部研究資金の獲得に向けた取組

科学研究費などの外部資金の獲得に向けて FDSO 研修会を開催している。

今後は、外部研究資金を獲得した教員のうち、子育てや介護のために研究時間に制限がある教員をリサーチし、支援体制を構築していく予定である。

⑫ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学科の開設に関して、校地、運動場、校舎ともに既設の医療保健学部と共用するものとし、本学科の開設にあたり、新たな校舎を建設することはしない。既存の施設で実施可能である。

2. 図書館の資料及び図書館の整備計画

本学中央図書館は、2,400 m²の総面積を擁し、学生の閲覧室を始め、新着雑誌や新聞の閲覧コーナー、パソコンコーナー、AV コーナーなどを備えている。4 室あるグループ学習室には全室大画面モニターを設置し、自由に貸し出しできるノートパソコンと併せて、学生によるプレゼンテーションが行なえるなど主体的な学習を促進している。椅子は 285 脚、棚の総延長は 3,100m である。蔵書は、和書・洋書で計約 81,000 冊である。また、受け入れ雑誌タイトル数は 2023 年度で和雑誌 206 である。製本雑誌の蔵書は和雑誌 9,600 余、洋雑誌が 3,300 余、計約 13,000 冊である。このほか AV 資料も 1,400 程を備えている。図書や AV 資料は OPAC によって検索できる。

電子ジャーナルについては、和雑誌がメディカルオンライン、洋雑誌が CINAHL Plus with Full Text を購入している。これらに収録されていない文献についても、積極的に文献の相互利用を行なっているが、2023 年度の ILL 複写依頼件数は 225 件、同じく受付件数は 787 件となっている。

導入しているデータベースは、先に挙げた CINAHL に加え、医学中央雑誌 Web、最新看護索引 Web、Proquest Nursing & Allied Health Premium などがある。

中央図書館は独立した建物で、大学本館や研究棟とは離れた位置にあるため、利用者の便宜のために、大学、研究所、短期大学部など、他部局からも蔵書を検索できるインターネット経由検索システムも備えている。

開館時間は、平日は 8 : 30 から 20 : 00 まで、土曜日は 9 : 00 から 18 : 00 まで開館している。以上、施設・設備、購読雑誌数、蔵書冊数、AV 関連資料（大学全体）を要約して表に示す。

① 施設・設備

階	室名	面積 (m ²)	座席	機器設備	棚板延長 (m)
1	事務室	48.53			
	館長室	22.50			
	書庫	81.20			718.56
	外国語図書	54.27	8		131.56
	製本洋雑誌・新聞 BN 室	69.08			330.52
	合同教室	327.55			
	廊下・階段等	206.90			
1 階合計		810.03	8		1180.64
2	インターネット AV コーナー	157.25	26	端末 12 台、プリンター 3 台、ビデオ再生用テレビ 6 台	74.76
	一般閲覧室	327.56	88	蔵書検索用端末 2 台	635.46
	新着雑誌・新聞室	104.83	12		80.60
	参考図書室	52.42			129.05
	廊下・階段等	134.54		コピー機 3 台、うち 1 台はカラーコピー	
2 階合計		776.60	126		919.87
3	第二閲覧室	158.73	36		480.24

	製本和雑誌室 1	105.34	28		283.02
	製本和雑誌室 2	70.95	15		216.30
	第三閲覧室	42.90	18		34.40
	大会議室	75.95			
	小会議室	39.88			
	グループ学習室－1	27.47	11	モニター1台	
	グループ学習室－2	25.96	10	モニター1台	
	グループ学習室－3	25.96	15	モニター1台	
	グループ学習室－4	25.96	18	モニター1台	
	廊下・階段等	174.80			
3階合計		773.90	151		1013.96
PH	倉庫等	57.60			
PH 階 合計		57.60			
総合計		2418.13	285		3114.47

② 購読雑誌数

	和雑誌		洋雑誌		合計
	専門	一般	専門	一般	
2023	154	11	0	0	165
2022	162	11	0	0	173
2021	164	11	31	0	206
2020	170	17	39	0	226

③ 蔵書冊数（2024年3月末現在）

		図書			製本雑誌		
		和	洋	合計	和	洋	合計
受入 区分	購入	49,869	2,087	51,956	9,395	2,669	12,064
	寄贈	19,503	1,296	20,799	269	700	969
合計		69,372	3,383	72,755	9,664	3,369	13,033

④ A V 関連（2024年3月末現在）

		AV										合計
		和					洋					
		DVD	VHS	Umatic	スライド	その他	DV D	VHS	Umatic	スライド	その他	
受入 区分	購入	325	554	78	17	2	0	3	0	0	0	979
	寄贈	70	317	0	0	22	0	0	0	0	0	409
合計		395	871	78	17	24	0	3	0	0	0	1,388

以上

⑬ 管理運営

1. 運営会議

藍野大学学則第 38 第 2 項の規定に基づき、藍野大学運営会議（以下「運営会議」という。）の運営について必要な事項は、運営会議規程に定めている。運営会議を全学的な内部質保証に責任を負う組織とし、内部質保証において必要な事項を定めている。

1) 構成員

運営会議は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 研究科長
- (4) 学部長
- (5) 各学科長
- (6) 教学 I R 室長
- (7) 中央図書館長
- (8) 中央研究施設長
- (9) キャリア開発・研究センター長
- (10) 大阪茨木キャンパス事務局長
- (11) 事務センター長
- (12) 学生支援グループ長及び入試広報グループ長 各 1 名
- (13) 前各号に掲げるもののほか、学長が必要と認めた者

2) 開催

学長は、隔週に 1 回定例に、又は必要に応じて臨時に、運営会議を招集し、議長となる。ただし、学長不在の場合は、必要に応じて副学長（副学長が任命されていない場合は学部長）が運営会議を招集し、議長となる。

3) 審議事項

運営会議は、教学に関する企画、執行、調整を円滑に行うため、次の事項を審議する。

- (1) 教育研究に関する中期計画及び年次計画に関すること。
- (2) 学部・学科、大学院の研究科・専攻、センター、各種委員会その他の重要な教育研究組織の設置、廃止及び変更に関すること。
- (3) 教学マネジメントを行う上で必要となる各種方針に関すること。
- (4) 教育研究組織についての点検・評価及び改善・向上に関すること。
- (5) 大学の運営状況についての点検・評価に基づく運営・支援・改善指示に関すること。
- (6) 外部資金の獲得に関すること。
- (7) 予算に関すること。
- (8) 管理運営に関する諸規程の改廃に関すること。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、藍野大学の教育研究に関する重要事項のうち学長が必要と認めた事項に関すること。

4) 意見の聴取

議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことが

できる。

2. 教授会

本学学則第 37 条第 4 項の規定に基づき、藍野大学教授会（以下「教授会」という。）に関し、必要な事項を定めている。

1) 構成員

教授会は、教授及び准教授（以下、「構成員」という。）をもって組織する。教授会は、学部長が議長となる。学部長に事故あるときは、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。

2) 開催

教授会は、原則として毎月（8月を除く。）1 回定例に開催する。ただし、緊急に開催する場合は、この限りでない。

学部長は、構成員の 4 分の 1 以上から開催要求があったときは、教授会を招集しなければならない。

3) 審議事項

教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び除籍
- (2) 学位の授与
- (3) 教育課程、試験及び単位認定
- (4) 学生の賞罰
- (5) 教育研究に関する諸規程の改廃に関すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

教授会は、前項に規定するもののほか、学長、研究科長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議又は学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

4) 意見の聴取

議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことができる。

3. 学内委員会

大学の運営に必要な委員会を以下のとおりである。

(1) 内部質保証委員会

教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努めることを通じて、大学の教育研究等の質を保証し、大学の理念・目的を体現した人材を育成することを目的とする。

(2) 教学 IR 室

教学に関する諸々の情報を収集、分析し、内部質保証委員会その他関連部局、

委員会等にその分析結果を提供することを目的とする組織とする。

(3) 教務委員会

全学的な教育課程・学習成果に関して、責任を負う組織とする。

教職課程部会

国際交流部会

(4) 入学試験・学生募集委員会

全学的な学生の受け入れに関して、責任を負う組織とする。

高大連携部会

入学試験問題作問検討委員会

(5) 教員組織委員会

教員選考部会

FD・SD 推進部会

(6) 学生委員会

全学的な学生の厚生及び支援に関して、責任を負う組織とする。

学習支援部会

就職指導部会

学生相談部会

保健管理部会

ハラスメント防止部会

障害学生修学支援部会

(7) 教員・研究推進委員会

全学的な教育研究等環境の整備及び教育研究推進に関して、責任を負う組織とする。

情報システム・教育機器部会

研究倫理部会

利益相反部会

安全保障輸出管理部会

動物実験部会

(8) 社会貢献委員会

全学的な社会連携・社会貢献に関して、責任を負う組織とする。

市民公開部会

地域貢献部会

(9) 予算配分委員会

予算に関する基本的事項を審議するための組織とする。

(10) 危機管理委員会

大学における様々な危機に迅速かつ的確に対処するための体制を確立し、教職員、学生及び近隣住民等の安全確保を図るとともに、大学の社会的な責任を果たすことを目的とする組織とする。

(11) 中央図書館運営委員会

藍野大学中央図書館（藍野大学短期大学部青葉丘図書館、藍野高等学校図書室及び明浄学院高等学校図書室を含む）の運営を目的とする組織とする。

紀要編集部会

AINO JOURNAL 編集部会

年報編集部会

(12) 中央研究施設管理運営委員会

中央研究施設の管理を目的とする組織とする。

(13) キャリアセンター会議

学内外の関係機関等と連携し、本学の学生及び卒業生の就職活動（再就職に係るものを含む。）及び医療従事者のキャリアアップの支援を行い、本学の人材育成力の向上に資することを目的とする。

(14) 看護研究科委員会

看護研究科の運営を目的とした組織とする。

(15) 健康科学研究科委員会

健康科学研究科の運営を目的とした組織とする。

(16) 学長企画室

学長による円滑な大学運営を補佐することを目的に、学長企画室を設置している。

(17) 広報戦略室

学長のリーダーシップによる藍野大学の認知向上及び広報戦略の推進を補佐することを目的にした組織とする。

(18) 学科運営会議

学科ごとに、教育課程の編成、学生の入学、卒業などの審議ための組織とする。

⑭ 自己点検・評価

大学は、当該大学の目標を明確にし、その目標を達成するために教育・研究等を行うが、その活動状況や目標の達成状況を不断に点検・評価し、目標と現状とで乖離があれば、教育・研究等の活動を改善する必要がある。

この主旨に沿って、本学においては、自己点検・評価を定期的に行い、その結果を教育・研究等の活動の改善とより高度な目標を設定することに役立たせていく。また、自己点検・評価の内容については、大学としてまとめる「自己点検・評価報告書」に包含し、ホームページで公開し、広く社会に説明責任を果たしている。

1. 目的

教育研究水準の向上を図り、教育目標及び社会的使命を達成するため、自らが大学改革に当たるため不断に自己点検・評価活動を行うこととする。

2. 評価事項

本学の自己点検・評価項目は公益財団法人大学基準協会が行う機関別認証評価の項目に準じて、点検・評価を実施する。

3. 委員会の構成

委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 内部質保証委員長
- (2) 教務委員長
- (3) 入学試験・学生募集委員長
- (4) 学生委員長
- (5) 教育・研究推進委員長
- (6) 社会貢献委員長
- (7) 教学 IR 室長
- (8) 広報戦略室長
- (9) 事務センター長
- (10) 学生支援グループ長及び入試広報グループ長 各 1 名
- (11) 前各号に掲げる者のほか、委員長が必要と認めた者。その他、委員会は、必要に応じ、委員長が指名する副委員長を置くことができる。

4. 自己点検・評価の実施方法

方法、体制、認証評価及び学部における自己点検・評価実施体制は、「内部質保証委員会」（平成 26 年度より従来の「自己点検・評価委員会」から改組）が主導しており、大学の第 3 期の認証評価は令和 5 年度に受審し、「適合」の判定を受けた。令和 6 年度からは、第 4 期認証評価に向けて内部質保証委員会において自己点検・評価を実施していく。内部質保証委員会では、教育研究活動や管理運営などの状況について、各委員会において PDCA サイクルを活用し、継続的に改善を図る。

自己点検・評価は、以下の項目について実施する。

- (1) 本学の教育及び研究、各組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自己点検・評価を実施する。
- (2) 各組織は、客観的な根拠資料又はデータに基づき、教育研究等の状況を定期的に自己点検・評価を行い改善に努める。
- (3) 各教員、各組織による各年度の活動成果報告書及び活動計画書の作成を行う。
- (4) 授業改善のための組織的な取組策定を立案し、実施する。
- (5) 「自己点検・評価報告書」の作成、公表及び「自己点検・評価報告書」に対する大学の教職員以外の有識者からの意見の聴取を行い、改善に資する。

自己点検・評価等の結果に基づく改善は、次のとおり進める。運営会議では、自己点検・評価の結果に基づき、改善が必要と認めた事項について、内部質保証委員会にその改善策の

検討を付託する。

- (1) 改善策の検討を付託された委員会は、改善案を作成し、運営会議に提出しなければならない。
- (2) 運営会議は、前項の報告を踏まえ、改善策を決定し、委員会を通じて当該各組織に改善を指示するものとする。
- (3) 改善指示を受けた各組織は、改善状況及び今後の対応策を委員会に報告するものとする。
- (4) 委員会は、前項の報告があった場合は、改善の進捗状況を確認するとともに、運営会議に報告し、進捗状況に応じた対処方法の指示を仰ぐものとする。

5. 結果の活用と公表

評価の結果は、教育活動及び研究活動などの改善策を検討するために活用し、改善計画や各業務運営で達成すべき目標を設定や改善の際に活用する。

結果の公表については、自己点検・評価報告書の刊行と関連部外諸機関への配布、ホームページ上で公開する。

⑮ 情報の公表

大学の教育研究活動等に関する情報を広く社会に公表する。教員の研究テーマや研究業績、研究内容については、「青藍」「紀要」等としてホームページに定期的公開している。これらの刊行物や公開講座等の機会を利用し、地域社会へも本学科の目的の周知を行う。

1. 募集要項情報の開示

主に入試広報グループが中心となり大学のホームページ(<http://univ.aino.ac.jp/>)から行う。

2. 情報公開の内容

学校教育法施行規則第 172 条の 2 における以下の項目については、ホームページ上の情報公開において定期的に更新し、掲出を行う(<http://univ.aino.ac.jp/info/>)。

- ① 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシーに関すること
- ② 教育研究上の基本組織に関すること
- ③ 教員組織、教員(保有する学位及び業績等)に関すること
- ④ 入学者の受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学生の数、修了者の数並びに進学
- ⑤ 者数及び就職者数、その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑥ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- ⑦ 学修の成果に係る評価及び修了認定に当たっての基準に関すること
- ⑧ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑨ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ⑩ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- ⑪ 学則、諸規程、設置認可申請書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書
- ⑫ その他法人情報に関すること

3. 図書館ホームページ

中央図書館のホームページでは、図書館情報として、お知らせ欄や開館カレンダーを始めとする利用案内をトップページに配置し、全所蔵資料(図書・雑誌・AV 資料)は検索ソフト OPAC によって閲覧できる。また、図書館利用規程、施設案内なども閲覧できる。図書館は学術情報の発信源としての役割を担い、図書館が中心に編集している学内の紀要(和文・英文)、について、すべての本文および投稿規程などに関する情報にアクセスすることができる。なお、本学の年報である刊行物「青藍」は、2024 年度より図書館ホームページにて公開している。

4. 刊行物

藍野大学では、学内の英文誌「Aino Journal」を発行している。毎年 1 巻 1 号を発行して現在 20 巻まで発行済みである。また、同じく学内の邦文誌「藍野大学紀要」も毎年 1 巻 1 号を発行して、現在 35 巻まで発行済みである(藍野大学学術機関レポジトリ <https://aino.repo.nii.ac.jp/>)。その他、年報「青藍」は、2023 年度まで発行済みである。研究・教育活動の成果は、英文誌「Aino Journal」、邦文誌「藍野大学紀要」に発表することができる。その他、各種パンフレット、大学案内、学生生活紹介等を発行する。

5. 公開講座

本学では平成 21 年度以降、一般市民のための公開講座を開講している。本学科の開設後は、一層積極的に一般市民のための公開講座および講演会を開いて、地域に対する貢献に努める(資料 6)。

⑩ 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

1. 基本方針

学部教育においては、授業の内容および方法の改善に向けた組織的な取り組みを推進するために、教員組織委員会の下に FD・SD 推進部会を置き、本学の教育研究の質の向上を図る。

2. 組織・体制

教員組織委員会の下に FD・SD 推進部会を置き、教員個々の能力を高めること、教育課程の向上を目指すことを目的に、企画・運営を実施する。

3. FDSD 研修会・講演会

本学教員が、日々の教育活動、教育改善を図るためには、まず本学の建学の精神、教育理念、教育目標について共通の認識が必要である。よって、全教員を対象とした大学の教育理念などに関する研修会を行っている。また、学生による授業評価に基づいた授業改善に関する講演会を外部機関から招聘した専門家により行っている。

4. シラバス整備

学生の履修指導や授業に活かすため、シラバス記載内容について、毎年修正加筆を繰り返してきた。シラバスには授業概要をはじめとし、対応する DP、学習目標、講義内容、成績評価方法などが記載されている。教務委員会では、このシラバスの記載内容についてより学習効果が高まるように検討している。また教員個人がシラバスの記載を内容の確認、修正などを毎年実施し、授業改善にも努めている。

5. 授業アンケート、卒業時アンケート、卒業後アンケートの活用

教学 IR 室にて、学生による授業アンケートを実施し分析している。授業アンケートは授業コースの途中で実施し、教員が授業の後半で授業改善ができるようにしている。卒業時アンケート、卒業後アンケートの分析結果は教務委員会、FDSD 推進部会、内部質保証委員会に報告し、全教職員で共有する。この結果を活用して教育課程の見直しや授業改善に取り組んでいる。また基幹教員について学生から評価の高かった教員を選出し、表彰を行っている。選出された教員による教育講演会も実施している。

6. ピア・レビュー

1 年間で 2 回（前期・後期それぞれ 1 回）、教員同士による授業評価の実施を行い、相互に授業改善に取り組んでいる。

7. 教員による自己点検・評価の報告書（科目レベル・学位プログラムレベル・機関レベル）

毎年、年度末に全教員が自己点検・評価の報告書を提出している。この報告書は科目レベル（基幹教員提出）、学位プログラムレベル（研究科長、学科長提出）、機関レベル（各委員会委員長提出）の 3 つのレベルで提出され、研究科長・学科長、内部質保証委員会、運営会議で確認、検討している。報告書にはその年度の振り返りと次年度の目標などを記載する形式となっており、教育研究内容の見直しに関する役割を果たしている。

今後は、各学科の専門教育における授業改善、基礎教養科目強化のための取り組みなど、学部全体の協働的取り組みまで活動を広げ、単に授業改善にとどまらず組織改善（Organizational Development）に向けた取り組みを推進していく。

⑪ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取り組み

本学科では医学基礎を基盤とし、トレーニング科学を中心とした知識と技能を習得しながら、社会的・職業的自立のための知識と技能を習得する。

基礎科目では、「共生社会論」「人間学」「ボランティア論」などを配置し、広く社会で活躍するための基礎知識と態度などを習得する。

専門基礎科目では、「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」「医学概論」などの医学基礎の科目、「社会保障論」「保健医療福祉行政論Ⅰ」など社会福祉に関する科目を配置し、健康科学分野の専門科目の理解を深める基盤を学習する。

専門科目では、1年次から3年次まで学外実習の科目「健康科学実習Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学内で学習した内容を統合し、問題解決能力を育成する。これらの経験を通して社会的・職業的自立について段階的に学習、自らの職業選択にも役立てる。

2. 教育課程外の取り組み

教育課程に含まれない就職対策、ボランティア活動等は、担任やキャリアセンターで対応する。

3. 適切な体制の整備

学年ごとに担任を配置し、その他、基幹教員、キャリアセンター職員、事務センター職員が連携しながら、学生支援を行う。担任の役割は、定期的な学生面談、学習状況の把握を支援、就職や進路希望の把握と相談を行う。学習状況については、適宜基幹教育、科目担当教員と連携して学習支援を行う。就職支援については、主に担任とキャリアセンターを中心に学生の希望に応じた就職指導と支援を行う。

資料目次

資料 1	藍野大学の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・	p.2
資料 2	カリキュラムマップ等・・・・・・・・・・	p.3
資料 3	コースツリー・・・・・・・・・・・・・・・・	p.6
資料 4	履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・	p.8
資料 5	実習地確保の状況・・・・・・・・・・	p.10
資料 6	市民公開講座一覧・・・・・・・・・・	p.12

資料 1 藍野大学の沿革

藍野大学の沿革

昭和 43 年	医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院 開校
昭和 50 年	医療法人恒昭会藍野病院附属高等看護学院 開校
昭和 54 年	学校法人藍野学院設立、藍野看護専門学校を認可される
昭和 58 年	理学療法学科、作業療法学科、医療秘書・病院管理学科併設のため、学校名を藍野医療技術専門学校と改称
昭和 60 年	藍野学院短期大学 開学
平成 5 年	藍野学院短期大学に専攻科を開設
平成 8 年	滋賀医療技術専門学校 開校
平成 16 年	藍野大学 開学
平成 19 年	藍野学院短期大学附属藍野高等学校 開校
平成 19 年	藍野学院短期大学 第二看護学科 開校
平成 19 年	藍野大学 看護学科 教職課程 課程認定
平成 22 年	藍野大学に臨床工学科を開設
平成 24 年	藍野医療福祉専門学校 廃校
平成 24 年	藍野学院短期大学を藍野大学短期大学部に改称 これに伴い、藍野学院短期大学附属藍野高等学校を藍野高等学校に改称
平成 27 年	藍野大学大学院看護学研究科 開設
平成 29 年	法人名称 学校法人 藍野学院を学校法人 藍野大学に改称
令和 2 年	びわこリハビリテーション専門職大学 開学
令和 6 年	藍野大学大学院健康科学研究科 開設

以上

資料2 カリキュラムマップ 藍野大学医療保健学部 健康科学科（2025年度以降に入学した学生用）

分野	ナンバリング	授業科目名	時間	単位数			配当年次								カリキュラムマップ											
				必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年		学部ディプロマポリシー				学科ディプロマポリシー							
							前	後	前	後	前	後	前	後	a. 知識	b. 技能	c. 態度・姿勢	d. 協創	e. 専門分野の知識	f. アカデミックな知識	g. 専門分野の技能	h. 汎用的な技能	i. 健康科学専門職の態度・姿勢	j. 汎用的な態度・姿勢	k. 協創	
専門科目	健康科学科目	HS3e127 心身健康科学概論	30	2			2												◎				○			
		HO3e128 リハビリテーション医学	30	1				1											◎	○						
		HS3e229 スポーツ外傷・障害論	30	2					2										◎	○						
		HS3e230 生活習慣病と身体活動	30	2					2										◎	○						
		HP3e331 健康増進論	15	1								1							◎		○					
		HS3g105 体力測定論Ⅰ	30	2			2												○		◎					
		HS3g106 体力測定論Ⅱ	30			2		2											○		◎					
		HS3g107 運動処方論Ⅰ	30	2			2												○		◎					
		HS3g108 運動処方論Ⅱ	30			2		2											○		◎					
		HP3g209 パーソナルトレーナー論	30	2						2									○		◎					
		HP3g310 パーソナルトレーナー実習	45	1							1								○		◎					
		HS3g211 レジスタンストレーニング論Ⅰ	30			2			2										○		◎					
		HS3g212 レジスタンストレーニング論Ⅱ	30			2				2									○		◎					
		HS3g313 コンディショニングトレーニング論Ⅰ	30			2					2								○		◎					
		HS3g314 コンディショニングトレーニング論Ⅱ	30		2							2							○		◎					
		HS3g215 スポーツレクリエーション論	30		2					2									○		◎					
		HS3g316 種目別スポーツ特論	15		1							1							○		◎					
		HP3g117 障がい者スポーツ特論	45			1		1											○		◎					
		HS3g318 スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	30	2							2								○		◎					
		HS3g319 スポーツマネジメント論	30			2						2							○		◎					
		HS3g320 コーチング論	30		2							2							○		◎					
		HS3e432 スポーツ経営学	15		1								1						◎		○					
		HS3e333 スポーツ心理学	30		2							2							◎		○					
		HS3e134 医療心理学	15	1				1											◎		○					
		HO3e135 臨床心理学	30	1					1										◎		○					
		HS3e236 社会心理学	30			2				2									◎		○					
		HN3e137 教育心理学	30			2			2										◎		○					
		HS3e238 発達臨床心理学	30		2					2									◎		○					
		HS3e339 障がい者・障がい児心理学	30		2						2								◎		○					
		HO3g321 メンタルヘルス論	30		2							2							○		◎					
		HS3g222 心理アセスメント	30	2						2									○		◎					
		HN3g123 ヘルスキューンケーション	15			1		1											○		◎					
		HS3g124 身体言語学	15		1			1											○		◎					
		HN3f201 教育相談	30		2					2										◎			○			
		HO3g425 特別支援教育特論	30		1									1					○		◎					
		HS3g426 就労支援論	15			1									1				○		◎					
		HS3g327 健康科学と認知症演習	30		1							1							○		◎					
		HO3e240 保育学入門	45			2				2									◎				○			
		HO3e341 住環境コーディネーター論	30			2						2							◎				○			
	実習科目	健康科学研究	HS3i102 健康科学実習Ⅰ	30	2				2													○		◎		
HS3i203 健康科学実習Ⅱ			30	2					2												○		◎			
HS3g228 健康科学実習Ⅲ			60	4						4											◎	○	○			
HS3g329 健康科学実習Ⅳ			60	4							4										◎	○	○			
HS3g330 運動指導実践			60			4						4									◎		○			
健康科学研究	健康科学研究	HS3h202 アクションリサーチⅠ	15	1					1									○				◎				
		HS3h203 アクションリサーチⅡ	15	1					1									○				◎	○			
		HS3h304 健康科学研究法Ⅰ	30	2							2											◎	○			
		HS3h305 健康科学研究法Ⅱ	30	2								2										◎	○			
		HS3h406 健康科学課題研究	60	4									4						○				◎		○	

○ナンバリングについて

ナンバリングは、各授業科目の体系性や学修の段階等を示した番号です。
ナンバリングの見方は以下の通りです。

【例】 BA 1 a 1 01

(1) (2) (3) (4) (5)

(1)学科等略称	基礎科目	BA
	看護学科	NS
	理学療法学科	PT
	作業療法学科	OT
	臨床工学科	ME
	健康科学科	HS
	専門基礎2学科共通	該当学科の1文字＋他の学科の1文字
	専門基礎3学科共通	該当学科の1文字＋C
	専門基礎4学科共通	該当学科の1文字＋A
(2)科目大区分	基礎科目	1
	専門基礎科目	2
	専門科目	3
(3)科目中区分	a～d 基礎科目	
	e～k 各学科のDPの中区分	
(4)履修年次	1年	1
	2年	2
	3年	3
	4年	4
(5)連番	01～	(3)科目中区分のグループの中での連番

○カリキュラムマップについて

カリキュラム・マップは、各科目がディプロマ・ポリシー(修了の認定、学位授与に関する方針。)のどの項目と関連しているかを示したものです。

◎は関連が特に深いもの、○は関連が十分認められるものを表しています。

授業科目	表示数	表示ルール
1単位科目	1～2	◎は0～1つ。(◎、○、◎○、○○の4パターン)
2単位科目	1～3	◎は1つ。(◎、◎○、◎○○の3パターン)
4単位以上科目	2～4	◎は1～2つ。それ以外は表示数の範囲で自由。

資料3

基礎科目 コースツリー

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
達成目標 ディプロマポリシー		一般教養と医療の基礎を身につけ、より広い視野から医療について学ぶ。		医療に関連する基礎的知識を身につけ、最新の医療についても学ぶ。		生活を豊かにする専門的な内容を学ぶ。			
DP1 知識	教養教育科目	心理学（NS・PT・OT） 文化人類学 法学 経済学入門	論理学入門 心理学（ME） 共生社会論 人権とジェンダー 近畿の歴史と文化 数理・データサイエンス・AI入門	人間学（NS）	人間学（PT・OT・ME） 死生学入門 環境と生活	マーケティング論 簿記入門 発酵学入門			
	語学教育科目	英語 I	英語 II	医療英語 I	医療英語 II				
	理系基礎科目	数学基礎 I 物理学基礎 I 化学基礎	統計学 II（NS・ME） 数学基礎 II 物理学基礎 II 生物学入門		統計学 II（PT・OT） 再生医療入門				
	初年次教育科目	学びの基盤 コミュニケーション論（NS・ME） 統計学 I（NS・ME） 情報科学 I	コミュニケーション論（PT・OT） 体育講義（NS）	統計学 I（PT・OT）					
	その他	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目							
DP2 技能	教養教育科目		フィールドワーク入門		統合医療論 デジタル・コミュニケーション				
	語学教育科目	複言語・複文化へのいざないA・B・C							
	理系基礎科目		情報科学 II（NS・PT・OT）						
DP3 態度・姿勢	教養教育科目	哲学入門 宗教学入門							
	初年次教育科目	健康科学 体育実習							
DP4 協創	教養教育科目	ボランティア論			国際比較福祉論				
	その他	国際医療研修							

資料3

健康科学科 コースツリー（2025年度以降入学生用）

○専門基礎科目 ◎専門科目		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
達成目標 ディプロマ ポリシー		人体の構造と機能について理解すると 医学の基礎知識を身につける		疾患と障がいの成り立ちを理解する 健康科学の基礎知識と技能を身につける		心と身体の健康科学分野の技能を身につける 健康科学分野の問題解決方法を身につける		健康科学分野における科学的思考力を身 につける	
DP1 知 識	専門分野の 知識	○解剖生理学Ⅰ ○医学概論 ○医療制度論 ○生体機能構造論実習 ◎心身健康科学概論	○解剖生理学Ⅱ ○社会保障論 ○公衆衛生学 ◎リハビリテーション医学	○運動生理学 ○基礎運動学 ○バイオメカニクス ○内科学Ⅰ ○整形外科Ⅰ ○臨床医学概論 ○スポーツ外傷・障害論 ○生活習慣病と身体活動	○機能神経解剖学 ○スポーツ生理学 ○栄養薬理学 ○整形外科Ⅱ ○社会保障論 ○発達臨床心理学 ◎パーソナルトレーナー論	○保健医療福祉行政論Ⅰ ○スポーツマネジメント論 ◎障がい者・障がい児心理学	○健康増進論 ◎スポーツ心理学 ◎メンタルヘルス論 ◎コーチング論		
	アカデミックな 知識								
DP2 技 能	専門分野の 技能	◎体力測定論Ⅰ ◎運動処方論Ⅰ ◎医療心理学 ◎障がい者スポーツ特論	◎体力測定論Ⅱ ◎運動処方論Ⅱ ◎臨床心理学	◎レジスタンス トレーニング論Ⅰ ◎心理アセスメント ◎アクション・リサーチⅠ ◎アクション・リサーチⅡ	◎レジスタンス トレーニング論Ⅱ ◎スポーツレクリエ ーション論 ◎住環境コーディネーター論 ◎健康科学実習Ⅲ	◎パーソナルトレーナー実数 ◎コンディショニングトレーニング論Ⅰ ◎スポーツ外傷・障害の評価と救急措置	◎健康科学と認知症演習 ◎コンディショニングトレーニングⅡ ◎種目別スポーツ特論	◎スポーツ経営学	
	汎用的な 技能			○接患・接遇法					
DP3 態 度 ・ 姿 勢	健康科学専門 職の態度・ 姿勢		◎健康科学実習Ⅰ	◎健康科学実習Ⅱ				◎健康科学課題研究	
	汎用的な 態度・姿勢					◎健康科学研究法Ⅰ	◎健康科学研究法Ⅱ		
DP4 協 創	協創		○シン・メディカルⅠ		○シン・メディカルⅡ				

資料 4 ① トレーニング科学の学習を中心とした履修モデル

	1 年前期		1 年後期		2 年前期		2 年後期		3 年前期		3 年後期		4 年前期		4 年後期	
基礎科目	心理学	1	共生社会論	1			国際比較福祉論	1	マーケティング論	2						
	経済学入門	1	人権とジェンダー	1			デジタル・コミュニケーション	2	簿記入門	1						
	ボランティア論	1	教育社会学	2												
	英語 I	1														
	英語 II	1														
	複言語・複文化へのいざない A	1														
	学びの基礎 情報科学 I	2 2	コミュニケーション論	1	統計学 I	1										
専門基礎科目	解剖生理学 I	2	解剖生理学 II	2	運動生理学	1	機能神経解剖学	2								
					基礎運動学	2	スポーツ生理学	1								
					バイオメカニクス	1	基礎運動学実習	1								
	医学概論	1	救急救命学	1	臨床医学概論	1	栄養薬理学	1								
	医療制度論	2	公衆衛生学	1	整形外科 I	1	整形外科 II	1								
専門科目	社会福祉論		社会福祉論	1			社会保障論	1	保健医療福祉行政論 I	2						
	シン・メディカル I	0.5					シン・メディカル II	0.5								
	心身健康科学概論	2	リハビリテーション医学	1	スポーツ外傷・障害論	2					健康増進論	1				
					生活習慣病と身体活動	2										
	体力測定論 I	2	体力測定論 II	2			パーソナルトレーナー論	2	パーソナルトレーナー実習	1	健康科学と認知症演習	1				
	運動処方論 I	2	運動処方論 II	2	レジスタンストレーニング論 I	2	レジスタンストレーニング論 II	2	コンディショニングトレーニング論 I	2	コンディショニングトレーニング論 II	2				
							スポーツレクリエーション論	2	スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	2	種目別スポーツ特論	1				
									スポーツマネジメント論	2	コーチング論	2	スポーツ経営学	1		
	医療心理学	1	臨床心理学	1			発達臨床心理学	2	障がい者・障がい児心理学	2	スポーツ心理学	2				
					心理アセスメント	2					メンタルヘルス論	2				
			健康科学実習 I	2	健康科学実習 II	2	健康科学実習 III	4	健康科学実習 IV	4	運動指導実践	4				
					アクションリサーチ I	1			健康科学研究法 I	2	健康科学研究法 II	2	健康科学課題研究（通年）	4		
					アクションリサーチ II	1										

資料４② トレーニング科学と社会科学の両方を学習する履修モデル

	1 年前期		1 年後期		2 年前期		2 年後期		3 年前期		3 年後期		4 年前期		4 年後期	
基礎科目	ボランティア論	1	共生社会論	1	生涯学習Ⅰ	2	生涯学習Ⅱ	2	生涯学習支援Ⅰ	2	生涯学習支援Ⅱ	2				
	英語Ⅰ	1	人権とジェンダー	1	医療英語Ⅰ	1			社会教育経営Ⅰ	2	社会教育経営Ⅱ	2				
	英語Ⅱ	1	教育社会学	2	統計学Ⅰ	1					社会教育演習	2				
	教育原論	2	コミュニケーション論	1												
	学びの基盤	2														
専門基礎科目	情報科学Ⅰ	2														
	解剖生理学Ⅰ	2	解剖生理学Ⅱ	2	運動生理学	1	基礎運動学	1								
					基礎運動学	2	基礎運動学実習	1								
	医学概論	1	救急救命学	1	バイオメカニクス	1	栄養薬理学	1								
	医療制度論	2	公衆衛生学	1	臨床医学概論	1	老年医学	1								
専門科目	シン・メディカルⅠ	0.5			精神医学	1	小児科学	1								
							社会保障論	1								
							シン・メディカルⅡ	0.5								
	心身健康科学概論	2	リハビリテーション医学	1	スポーツ外傷・障害論	2										
			身体言語学	1	生活習慣病と身体活動	2										
専門科目	体力測定論Ⅰ	2	体力測定論Ⅱ	2			パーソナルトレーナー論	2	パーソナルトレーナー実習	1	種目別スポーツ特論	1				
	運動処方論Ⅰ	2	運動処方論Ⅱ	2	レジスタンストレーニングⅠ	2	レジスタンストレーニングⅡ	2	コンディショニングトレーニングⅠ	2	コンディショニングトレーニングⅡ	2				
			ヘルスコミュニケーション	1			スポーツレクリエーション論	2	スポーツマネジメント論	2	スポーツ心理学	2				
	医療心理学		教育心理学	1	社会心理学	2	発達臨床心理学	2	障がい者・障がい児心理学	2	メンタルヘルス論	2				
							教育相談	2			健康科学と認知症演習	1			就労支援論	2
専門科目											コーチング論	2				
			健康科学実習Ⅰ	2	健康科学実習Ⅱ	2	健康科学実習Ⅲ	4	健康科学実習Ⅳ	4						
					アクションリサーチⅠ	1			健康科学研究Ⅰ	2	健康科学研究Ⅱ	2	健康科学課題研究	4		
					アクションリサーチⅡ	1										

資料5
実習地確保の状況

	実習施設名			所在地			授業科目ごとの受入可能人数			
	関係法人	施設名	受入部署名	郵便番号	都道府県	住所	健康科学実習Ⅰ	健康科学実習Ⅱ	健康科学実習Ⅲ	健康科学実習Ⅳ
1	株式会社Raseek			5250032	滋賀県	草津市大路1丁目1-1 エルティ932 4F 区画4	2	2	2	2
2	社会福祉法人 珠寿会	輝きのまち ケアハウス池田 輝きのまち デイサービスセンター池田		5720030	大阪府	寝屋川市池田本町5番15号	2	2	2	2
3	医療法人 正志会	デイサービスしょうほう		5330012	大阪府	大阪市東淀川区大道南 3丁目15-10	2	2	2	2
4	医療法人 正志会	正志会ちとせ長命診療所 総合ケアセンター ちとせ	長命デイサービス ちとせ	5230808	滋賀県	近江八幡市長命寺町37-1	2	2	2	2
5	社会福祉法人 わかくさ福祉会	わかくさ障害者作業所		5681136	大阪府	大阪府高槻市郡家新町48-2	2	2	2	2
6	社会福祉法人 花の会	共働舎花の会		5691042	大阪府	高槻市南平台3-29-9	2	2	2	2
7	社会福祉法人 花の会	第2共働舎花の会		5691042	大阪府	高槻市南平台3-29-10	2	2	2	2
8	社会福祉法人 花の会	第4共働舎花の会	チューリップ(リサイクルショップ)	5691123	大阪府	高槻市芥川町2-12-23	2	2	2	2
9	社会福祉法人 花の会	第4共働舎花の会	たんぽぽ亭(お弁当屋)	5691115	大阪府	高槻市古曽部町1-11-20	2	2	2	2
10	社会福祉法人 花の会	第4共働舎花の会	こすもす(リサイクルショップ)	5691123	大阪府	高槻市芥川町2-8-22	2	2	2	2
11	社会福祉法人 花の会	第4共働舎花の会	ラベンダー(生活介護事業所)	5690031	大阪府	高槻市大冠町3-13-1	2	2	2	2
12	社会福祉法人 花の会	はなみずき		5691042	大阪府	高槻市南平台3-28-15	2	2	2	2
13	社会福祉法人 京都悠仁福祉会	京都市大宅地域包括支援センター		6078179	京都府	京都市山科区大宅御所田町115-1	2	2	2	2
14	医療法人医仁会	京都市醍醐・南部地域包括支援センター		6011434	京都府	京都市伏見区石田森南町9	2	2	2	2
15	医療法人医仁会	京都市下京区地域介護予防推進センター		6008223	京都府	京都市下京区大黒町227	2	2	2	2
16	医療法人財団康生会	京都市下京・中部地域包括支援センター		6008233	京都府	京都市下京区西洞院通塩小路上の北不動堂町573	2	2	2	2
17	株式会社Walong	デイサービスアルモ中津		5310071	大阪府	大阪市北区中津6-8-33 第一三井ビル1F	2	2	2	2
18	株式会社Walong	リハスタジオアルモ都島		5340027	大阪府	大阪市都島区中野町4丁目6番13 プレステージ桜ノ宮102	2	2	2	2
19		大阪府立西成高等学校		5570062	大阪府	大阪市西成区津守1丁目13-10	2	2	2	2
20	一般社団法人	タウンスペースWAKWAK		5690814	大阪府	高槻市富田町2丁目13-8ハイツ白菊1F	2	2	2	2
21	特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと	いくのコーライズパーク		5440034	大阪府	大阪市生野区桃谷5丁目5-37	2	2	2	2
22		大阪府立柴島高等学校		5330024	大阪府	大阪市東淀川区柴島1丁目7-106	2	2	2	2
23	NPO法人ZUTTO	居場所ぐーてん		5610832	大阪府	豊中市庄内西町4-25-5	2	2	2	2
24	団楽長屋プロジェクト	団楽長屋		5600036	大阪府	豊中市蛍池西町1-3-32	2	2	2	2
25	医療法人医誠会	医誠会国際総合病院	リハビリテーション部	5300052	大阪府	大阪市北区南扇町4-14	2	2	2	2
26	株式会社ヤマウチ	スポーツクラブ JOYFIT摂津富田		5691145	大阪府	大阪府高槻市富田丘町2-2 ステーション高槻1F	2	2	2	2
27	株式会社松原商会			6580024	兵庫県	神戸市東灘区魚崎浜町27-19	2	2	2	2

<補足>

別添資料として実習先の承諾書 18 枚を添付した。

市民公開講座

2024. 4時点

市式公開講座

2024. 4月

年度	講座名称	日程	講師
2011	身体と心の健康のために② ー脳の故障とその介護ー		
	1. 脳の故障 ー高次脳機能障害についてー	9月17日（土）	林部 美紀
	2. 自宅で役立つ介護術		石橋 文枝・長岡 恵美子
	身体と心の健康のために① ー心も体もリフレッシュー		
	1. ストレスと病気	10月8日（土）	足利 学・飯田 英晴
2. 健康維持のためのストレッチ	植田 昌二・杉本 明文		
2012	健康で元気な毎日のために		
	ストレスと病気 ーストレス対処とリラックス体操ー	9月1日（土）	足利 学・飯田 英晴・佐伯 武士
	ワンダフルエイジング ー心身ともに健康な毎日をおくるためにー	9月15日（土）	飯田 英晴・林部 美紀・山科 吉弘
2013	元気な毎日のために、「備えること」の大切さ		
	お父さんのための前立腺がんのお話 最近増えている前立腺がん ー前立腺がん検診カー	9月14日（土）	水谷 陽一
	あなたのために、大切な人に、予防運動 ー無理のない運動ー		
	1. 転ばないからだづくり ～楽しくできる足指の運動～	10月5日（土）	本多 容子
	2. 介護する前に自分の体づくりもしませんか		玉地 雅浩
2014	もっと健康に アクティブな備え		
	1. お父さんのための前立腺がんのお話 ー最近増えている前立腺がんー	9月20日（土）	水谷 陽一
	2. 毎日の健康法 自宅でできる「むくみ対策」 ーリンパドレナージュについてー		熊田 仁
2015	取り戻そう アクティブな生活		
	1. グリーフケア ー家族を亡くした悲しみのケアー	9月12日（土）	飯田 英晴
	2. バリアフリーのまちづくり		長辻 永喜
	知っておきたい肩関節と五十肩	9月26日（土）	熊田 仁
2016	家族みんなで、明るくすこやかに！		
	1. 産後うつ病と社会的支援	9月10日（土）	齋藤 祥乃
	2. 育児中のストレス		飯田 英晴
	すこやかな毎日、いつまでも！		
	1. 認知症の診断と治療：最近の進歩	9月24日（土）	武田 雅俊
2. 認知症予防～今から始めてみませんか？ 脳と身体を使ったエクササイズ～	玉地 雅浩、梶本 浩之		
2017	ずっと、いきいきと暮らすための知識～あなたは大丈夫ですか？		
	1. 認知症者の行動を理解し、予防するための知識	9月2日（土）	酒井 浩
	2. 認知症予防～今から始めてみませんか？ 脳と身体を使ったエクササイズ～		玉地 雅浩、梶本 浩之
	認知症予防と認知予備力	9月16日（土）	武田 雅俊
2018	ずっと、いきいきと暮らすための知識		
	1. 認知症者の行動を理解し、予防するための知識	9月1日（土）	酒井 浩
	2. 女性の排尿トラブル		水谷 陽一
	認知症予防～今から始めてみませんか？ 脳と身体を使ったエクササイズ～	9月8日（土）	玉地 雅浩、梶本 浩之
2019	健康寿命をのばして、いきいきと		
	～超高齢化社会を支える住まいと暮らし 歳を重ねてもその人らしく暮らすコツ～	9月1日（土）	高齢者住宅経営者連絡協議会会長 森川悦明、 酒井 浩
	1. 認知症予防 ～始めよう！脳と身体を使った エクササイズ～	9月8日（土）	白井 雅子
	2. 男性の排尿トラブル		水谷 陽一

年度	講座名称	日程	講師
2020	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施なし		
2021	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施なし		
2022	災害に備える		
	1. あなたの災害関連死を防ぐ備え方	9月10日（土）	西上 あゆみ
	2. 東日本大震災後のリハビリテーションの経験		青山 宏樹
	加齢に伴うこころの諸問題		
	1. 睡眠障害 / 2. 認知症と偽認知症	2月11日（土）	飯田 英晴
	3. 加齢とストレス / 4. 高齢者の問題行動と豊かな老後	2月18日（土）	飯田 英晴
2023	慢性閉塞性肺疾患（COPD）について理解しよう		
	1. COPDの予防と早期発見の重要性	6月24日（土）	村尾 仁 （元大阪医科薬科大学病院 呼吸器内科 医師）
	2. COPDの呼吸リハビリテーション-COPDになってから始める人生の楽しみ方-		千住 秀明 （びわこリハビリテーション専門職大学 理学療法学科 教授）
	3. 肺年齢を測定してみませんか？		山科 吉弘
	心不全について理解しよう		
	1. 心不全ってなに？ 心不全の予防と早期発見の重要性	9月30日（土）	星賀 正明 （大阪医科薬科大学病院 循環器内科 教授）
2. 最新医療機器を用いた心疾患治療について	稲盛 修二 （藍野大学 臨床工学科 教授）		
3. 心不全になったら運動できないの？日常生活で気を付けるポイント	寺田 茂 （藍野大学 理学療法学科 教授）		
2024	パーキンソン病について知ろう		
	1. 神経の解剖とはたらき ～パーキンソン病を理解するために～	6月29日（土）	田中 俊典 （藍野大学短期大学部 教授）
	2. パーキンソン病の臨床		石田 志門 （大阪医科薬科大学 非常勤講師、大阪蒼生病院 医師）

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- (1) 新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 2
- (2) 人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・・・・・ p. 4
- (3) 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 7
- (4) 新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・・・・・ p.15

(1) 新設組織の概要

1) 新設組織の概要

新設組織「健康科学科」は、藍野大学医療保健学部健康科学科（以下、健康科学科とする）として設置し、修業年限 4 年間、入学定員 30 人（編入学定員なし）、収容定員 120 人とする。授与する学位の分類は保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）、授与する学位は、学士（健康科学：Bachelor of Health Science）とする。開設時期は令和 7 年 4 月とする。基幹教員は 8 人で構成し、内訳は、医療保健学部看護学科より 2 人（教授 1 人、助教 1 人）、医療保健学部理学療法学科より 4 人（教授 3 人、助教 1 人）が健康科学科に異動し、新規に 2 人（教授 2 人）を基幹教員として採用する。

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
藍野大学 医療保健学部 健康科学科	30	0	120	大阪府茨木市東太田 4 丁目 5-4

2) 新設組織の特色

① 養成する人材像

藍野大学医療保健学部では、建学の精神「愛智精神（Philo-sophia）」に基づく人間教育を行い、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することを目的としている。特に保健・医療・福祉に係る幅広い知識と技能を教授し、豊かな人間性、倫理観と最良の適応力と創造性を備えた、実践・教育・研究の場で活躍できる能力を修得することを目的としている。

新設学科「健康科学科」では、心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関する専門知識と技能、さらに地域コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることで、様々な健康問題に柔軟に対応し、対象となる個々人のみならず地域コミュニティにおける健康増進に寄与できる人材育成を目的とする。育成にあたっては、健康科学について学びながら、健康運動実践指導者、NSCA パーソナルトレーナーなどの資格取得条件を満たすように教育課程を編成し、健康科学の知識や技術の習得を目指す。

② 教育内容

総合的な教養及び健康科学分野に関連する医学、保健・医療・福祉の基礎知識、心と身体の健康増進を支援するための健康科学の専門知識と技能、コミュニケーション能力、問題解決能力を修得させることを学習目標としている。

(1) 保健・医療・福祉の幅広い知識を習得している人材の育成

人々の心と身体の健康を維持または改善に関わる実践者になるためには、保健・医療・福祉についての幅広い知識を習得している必要がある。まず、健康と

いう概念について理解し、疾病の予防、健康な生活習慣など公衆衛生施策、医療制度や医療サービスの仕組みを理解し、社会福祉施策など、幅広い知識を有した人材を育成する。

- (2) 健康科学に関する専門知識と技能を習得し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を備えている人材

心と身体の健康の概念を包括的に理解し、医学知識を基盤に、解剖学、生理学、栄養学、心理学などの専門分野を通じて健康に関する基本的な知識を習得し、生体計測やトレーニング科学に基づいたトレーニング指導の技能、問題解決能力、また心理学に基づいた健康行動の変容を促進するための理論を技能も習得している人材を育成する。

- (3) 地域の人々の健康促進を図るためのコミュニケーション能力とリーダーシップを備えた人材の育成

地域との連携を図りながら、健康に関する課題に対処するためのコミュニケーション能力を有し、リーダーシップを発揮でき、地域の健康促進に向けた創生的なアプローチを推進できる人材を育成する。

3) 既設組織の収容定員変更について

新設組織「健康科学科」を開設することと並行して、既設学部・既設学科を以下の通り改組する。

【既設組織】

既設組織	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
藍野大学 医療保健学部	看護学科	115	2	464	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
	理学療法学科	100	-	400	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
	作業療法学科	40	-	160	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
	臨床工学科	40	-	160	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4

【新設組織】

新設組織では、医療保健学部を看護学部看護学科（令和6年5月届出）と医療保健学部理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科・健康科学科に改組する。この改組にあたり、理学療法学科の定員を100人から80人（△20）、臨床工学科の定員を40人から30人に（△10）、そして、新たに健康科学科を30人定員で開設する。

新設組織	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
藍野大学 医療保健学部	理学療法学科	80	-	320	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
	作業療法学科	40	-	160	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
	臨床工学科	30	-	120	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
	健康科学科	30	-	120	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4
藍野大学 看護学部	看護学科	115	2	464	大阪府茨木市東太田 4丁目5-4

(2) 人材需要の社会的な動向等

1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

我が国の世界でもトップクラスの超高齢社会を迎えている。65歳以上人口は、3,624万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も29.0%となった。そして現在は少子化による人口減少という課題にも直面し、15~64歳人口は、平成7年に8,716万人でピークを迎え、その後減少に転じ、令和4年には7,421万人と、総人口の59.4%となっており、出生数の減少は、生産年齢人口にまで影響を及ぼし、令和14年に6,971万人と7,000万人を割り、令和52年には4,535万人となると推計されている。社会保険制度全体の見直しも行なわなければならない状況が続いている。将来の男女の平均寿命は延び、令和52年には、男性85.89年、女性91.94年となり、女性は90年を超えると見込まれている（資料1）。高齢化が進むとともに健康状態には問題が起きやすく、年齢が高くなるほど、健康状態は「良くない」と回答した人の割合が高くなっており、80歳以上では男性で3割を超え、女性で約4割となっている（資料2）。しかし、65歳以上の人で、若い時から健康に心がけていると回答した人は、健康状態が「良い」と回答した人が多く、40歳代あるいはそれ以前から健康に心がけている人の約半数は健康状態が「良い」と回答し、早い年代から健康に心がけることが重要であるといえる。

健康を保つためには、食事や運動、そして人とのコミュニケーションも重要である。しかし、65歳以上の一人暮らし者が増加傾向にあり、令和2年には、男性15.0%、女性22.1%となっている（資料3）。新型コロナウイルス感染症拡大により、高齢者のコミュニケーションには変化が生じており、人と直接会ってコミュニケーションをとることが「減った」と回答した割合が6割を超えている。またインターネットなどで情報を取得したり、携帯電話で話をする機会が増えている一方、情報機器の使い方がわからない、面倒だと感じている人が50.9%と半数を示しており、高齢者の一人暮らしに加えて、デジタルトランスフォーメーションの加速化が予測される中、情報機器が使えないことによる様々な問題が増加する可能性もある。

高齢化で起こる問題は、若者が流出する地方に限ったことではなく、例えば本学の所在地

である大阪府の高齢化率は上昇が続いており、全国と比較するとやや低いものの、増加率は全国よりも高い状況である。第1号被保険者の要介護・要支援認定者の推移は、2000年から2023年4月までの間で、全国平均を上回る増加割合となっている（資料4）。

以上をふまえると、高齢化と人口減少が続く日本においては、いかに健康寿命を延伸するのかということが重要な課題である。そこで、厚生労働省では、全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現に向け、誰一人取り残さない健康づくりの展開とより実効性をもつ取組の推進を通じて、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な事項を示し、令和6年度から令和17年度までの「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動（健康日本21（第三次））」を推進することと定めている。この健康日本21（第三次）では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小、個人の行動と健康状態の改善、社会環境の質の向上を基本方針として掲げている。

個人の行動と健康状態の改善では、栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠、飲酒、喫煙などの改善に取り組み、生活習慣病の発症予防や重症化予防を促進するとともに、ロコモティブシンドローム、メンタル不調などの予防も重視している。そしてこれらは個人の問題としてだけでなく、社会環境にも影響を受けると考え、就労、ボランティア、通いの場等の居場所づくりや社会参加の取組に加え、各人がより緩やかな関係性も含んだつながりを持つことができる環境整備や、心の健康を守るための環境整備を行うことで、社会とのつながり・心の健康の維持及び向上を図ることも挙げられている。

このような健康増進は、個人が医療にかかる前の段階（未病）からのアプローチが重要である。そのためには、日常の中で、人々が健康増進、健康づくりにアクセスしやすい環境の構築が大切であり、様々な年代、コミュニティ、場所に構築されていることが望ましい。本学の学科で育成している看護師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士は、医療従事者として人々の健康に関わる職種であるが、主には何かの疾患を抱えている人が対象である。そこで新たに健康科学科を開設し、地域医療に携わる医療従事者を育成することに加え、未病の状態である地域の人々の健康を支え、地域生活を支援する人材育成を行うために「健康科学科」を開設し、医学の知識を基盤とし、健康科学に関する専門知識と技能を習得し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を備えている人材を育成する。将来の日本の人口構成、高齢化、健康日本21（第三次）の方向性をふまえると、健康科学に関する知識と技能を持つ人材の需要は高く、多方面にわたり貢献できると考える。

2）中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

リクルート進学総研は、「18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向2020年」を公開しており、18歳人口は2032年に102.4万人となり、2020年から14.3万人減少すると予測している。少子化が進む現在、18歳人口は減少傾向だが、全国的にみた場合、大学への入学対象人口はやや増加傾向にある。文科省の大学入学者数等の推移の資料より、本学の所在地であり、主な受験者が居住する関西圏（滋賀、京都、大阪、兵庫）の大学進学率はすべて約6割であり、全国と比較しても多い割合となっている。

3) 新設組織の主な学生募集地域

① 出身高校の所在地県別の入学者数の構成比

本学の出身高校の所在地県別入学者数の構成比は以下の通りである。本学と同じ大阪府にある医療系大学の森ノ宮医療大学の所在地県別在籍者数を示す。本学は今後も大阪府を中心に京都府、滋賀県の学生進学者を見込んでいる（別紙 1）。

本学 令和 6 年度入学生の出身都道府県構成比

	都道府県名	人数	構成比
1	大阪府	147	48.83%
2	京都府	58	19.26%
3	滋賀県	55	18.27%
4	兵庫県	39	12.95%
5	和歌山県	2	0.66%

森ノ宮保健医療大学 令和 5 年度 4 月在籍学生の出身都道府県構成比

	都道府県名	人数	構成比
1	大阪府	1194	60.78%
2	兵庫県	307	15.62%
3	奈良県	147	7.48%
4	京都府	64	3.25%
5	和歌山県	54	2.74%

（森ノ宮医療大学ホームページより <https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/suji/students.html>）

② 新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

本学の所在地である大阪府の定員充足状況は、令和 3 年が 101.38%、令和 4 年度が 102.98%、令和 5 年度が 101.38%と、3 年間でほとんど変化がなく、100%を超えており、定員は充足できると考えられる。

③ 新組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

医療保健学部は、定員充足率が令和 3 年度 103.68%、令和 4 年度 96.48%、令和 5 年度は 89.5%で、3 年間で 13.7%低下している。令和 5 年度は、医学、農学系以外はすべての学問分野で志願者・入学者が減少し、スポーツ健康科学部は、令和 3 年年度 97.38%、令和 5 年度 108.97%との比較で、11.59%上昇しており、本学の健康科学科は医療保健学部属するが、医療従事者の国家資格受験資格はとらないため、スポーツ健康科学部の定員充足率も参考に検討すると、スポーツ健康科学部と同様の定員充

足率が期待できる。

④既設組織の定員充足の状況

本学には既設の大学院として看護学研究科、既設の学部として医療保健学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科）がある。医療保健学部としては、過去5か年では入学定員に対する入学者数の比率が、看護学科と理学療法学科では、1.08から1.13の間、収容定員に対する在籍学生数比率が1.08から1.14の間で堅調に推移している。

看護学科では、収容定員数を2018年度に80名から90名に、さらに2020年度には115名に増員変更している。理学療法学科も2020年度に80名から100名に増員変更している。社会から求められる、看護師をはじめとする医療従事者の増員に応えるための変更であり、看護学科、理学療法学科ともに定員増により収容定員が未充足になることは生じていない。一方、作業療法学科では、2020年度、2023年度に未充足、臨床工学科では2021年度以降は未充足が続いている。近年の医療従事者養成大学の増加により、受験者数が減少傾向である点や歩留まり率の予想が困難であることから生じていることから、学生の受け入れを安定化する必要がある。また、理学療法学科では、これまで定員を下回ったことはないが、2025年度から高度な理学療法を提供できる人材育成を目指し、定員を100人名から80名に減員する予定である。

以上のように、作業療法学科、臨床工学科の定員充足率を安定化させること、理学療法学科の定員を減員することもふまえ、新しく健康科学科を開設し、大学全体への収容定員数を変更せずに、安定して収容定員を確保できるようにしたいと考えている（別紙2）。

（3） 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

医療保健学部（既設）は、高校訪問や校内ガイダンスへの出展のほか、各広報媒体社（大学情報誌等）への記事掲載、テレビCMやHP・各種SNSなどによる情報発信等を通じ、資料請求者の来学（オープンキャンパスへの誘導）から出願、入学に繋げることを狙いとして各種の学生募集活動を実施している。

（1）高校訪問等の実施

本学は、高校訪問を学生募集活動の中心に位置付け、全学を挙げて訪問を実施している。

2023年度は、京阪神及び滋賀県内に立地する高校のうち、過去の出願状況などを踏まえ164校を訪問対象校に選定し、高校側の進路指導に適時のタイミングとなるよう、年4回（5月・9月・12月・2月）の訪問を実施した。2024年度入試では、訪問対象校のうち53.7%に当たる88校から実際に受験者があったところである。

2024年度についても引き続き京阪神及び滋賀県内計200校への訪問を目標とし、

2025 年度入試の変更点の説明や新学科紹介、オープンキャンパスの案内などを内容として継続的に訪問を実施する計画である。

また、高大連携については、令和 5 年度までに近隣 7 校との連携を実施している。令和 6 年度についても 2 校との連携協定締結を目標とし、候補校との調整を進めているところである。

このほか、民間事業者が主催する高校内ガイダンスなどにも多数出展しており、令和 5 年度は高校内ガイダンス 140 校のほか、会場型ガイダンス 25 会場にも出展し、来場者への本学 PR を実施した。

(2) オープンキャンパスの活用

2023 年度は 10 回のオープンキャンパスを開催し、全 1,018 名（うち高 3 生・既卒者 615 名）の参加を得た（本年度も 10 回の開催を予定）。オープンキャンパス当日は各学科紹介や学科体験、キャンパスツアー、サークル紹介などを実施し、なるべく在学生からリアルな大学生活について聞いてもらうことで進学後の姿や学修内容について具体的に把握することを通じ、本学入学への誘導は勿論のこと、入学後の退学率の低減にも努めている。

参加者に対しては大学選びのポイントや本学のイメージ、オープンキャンパスの印象などを中心とするアンケート調査も実施し、次回の企画運営の改善にも活用しているほか、参加者には SNS を通じてお礼動画や入試情報の配信等を行い、出願・入学まで繋げるサイクルを回している。

(3) 大学案内・学生募集要項等の資料請求

本学は各種広報媒体社（リクルート、マイナビなど）に記事を掲載し、各社を通じた資料請求や本学 HP からの請求に対して大学案内及び学生募集要項・オープンキャンパス案内等を発送している。2023 年度は年間で 9,259 件の資料請求があり、請求者に対しては資料発送後も SNS を通じ、本学情報の発信に取り組んでいる。

(4) ホームページ・SNS の活用

本学 HP を通じて入試・イベント情報のほか在学生からのメッセージ、進路情報などを発信している。2023 年度は、本学トップページには全 181,727 件のアクセスがあったほか、オープンキャンパス案内ページ（5 万件程度）や入試情報サイト（4.1 万件程度）などのランディングページの閲覧が多い状況であった。

2024 年度は、HP 全体のリニューアルを計画しており、併せて在学生の紹介や合格者の声といったウェブコンテンツの一層の充実を図ることとしている。

SNS については各種取り組んでいるところであるが、2024 年度からは、在学生アンケートを踏まえて特に LINE による入試・OC・在学生・教員情報等を 2 週間に一度程度発信しているほか、Instagram のストーリーズを用いて学内風景・学生らの模様などの情報発信を毎日実施している。

イ 新設組織における取組とその目標

健康科学科については、スポーツ科学に着目する高校生が多いことが予想されるため、

これまでの訪問校に加え、体育・スポーツ科を設置する各高校への訪問を重点的に行うほか、同分野へのガイダンス出展を行っていくことで各校教員や高校生に同学科の新設について周知を図っていく。加えて、特設サイトの開設や SNS を通じた情報発信のほか、広報媒体社が保有している健康・スポーツ分野の志望生徒に対する一斉 DM の発出、実習先の民間企業（スポーツ関連企業、公共施設指定管理事業者等）及び地域福祉団体等と連携した地域課題解決の取組事例の公表などにも取り組んでいくことで、さらなる知名度の向上を図る。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく新設組織での入学者見込み数

健康科学科については、分野別志願者数（リクルート社調べ）で比較した場合、同学科の標ぼうするスポーツ学及び健康科学の全国志願者は計 119,817 名であり、リハビリテーション学の全国志願者 43,155 名に対し 2.776 倍の状況であることから、本学の既設学科の入試実績（2024 年度入試：理学療法学科及び作業療法学科計 126 名）と比較した場合、新設学科であり具体的な学生募集活動はこれからという点を踏まえても、定員 30 名を上回る入学者を確保可能な見込みである。

なお、学生募集の取組は一連の流れの中で実施することから、取組別の確保見込者数の算出は困難である。

②競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学の位置（大阪府茨木市）であるが、JR 京都線、阪急京都線に最寄駅をもち、大阪府中～北部、京都府南部、滋賀県南部からの通学が容易である。競合校としては、立地条件、養成人材などの類似性が高い、A. 大阪電気通信大学医療健康科学部、B. 大阪産業大学スポーツ健康学部スポーツ健康学科、C. 関西福祉科学大学健康福祉学部健康科学科の 3 つの大学と比較分析を行う。ただし、定員規模については、本学科の入学定員の設定が少人数であるため、3 校とも本学科の定員を上回っている。

3 大学の 2023 年 5 月 1 日 定員充足率

	所在地	学問分野	学力層	定員	定員充足率
A	大阪府寝屋川市	スポーツ健康科学	本学とほぼ同等	190 人	1.07%
B	大阪府大東市	スポーツ健康科学	本学がやや上	170 人	1.00%
C	大阪府堺市	健康福祉	本学とほぼ同等	80 人	0.77%

（大阪電気通信大学ホームページより <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/student/>）

（大阪産業大学ホームページより https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/enroll_2023.html）

（関西福祉科学大学ホームページより <https://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/utility/public-info.html>）

(1) 養成人材の類似性と優位性

本学の「健康科学科」と3校との類似点は、子どもから高齢者、障がい者を対象に、スポーツ科学や健康科学の知識と技能で健康を支援できる人材育成を目指していることである。また、スポーツを通しての健康づくり、健康と環境のマネジメント、健康寿命の延伸など、個人の健康のみならず、健康支援が間接的に及ぼす社会全体へのアプローチも視野に入れた人材育成を目的にしている点も類似している。

本学科の優位性という点については、本学の健康科学科では、「心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関する専門知識と技能、さらに地域コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることで、様々な健康問題に柔軟に対応し、対象となる個々人のみならず地域コミュニティにおける健康増進に寄与できる人材育成」を目的に掲げている。本学の健康科学科では、身体^①の健康に着目するだけではなく、心^②の健康に着目していること、また漠然とした社会全体の健康というよりも、地域コミュニティ形成のための、人や場の関係づくりができるような人材育成を目的にしている点は、A大学・B大学・C大学との違いである。

3 大学の人材育成目標と目指せる資格

	人材育成目標と目指せる資格
A	人材育成目標： この大学のホームページによると、「健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、<u>基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する</u>。これにより、<u>健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成</u>、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的」に掲げている。 目指せる資格： ・健康運動指導士／<u>健康運動実践指導者</u>／フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級 ・高等学校教諭一種免許状（保健体育）／中学校教諭一種免許状（保健体育） ・ジュニアスポーツ指導員／JSPPO 公認スポーツ指導者・共通ⅠⅡⅢ
B	人材育成目標： この大学のホームページによると、「スポーツ健康学部では、地域社会や学校教育現場における<u>子どもの体力づくりやアスリートの競技力向上、また高齢者の健康寿命の延伸などを支援するだけでなく、スポーツを通して活気のある社会をつくることを目標とし、自発的に協働できる人材、つまり「新しい公共」の担い手となる以下のような実践的指導力を身に付けることを目的</u>」に掲げている。 目指せる資格： ・中学校教諭一種免許状（保健体育）／高等学校教諭一種免許状（保健体育） ・<u>社会福祉主事任用資格</u>／健康運動指導士／健康運動実践指導者／健康管理士一般指導員／<u>初級パラスポーツ指導者</u>
C	人材育成目標： この大学のホームページによると、「健康・安全・環境に関する知識と専門的技術を修得し、子どもに対しては一人ひとりへの愛情と慈しみを大切にしな

	がら成長・発達を促すことができ、<u>働く人々に対しては健康と環境をマネジメントできる、トータルヘルスのリーダーとして活躍できる人材を育成</u>することを掲げている。 目指せる資格： 養護教諭、保健科教諭、第一種衛生管理者
--	--

(2) 教育内容と方法の類似性と優位性

教育内容と方法の類似性は、身体の構造や機能を主に解剖学や生理学などの科目で科学的に学ぶことや、運動指導について実践的に学習する教育課程を編成し、各種資格取得を目指すことができるようになっている点である。

本学の健康科学科の教育課程の優位性は、この学科を医療保健学部の中に開設するという特徴を活かし、医学の基礎知識を習得する科目を配置していること（解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、運動学、バイオメカニクスなど）、公衆衛生や救命救急などの科目、そして内科学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、スポーツ外傷・障害論など、病気について学ぶ科目も配置し、高齢者で運動指導する対象者が何かの病気に罹患している場合も適切な運動指導、リスク管理ができるような教育内容が特徴である。また、心の健康という視点で、他者の理解をより深めるために心理学の科目も配置している。運動指導において、心理学的な理解は重要である。心と身体の両方からアプローチするための教育内容を準備していることは他大学にはない特徴である。運動指導については実践的に学ぶことができるよう、実習やアクティブラーニングの授業方法も多く取り入れる予定である。そして、これらのことを個人の健康だけではなく、地域コミュニティの形成や活動につなげるために、社会科学系の科目を準備し、社会教育士、社会福祉主事任用資格も目指せるような教育課程を準備している。以上のように、医学の知識を基盤に、トレーニング科学、心理学、社会科学の学習がバランス良くできる点が、A大学・B大学・C大学との違いであり、優位性があると考えられる。

	各大学の教育内容
A	この大学のカリキュラム・ポリシーとカリキュラムより、共通科目に外国語群や人文・社会・自然群（総合ゼミナール、日本語上達法）を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成していること、また、<u>各種スポーツ種目の実技科目や指導実習</u>を通じて同様の力を養う教育課程を編成していることがわかる。専門科目においては、課題を発見し、問題を解決する力を育成する科目として、基礎科学の知識や<u>スポーツ情報科目</u>も配置している。選択科目によって、高等学校教諭一種免許状（保健体育）と中学校教諭一種免許状（保健体育）の免許が取得できる教育課程になっていることが特徴である。
B	この大学のカリキュラム・ポリシーとカリキュラムより、<u>身体のメカニズムと運動・栄養・休養の取り方を科学的に理解する教育課程</u>となっていることがわかる。また、実践的にスポーツや運動を学びながら、各種資格を取得できる教育課程になっていることが特徴である。選択科目によって、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）、社会福祉主事任用資格が取得できる教育課程になっていることが特徴である。

C	この大学のカリキュラム・ポリシーとカリキュラムより、人間の心理、生理や医学の観点から健康の維持・増進のための基礎知識を広く学ぶと共に、 <u>学校保健や健康・環境マネジメントの専門知識を学修する教育課程</u> になっていることがわかる。また、 <u>学校保健や健康・環境マネジメントの学びを実践的に深める教育課程</u> もあり、養護教諭、保健科教諭、第一種衛生管理者の資格取得を目指すことができる教育課程が編成されている。
---	---

イ 競合校の入学志願動向等

3大学の入学者志願者動向を調べたところ、令和4（2022）年度と比較して令和5（2023）年度入試では、A大学、B大学は増加傾向であった。C大学はやや減少傾向である。令和5（2023）年度私立大学・短期大学等入学志願者動向で学部系統別に見た場合、全国的に体育学系の学部志願者、保健系の志願者は減少している。主な学部別の志願者動向でも、健康科学部、スポーツ健康科学部は令和4（2022）年度と比較して令和5（2023）年度は減少している。しかし、A大学、B大学においては志願者数が増加していた。

1. 令和4（2022）年度と令和5（2023）年度を比較すると、学部系統別で見た場合、医学、農学系、芸術系以外の学部は全て減少している。また3大学の所在地である大阪府の大学志願者数は約2万人減少しているが、その中でA大学、B大学の志願者の増加傾向は、健康科学系を志望する受験者が増えていることを示している。C大学の志願者は減少傾向であった。

3大学の令和4（2022）年度と令和5（2023）年度の志願者数の比較

	定員	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	前年度比
A	190人	284人	322人	113%
B	170人	648人	843人	130%
C	80人	98人	65人	66%

（大阪電気通信大学ホームページより <https://www.osakac.ac.jp/examinee/admission/result/>）

（大阪産業大学ホームページより <https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/people-data.html>）

（関西福祉科学大学ホームページより <https://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/utility/public-info.html>）

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

イで説明したように、令和4（2022）年度から令和5（2023）年度の3大学の志願者数は、2大学では増加傾向であり、収容定員も充足できている。C大学の健康科学科は、主に保健に関する教育課程であり、取得を目指せる職種は養護教諭、保健科教諭、第一種衛生管理者である。健康科学科を目指す高校生は、スポーツ科学やトレーニング科学を教育内容としてイメージするのではないかと考えられ、養護教諭、保健科教諭は大変魅力的ではあるが、全国的に保健学系の志願者が減少傾向にあるため、C大学もやや減少傾向にあるのではないかと推察される。

本学の新設組織である健康科学科は、医療保健学部 に属する。令和5年（2023）年度私

立大学・短期大学等入学志願者動向では、令和4年（2022）度と令和5（2023）年度の比較で、全国的に医療保健学部の志願者数は7.05%減少した。全大学の志願者数の減少が2.05%であることから、医療保健学部は全大学の学部の中でも減少傾向にある。本学科は、医療保健学部には属するが、トレーニング科学系の科目を配置し、スポーツ系学部、健康科学系学部の大学に進学を希望する高校生への訴求力を高めるような広報を行う予定である。特に医療保健学部には属することを強みとして、医学を基盤としたトレーニング科学の学習が、資格にどうつながるのか、またどのように社会に貢献できる人材に成長できるのかを十分に説明していく予定である。そうすることによって、医学に興味があり、スポーツ系、トレーニング科学系の学習に興味のある志願者を募集し、定員を充足させることが可能だと考える。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学の健康科学科の学生学納金は、入学金（250,000 円）、授業料（950,000 円）、施設設備費（300,000 円）、実験実習（初年度 0 円、2 年次以降 150,000 円）で構成されている。健康科学科の教育課程では、1 年次～3 年次の 3 年間に学外実習科目を 4 科目配置しており、学外実習費用が必要になることと、トレーニング科学系の授業は学内において機器を使って実習形式で行う予定であること、また研究（卒業研究科目）などでは各種機器を使用する必要もあるため、3 大学と比較して、やや高い設定となっている。なお、授業料については、半期ごとの納入も可能とする。

3 大学の 2024 年度 学費

	学科	入学金	授業料	教育環境 充実費 実習費	諸会費	総額
A	健康スポーツ科学科	200,000	1,082,000	100,000	0	1,382,000
B	スポーツ健康学部	250,000	934,000	81,000	14,450	1,293,400
C	健康福祉学科	200,000	900,000	200,000	0	1,300,000

（大阪電気通信大学ホームページより <https://www.osakac.ac.jp/campuslife/tuition-list/>）

（大阪産業大学ホームページより <https://www.osaka-sandai.ac.jp/admission/expense.html>）

（関西福祉科学大学ホームページより <https://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/campuslife/fee.html>）

④ 学生確保に関するアンケート調査

需要の具体的なエビデンスとなる調査として、アンケートを実施した。アンケートの対象は高校1年生～3年生合計1,029名とした。調査期間は、2024年4月～5月。アンケートはwebと用紙の両方を準備し、回答者が方法を選択した。アンケート集計の結果は、次の通りである（資料5）。

（1）回答者の属性

- 本調査の回答者は613名
- 高校3年生593名、2年生19名、1年生1名

- 回答者の所属高校は別紙参照

(2) 進学意欲・進学先について

- 全回答者 613 名のうち、私立大学を進学先の選択肢に含めているものは、420 名 (68.5%) であった。
- 高校 3 年生の回答者 593 名に限っては、私立大学を進学先の選択肢に含めているものは、396 名 (66.8%) であった。

(3) 学びたい学問分野について

- 全回答者 593 名のうち、学びたい学問分野として『保健 (健康科学)』を挙げたものは、75 名 (12.6%) であった。
- 私立大学を進学先の選択肢に含めている高校 3 年生の回答者 (396 名) に限っては、学びたい学問分野として『保健 (健康科学)』を挙げたものは、71 名 (17.9%) であった。

(4) 本学健康科学科への受験意向について

- 全回答者 593 名のうち、本学健康科学科を『①第一志望として受験する』と答えた回答者は 94 名 (15.9%)、『②第二志望として受験する』と答えた回答者は 33 名 (5.6%)、『③第三志望以降として受験する』と答えた回答者は 88 名 (14.8%) であった。合計すると 215 名に達した。
- 私立大学を進学先の選択肢に含めている高校 3 年生の回答者で、学びたい学問分野として『保健 (健康科学)』を挙げた 71 名に限っては、本学健康科学科を『①第一志望として受験する』と答えた回答者は 32 名、『②第二志望として受験する』と答えた回答者は 5 名、『③第三志望以降として受験する』と答えた回答者は 16 名であった。合計すると 53 名に達した。

(5) 本学健康科学科への入学意向について

- 本学健康科学科をいずれかの志望順位で受験すると答えた回答者 215 名のうち、合格した場合『①入学する』と答えた回答者は 124 名 (57.7%)、『②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する』と答えた回答者は 67 名 (31.2%) であった。合計すると 191 名に達し、入学定員を上回った。
- 私立大学を進学先の選択肢に含めている高校 3 年生の回答者で、学びたい学問分野として『保健 (健康科学)』を挙げ、本学健康科学科をいずれかの志望順位で受験すると答えた回答者 53 名に限っては、合格した場合『①入学する』と答えた回答者は 32 名、『②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する』と答えた回答者は 5 名であった。合計すると 39 名に達し、入学定員を上回った。

<参考>

(1) カリキュラムの魅力度について

- 全回答者 593 名のうち、本学健康科学科のカリキュラムの特徴の 1 つである『保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関する専門知識と技能』を学ぶことについて、『①魅力を感じる』または『②やや魅力を感じる』と答えたものは、

438 名（73.9%）に達し、もう 1 つの特徴である『地域社会の活動を創造し、実践する授業』に関しても、『①魅力を感じる』または『②やや魅力を感じる』と答えたものが、421 名（70.1%）に達するなど、魅力あるカリキュラムを提示できているといえる。

（2）本学独自奨学金について

- 本学健康科学科をいずれかの志望順位で受験すると答えた回答者 215 名のうち、『特待生』に採用された場合、『①入学する』と答えた回答者は 5. の回答（124 名）より 15 名増加した 139 名となり、入学の誘因として機能しているといえる。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学の健康科学科の設置にあたり、卒業後の進路として想定される企業・団体等に、卒業生の採用意向をアンケート調査し、人材需要を確認した。調査方法は、調査対象の企業・団体の人事・採用担当者に調査票を送付し（618 社）、郵送で回収した。調査対象は、新学科の卒業後の進路として想定される企業・団体リストを、既設学科の卒業生の就職先、求人企業・団体等から作成し、計 618 社へ送付し、2024 年 4 月 22 日（月）～5 月 20 日（月）とした。この調査での有効回答数は 125 社であった。

調査の結果、大学新卒採用予定ありと回答した 106 社のうち、「健康科学科」卒業生の採用意向について、「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」のいずれかに回答した「採用意向あり」の企業・団体は、合計で 54 社、採用意向人数の合計は、73 人となった。以上のとおり、卒業生の採用意向人数は、入学定員 30 名を上回る結果となった（資料 6）。採用意向企業等 54 社の主業種は、「保健医療・社会福祉業」（48 社）が突出して多かった。また、回答企業の所在地は、「大阪府」（24 社）が突出して多く、次いで「京都府」（14 社）であった。

本学の健康科学科は、医学の知識を基盤にトレーニング科学などを学ぶ教育課程を設定しており、特に保健医療・社会福祉業種に需要が高かったと考えられる。また、本学の在校生は大阪府、京都府、滋賀県の順に多く、既存学科の学生は地元就職が多いので、おそらく新学科も同じ傾向があると予想されるので、人材需要もあり、卒業後の就職は問題ないと考えられる。

（4）新設組織の定員設定の理由

本学の健康科学科は、トレーニング科学系の授業はアクティブラーニングの授業で実践的に行う予定であり、学生一人ひとりに十分な技能を習得させるために少ない人数の教育が有効であると考え、収容人数を 30 人とする。人材需要に関するアンケートでは、採用したい企業が多かったが、今後の志願者数の段階的な減少、高校生へのアンケート調査、類似性の高い大学の志願者数、定員充足率、本学医療保健学部の定員充足率などについて総合的に判断し、30 人に設定した。

資料目次

資料 1	高齢化の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.2
資料 2	年齢・性別健康状態・・・・・・・・・・・・・・・・	p.3
資料 3	65 歳以上の一人暮らしの者の動向・・・・・・・・	p.4
資料 4	都道府県別高齢化率の推移・・・・・・・・・・	p.5
資料 5	健康科学科入学意向アンケート結果等・・・・・・・・	p.6
別紙 1	新設組織が置かれる都道府県への入学状況・・・・・・・・	p.12
別紙 2	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）・・・・・・・・	p.13
別紙 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績・・・・・・・・	p.17

資料1 高齢化の現状（令和5年版高齢社会白書、p2-3）

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、％（構成比）

		令和4年10月1日		
		総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,495	6,076	6,419
	65歳以上人口	3,624	1,573	2,051
	65～74歳人口	1,687	807	880
	75歳以上人口	1,936	766	1,171
	15～64歳人口	7,421	3,761	3,660
	15歳未満人口	1,450	743	707
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口（高齢化率）	29.0	25.9	32.0
	65～74歳人口	13.5	13.3	13.7
	75歳以上人口	15.5	12.6	18.2
	15～64歳人口	59.4	61.9	57.0
	15歳未満人口	11.6	12.2	11.0

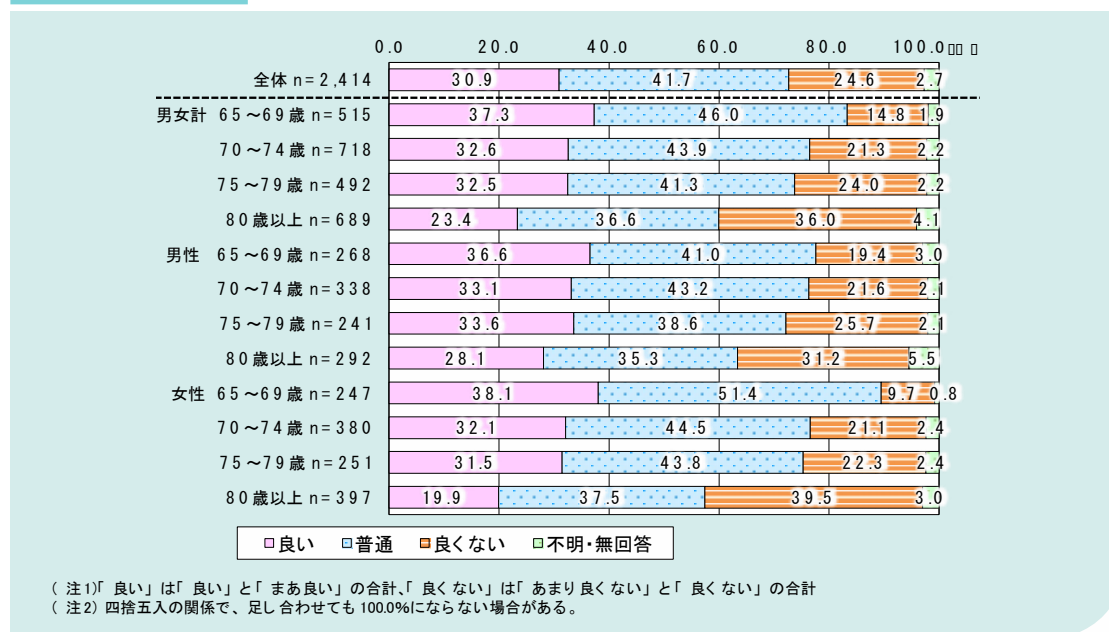
資料：総務省「人口推計」令和4年10月1日（推定値）

（注1）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

（注2）四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

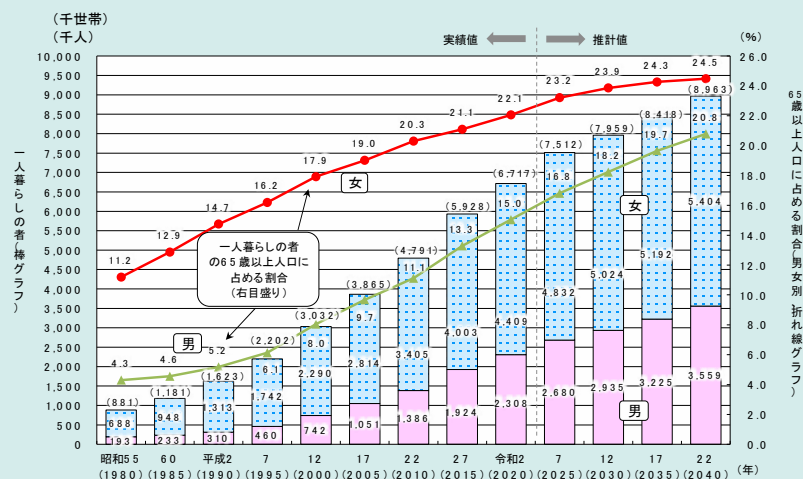
資料2 年齢・性別健康状態（令和5年版高齢社会白書、p49-50）

図1-3-1-1 年齢・性別健康状態（択一回答）



資料3 65歳以上の一人暮らしの者の動向（令和5年版高齢社会白書、p9-10）

図1-1-9 65歳以上の一人暮らしの者の動向



資料：令和2年までは総務省「国勢調査」による人数、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（2018（平成30）年推計）による世帯数
 （注1）「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単身世帯」又は「一般世帯（1人）」のことを指す。
 （注2）棒グラフ上の（ ）内は65歳以上の一人暮らしの者の男女別折れ線グラフ
 （注3）四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

資料 4 都道府県別高齢化率の推移（令和 5 年版高齢社会白書、p11-12）

表 1－1－10 都道府県別高齢化率の推移

	令和 4（2022）年			令和 27（2045）年	高齢化率の伸び （ポイント）
	総人口（千人）	65 歳以上人口 （千人）	高齢化率（％）	高齢化率（％）	
北海道	5,140	1,686	32.8	42.8	10.0
青森県	1,204	419	34.8	46.8	12.0
岩手県	1,181	408	34.6	43.2	8.6
宮城県	2,280	659	28.9	40.3	11.4
秋田県	930	359	38.6	50.1	11.5
山形県	1,041	362	34.8	43.0	8.2
福島県	1,790	586	32.7	44.2	11.5
茨城県	2,840	864	30.4	40.0	9.6
栃木県	1,909	572	29.9	37.3	7.4
群馬県	1,913	589	30.8	39.4	8.6
埼玉県	7,337	2,007	27.4	35.8	8.4
千葉県	6,266	1,753	28.0	36.4	8.4
東京都	14,038	3,202	22.8	30.7	7.9
神奈川県	9,232	2,383	25.8	35.2	9.4
新潟県	2,153	722	33.5	40.9	7.4
富山県	1,017	335	33.0	40.3	7.3
石川県	1,118	338	30.3	37.2	6.9
福井県	753	235	31.2	38.5	7.3
山梨県	802	252	31.5	43.0	11.5
長野県	2,020	657	32.5	41.7	9.2
岐阜県	1,946	604	31.0	38.7	7.7
静岡県	3,582	1,101	30.7	38.9	8.2
愛知県	7,495	1,920	25.6	33.1	7.5
三重県	1,742	531	30.5	38.3	7.8
滋賀県	1,409	378	26.8	34.3	7.5
京都府	2,550	755	29.6	37.8	8.2
大阪府	8,782	2,432	27.7	36.2	8.5
兵庫県	5,402	1,608	29.8	38.9	9.1
奈良県	1,306	423	32.4	41.1	8.7
和歌山県	903	307	34.0	39.8	5.8
鳥取県	544	180	33.1	38.7	5.6
島根県	658	229	34.7	39.5	4.8
岡山県	1,862	574	30.8	36.0	5.2
広島県	2,760	826	29.9	35.2	5.3
山口県	1,313	462	35.2	39.7	4.5
徳島県	704	246	35.0	41.5	6.5
香川県	934	302	32.4	38.3	5.9
愛媛県	1,306	443	33.9	41.5	7.6
高知県	676	244	36.1	42.7	6.6
福岡県	5,116	1,449	28.3	35.2	6.9
佐賀県	801	251	31.4	37.0	5.6
長崎県	1,283	435	33.9	40.6	6.7
熊本県	1,718	552	32.1	37.1	5.0
大分県	1,107	376	33.9	39.3	5.4
宮崎県	1,052	352	33.4	40.0	6.6
鹿児島県	1,563	523	33.5	40.8	7.3
沖縄県	1,468	344	23.5	31.4	7.9

資料：令和 4 年は総務省「人口推計」、令和 27 年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

資料5 健康科学科入学意向アンケート結果（クロス集計結果）

【学年】	
2024年4月時点におけるあなたの学年を次より一つ選択してください。	
選択肢	度数
高校3年生	593
高校2年生	19
高校1年生	1
その他	0
合計	613

1.

卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）

選択肢	度数
①大学	431
②短期大学	67
③専門職大学	32
④専門職短期大学	7
⑤専門学校	168
⑥就職	53
⑦その他	19

2.

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

選択肢	度数
①国立	62
②公立	108
③私立	476
④大学・短大等への進学予定はない	107

3.

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

選択肢	度数
①保健（医学）	28
②保健（歯学）	11
③保健（薬学関係）	11
④保健（看護学関係）	94
⑤保健（理学療法学）	73
⑥保健（作業療法学）	30
⑦保健（健康科学）	75
⑧人文科学	31
⑨社会科学	53
⑩理学	22
⑪工学	20
⑫その他の学問分野	272
⑬学びたいと考えている分野はない	109

4.

藍野大学 医療保健学部 健康科学科が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①第一志望として受験する	94
②第二志望として受験する	33
③第三志望以降として受験する	88
④受験しない	398
合計	613

5.

藍野大学 医療保健学部 健康科学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①入学する	124
②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	67
③入学しない	24
合計	215

※5. は4. で①②③のいずれかを選択した回答者のみ

学年が高校3年生	
1.	
卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）	
選択肢	度数
①大学	420
②短期大学	64
③専門職大学	29
④専門職短期大学	6
⑤専門学校	161
⑥就職	49
⑦その他	16

学年が高校3年生 かつ

1. で①を選択

2.

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

選択肢	度数
①国立	53
②公立	84
③私立	396
④大学・短大等への進学予定はない	4

学年が高校3年生 かつ

1. で①を選択 かつ

2. で③を選択

3.

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

選択肢	度数
①保健（医学）	20
②保健（歯学）	8
③保健（薬学関係）	7
④保健（看護学関係）	63
⑤保健（理学療法学）	57
⑥保健（作業療法学）	22
⑦保健（健康科学）	71
⑧人文科学	29
⑨社会科学	52
⑩理学	14
⑪工学	11
⑫その他の学問分野	167
⑬学びたいと考えている分野はない	46

学年が高校3年生 かつ

1. で①を選択 かつ

2. で③を選択 かつ

3. で⑦を選択

4.

藍野大学 医療保健学部 健康科学科が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①第一志望として受験する	32
②第二志望として受験する	5
③第三志望以降として受験する	16
④受験しない	18
合計	56

学年が高校3年生 かつ

1. で①を選択 かつ

2. で③を選択 かつ

3. で⑦を選択 かつ

4. で①②③を選択

5.

藍野大学 医療保健学部 健康科学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

	A	B	C	合計
①入学する	32	3	4	39
②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0	2	8	10
③入学しない	0	0	4	4
合計	32	5	16	53

<参考>

4 a.

健康科学科では、心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識(社会福祉学など)、健康科学に関する専門知識(解剖学などの医学の基礎知識)と技能(体力測定論、パーソナルトレーナー論、スポーツ心理学など)について学びます。この学科の学び(カリキュラム)に魅力を感じますか。 次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①魅力を感じる	192
②やや魅力を感じる	246
③あまり魅力を感じない	92
④魅力を感じない	83
合計	613

4 b.

健康科学科では、心と身体の健康に関する学びを深めるために、地域社会の活動を創造し、実践する授業があります。このような学び(カリキュラム)に魅力を感じますか。 次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①魅力を感じる	175
②やや魅力を感じる	246
③あまり魅力を感じない	111
④魅力を感じない	81
合計	613

6 .

『特待生』に採用された場合、入学しますか。次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①入学する	192
②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	143
③入学しない	278
合計	613

4 . において本学健康科学科をいずれかの志望順位で受験すると答えた回答者215名に限定した場合

6 .

『特待生』に採用された場合、入学しますか。次より一つ選択してください。

選択肢	度数
①入学する	139
②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	57
③入学しない	19
合計	215

藍野大学

医療保健学部健康科学科

※仮称・設置構想中

入学意向に関するアンケート調査

藍野大学(大阪府茨木市東太田 4-5-4)は、2025年(令和7年)4月、医療保健学部「健康科学科」の設置を検討しております。本学は今回の入学意向アンケートを通じて、皆様から率直なご意見を頂戴し、設置構想の参考にさせていただきたいと考えております。

なお、皆様から寄せられた情報は本学の設置構想の統計資料として活用し、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ございません。

ご多用のところ恐れ入りますが、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

【対象】 高等学校の在校生

※本調査は現在、高等学校に在籍する高校生が対象となります。

【調査内容】 大学教育に対するニーズ、回答者の属性に関する設問が全部で9問あります(各設問項目については、別紙をご参照ください)。

【回答方法】 以下の URL または QR コードにアクセスし、インターネット上でご回答ください。

<https://forms.gle/Yd7nyQ8YknRnmTK8A>



※ログイン後のパスワードは半角数字「1711」です。

【回答に要する時間】 5分程度

【締 切】 2024年4月10日

本件に関する問い合わせ先
藍野大学 大学・短期大学部事務センター
学生支援グループ
担当:長谷川
Mail:soumuka@kanri-u.aino.ac.jp
TEL:072-627-1711(代表)

～入学意向についてのアンケート調査～

問1 2024年4月時点におけるあなたの学年を次より一つ選択してください。

- ① 高校3年生 ② 高校2年生 ③ 高校1年生 ④ その他

問2 卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

- ① 大学 ② 短期大学 ③ 専門職大学 ④ 専門職短期大学 ⑤ 専門学校
⑥ 就職 ⑦ その他

問3 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

- ① 国立 ② 公立 ③ 私立 ④ 大学・短大等への進学予定はない

問4 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数選択可)

- ① 保健(医学) ② 保健(看護学関係) ③ 保健(理学療法学) ④ 保健(作業療法学)
⑤ 保健(健康科学) ⑥ 人文科学 ⑦ 社会科学 ⑧ 理学 ⑨ 工学 ⑩ その他の学問分野
⑪ 学びたいと考えている分野はない

問5 健康科学科では、心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識(社会福祉学など)、健康科学に関する専門知識(解剖学などの医学の基礎知識)と技能(体力測定論、パーソナルトレーナー論、スポーツ心理学など)について学びます。この学科の学び(カリキュラム)に魅力を感じますか。次より一つ選択してください。

- ① 魅力を感じる ② やや魅力を感じる ③ あまり魅力を感じない ④ 魅力を感じない

問6 健康科学科では、心と身体の健康に関する学びを深めるために、地域社会の活動を創造し、実践する授業があります。このような学び(カリキュラム)に魅力を感じますか。次より一つ選択してください。

- ① 魅力を感じる ② やや魅力を感じる ③ あまり魅力を感じない ④ 魅力を感じない

問7 藍野大学 医療保健学部 健康科学科が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する ③ 第三志望として受験する
④ 受験しない ⇒ 問8へ

問8 藍野大学 医療保健学部 健康科学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

問9 藍野大学 医療保健学部 健康科学科では『特待生制度』(仮称)の設立を予定しています。『特待生制度』は、対象となる入学試験の成績優秀者に対し、学費等の一部を返金し、学業を振興させることを目的とした制度です。

『特待生』に採用された場合、入学しますか。次より一つ選択してください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

ココロとカラダの健康を創る

医療保健学部

健康科学科

設置構想中



- 設置年月:2025年4月(予定) ■入学定員:30名 ■修業年限:4年 ■学位:学士(健康科学)
- 開設場所:藍野大学(大阪府茨木市東太田4-5-4)

教育理念・目的

教育基本法及び学校教育法の精神に則り、学校法人藍野学院創立の精神に基づく人間教育を行い、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする。

養成する人物像

心と身体の健康に関して、保健・医療・福祉の幅広い知識、健康科学に関する専門知識と技能、さらに地域社会コミュニティで発揮するための効果的なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることで、様々な健康問題に柔軟に対応し、対象となる個々人のみならず地域社会全体における健康増進に寄与できる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

健康科学科では、卒業後に人々の健康維持・増進の担い手として社会で活躍する実践者、または研究者として社会貢献を目指す人材を輩出することを目的として、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

1. 高等学校卒業相当の基礎学力および学習能力を有し、地域の健康創造の重要性について理解がある人
2. 生物、化学、物理、数学を通じて得られる自然科学的思考力と英語、国語の読解力・言語運用能力を有する人
3. 人々の健康に関する課題及び社会政策や法制度、保健・医療・福祉並びにその活動に関心が高い人
4. 人の話を聴くことができ、自己の考えを相手にわかるように示せる人、また、自分の言動に責任を持ち、周りの人々と協働することができる人

学費

藍野大学 医療保健学部 健康科学科
※仮称・設置構想中

入学金	授業料等	初年度納付金(合計)
250,000	1,250,000	1,500,000

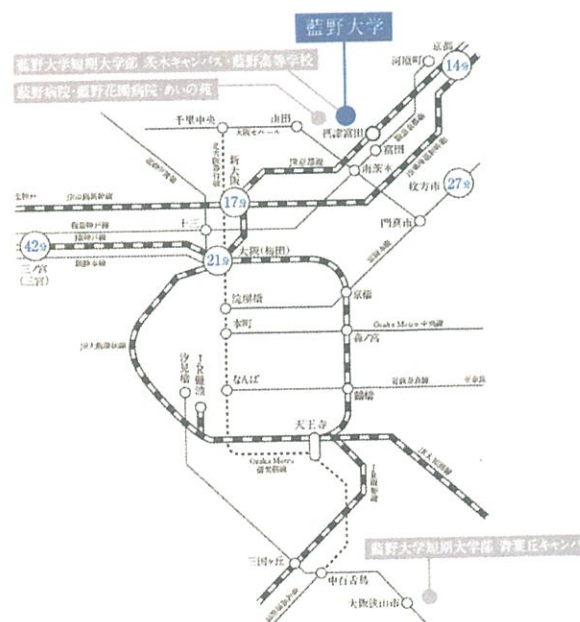
※諸会費等は含みません。また、長期履修制度などを利用しない場合の金額になります。

アクセス

競合する大学又は学部学科等の名称

<参考>

学校名
大阪電気通信大学 医療健康科学部 健康科学科
関西福祉科学大学 健康福祉学部 健康科学科
大阪産業大学 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科



資料5 【高等学校名一覧】

高校名	住所
大阪府立汎愛高等学校	〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2丁目1番52号
明浄学院高等学校	〒545-0004 大阪市阿倍野区文の里3丁目15番7号
京都西山高等学校	〒617-0002 京都府向日市寺戸町西野辺25
京都両洋高等学校	〒604-8851 京都府京都市中京区壬生上大竹町13
滋賀県立八幡高等学校	〒523-0031 滋賀県近江八幡市堀上町105

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	大阪府	28,156人	49.3%
2	兵庫県	7,486人	13.1%
3	京都府	3,156人	5.5%
4	奈良県	2,919人	5.1%
5	和歌山県	1,657人	2.9%
	全 体	57,089人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	大阪府	101.38%	102.98%	101.38%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	医療保健学部	103.68%	96.48%	89.95%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

1. 各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	3人	3人	5人	2人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	20人	33人	44人	19人
		受験者数	0人	0人	19人	32人	43人	19人
		合格者数	0人	0人	8人	11人	24人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	20人	33人	44人	19人
		受験者数	0人	0人	19人	32人	43人	19人
		合格者数	0人	0人	8人	11人	24人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	8人	11人	24人	9人
学校推薦型選抜	募集人数		33人	44人	41人	52人	50人	44人
	延べ人数	志願者数	403人	556人	501人	414人	424人	460人
		受験者数	384人	523人	481人	392人	400人	436人
		合格者数	106人	216人	172人	182人	218人	179人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	42人	115人	85人	101人	138人	96人
	実人数	志願者数	399人	541人	486人	405人	424人	451人
		受験者数	380人	507人	466人	383人	400人	427人
		合格者数	106人	216人	167人	180人	218人	177人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	38人	109人	79人	94人	129人	90人
	入学者数		68人	107人	88人	86人	89人	88人
一般選抜	募集人数		74人	53人	55人	43人	43人	54人
	延べ人数	志願者数	687人	510人	336人	192人	187人	382人
		受験者数	643人	462人	303人	183人	181人	354人
		合格者数	144人	69人	85人	86人	49人	87人
		うち追加合格者数	11人	0人	0人	0人	3人	3人
		辞退者数	122人	59人	70人	64人	42人	71人
	実人数	志願者数	665人	502人	325人	186人	181人	372人
		受験者数	624人	448人	294人	177人	175人	344人
		合格者数	138人	69人	85人	90人	49人	86人
		うち追加合格者数	11人	0人	0人	0人	3人	3人
		辞退者数	115人	56人	67人	62人	40人	68人
	入学者数		34人	13人	18人	28人	12人	21人
共通テスト利用入試	募集人数		8人	17人	15人	16人	16人	14人
	延べ人数	志願者数	119人	81人	60人	39人	31人	66人
		受験者数	119人	81人	60人	39人	31人	66人
		合格者数	48人	26人	27人	19人	14人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	38人	18人	20人	17人	12人	21人
	実人数	志願者数	115人	77人	58人	37人	27人	63人
		受験者数	115人	77人	58人	37人	27人	63人
		合格者数	48人	25人	26人	18人	13人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	35人	18人	17人	15人	12人	19人
	入学者数		13人	7人	9人	3人	1人	7人
社会人入試	募集人数		0人	1人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	1人	3人	1人	1人	1人	1人
		受験者数	1人	3人	1人	1人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	3人	1人	1人	1人	1人
		受験者数	1人	3人	1人	1人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	1人	0人	1人	0人	0人
合計	募集人数		115人	115人	115人	115人	115人	115人
	延べ人数	志願者数	1210人	1150人	918人	679人	687人	929人
		受験者数	1147人	1069人	864人	647人	656人	877人
		合格者数	298人	312人	292人	299人	305人	301人
		うち追加合格者数	11人	0人	0人	0人	3人	3人
		辞退者数	202人	192人	175人	182人	192人	189人
	実人数	志願者数	1180人	1123人	890人	662人	677人	906人
		受験者数	1120人	1035人	838人	630人	646人	854人
		合格者数	292人	311人	286人	300人	304人	299人
		うち追加合格者数	11人	0人	0人	0人	3人	3人
		辞退者数	188人	183人	163人	171人	181人	177人
	入学者数		115人	128人	123人	129人	126人	124人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	115人	115人	115人	115人	115人	115
入学定員充足率	1.00	1.11	1.07	1.12	1.10	1.08
歩留率	0.38	0.41	0.43	0.43	0.41	0.41

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：藍野大学医療保健学部理学療法学科

別紙２－２

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数		5人	5人	10人	10人	10人	8人
	延べ人数	志願者数	5人	23人	34人	30人	35人	25人
		受験者数	5人	22人	28人	30人	34人	24人
		合格者数	5人	16人	21人	19人	19人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	16人	34人	30人	35人	24人
		受験者数	5人	16人	28人	30人	34人	23人
		合格者数	5人	16人	21人	19人	19人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	16人	20人	19人	19人	16人
学校推薦型選抜	募集人数		47人	50人	47人	47人	47人	48人
	延べ人数	志願者数	264人	306人	276人	348人	228人	284人
		受験者数	254人	286人	273人	341人	223人	275人
		合格者数	139人	244人	243人	189人	200人	203人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	64人	137人	105人	99人	112人	103人
	実人数	志願者数	217人	253人	211人	309人	190人	236人
		受験者数	211人	234人	208人	308人	185人	229人
		合格者数	129人	209人	182人	173人	170人	173人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	54人	130人	97人	93人	108人	96人
	入学者数		75人	79人	85人	80人	62人	76人
一般選抜	募集人数		40人	37人	35人	35人	35人	36人
	延べ人数	志願者数	254人	189人	184人	181人	101人	182人
		受験者数	241人	173人	172人	172人	97人	171人
		合格者数	77人	114人	51人	49人	91人	76人
		うち追加合格者数	7人	1人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	62人	76人	34人	31人	49人	50人
	実人数	志願者数	143人	111人	111人	155人	71人	118人
		受験者数	137人	105人	107人	149人	69人	113人
		合格者数	70人	93人	44人	45人	65人	63人
		うち追加合格者数	7人	1人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	57人	74人	34人	29人	44人	48人
	入学者数		20人	20人	10人	16人	21人	17人
共通テスト利用入試	募集人数		8人	7人	7人	7人	7人	7人
	延べ人数	志願者数	62人	32人	34人	37人	25人	38人
		受験者数	62人	32人	34人	37人	25人	38人
		合格者数	32人	29人	11人	13人	20人	21人
		うち追加合格者数	2人	0人	1人	0人	0人	1人
		辞退者数	24人	18人	7人	10人	18人	15人
	実人数	志願者数	41人	21人	17人	31人	19人	26人
		受験者数	41人	21人	17人	31人	19人	26人
		合格者数	25人	21人	9人	12人	18人	17人
		うち追加合格者数	2人	0人	1人	0人	0人	1人
		辞退者数	21人	16人	7人	10人	18人	14人
	入学者数		6人	5人	3人	2人	0人	3人
社会人入試	募集人数		0人	1人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	585人	551人	528人	596人	389人	530人
		受験者数	562人	514人	507人	580人	379人	508人
		合格者数	253人	403人	326人	270人	330人	316人
		うち追加合格者数	9人	1人	1人	0人	0人	2人
		辞退者数	150人	231人	146人	140人	179人	169人
	実人数	志願者数	406人	402人	373人	525人	315人	404人
		受験者数	394人	377人	360人	518人	307人	391人
		合格者数	229人	339人	256人	249人	272人	269人
		うち追加合格者数	9人	1人	1人	0人	0人	2人
		辞退者数	132人	220人	139人	132人	170人	159人
	入学者数		106人	120人	118人	117人	102人	113人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入 学 定 員 充 足 率	1.06	1.20	1.18	1.17	1.02	1.13
歩 留 率	0.45	0.35	0.46	0.47	0.38	0.42

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・2025年4月、入学定員を100名から80名に変更予定。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：藍野大学医療保健学部作業療法学科

別紙２－３

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数		4人	2人	5人	6人	6人	5人
	延べ人数	志願者数	4人	2人	12人	10人	6人	7人
		受験者数	4人	2人	8人	9人	6人	6人
		合格者数	4人	2人	8人	8人	6人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	2人	12人	10人	6人	7人
		受験者数	4人	2人	8人	9人	6人	6人
		合格者数	4人	2人	8人	8人	6人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	2人	8人	8人	6人	6人
学校推薦型選抜	募集人数		17人	20人	18人	17人	17人	18人
	延べ人数	志願者数	136人	138人	71人	164人	96人	121人
		受験者数	133人	129人	68人	163人	94人	117人
		合格者数	83人	117人	68人	149人	89人	101人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	38人	3人	10人	20人	17人
	実人数	志願者数	63人	73人	28人	42人	37人	49人
		受験者数	61人	68人	28人	42人	36人	47人
		合格者数	50人	67人	28人	38人	36人	44人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	34人	3人	8人	19人	15人
	入学者数		37人	33人	25人	30人	17人	28人
一般選抜	募集人数		16人	12人	12人	12人	12人	13人
	延べ人数	志願者数	117人	70人	62人	106人	45人	80人
		受験者数	109人	64人	56人	103人	45人	75人
		合格者数	29人	58人	55人	67人	36人	49人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		辞退者数	5人	6人	0人	6人	5人	4人
	実人数	志願者数	20人	9人	7人	15人	6人	11人
		受験者数	16人	8人	7人	14人	6人	10人
		合格者数	9人	8人	7人	12人	6人	8人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		辞退者数	5人	6人	0人	6人	5人	4人
	入学者数		5人	2人	7人	7人	1人	4人
共通テスト利用入試	募集人数		3人	5人	4人	4人	4人	4人
	延べ人数	志願者数	30人	24人	9人	19人	10人	18人
		受験者数	30人	24人	9人	19人	10人	18人
		合格者数	17人	22人	9人	14人	9人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	2人	6人	2人	3人
	実人数	志願者数	7人	2人	2人	5人	1人	3人
		受験者数	7人	2人	2人	5人	1人	3人
		合格者数	5人	2人	2人	5人	1人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	2人	2人	5人	1人	3人
	入学者数		1人	0人	0人	0人	0人	0人
社会人入試	募集人数		0人	1人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	288人	234人	154人	299人	157人	226人
		受験者数	277人	219人	141人	294人	155人	217人
		合格者数	134人	199人	140人	238人	140人	170人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		辞退者数	26人	46人	5人	22人	27人	25人
	実人数	志願者数	95人	86人	49人	72人	50人	70人
		受験者数	89人	80人	45人	70人	49人	67人
		合格者数	69人	79人	45人	63人	49人	61人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		辞退者数	22人	42人	5人	19人	25人	23人
	入学者数		48人	37人	40人	45人	24人	39人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率	1.20	0.93	1.00	1.13	0.60	0.97
歩 留 率	0.69	0.47	0.89	0.70	0.49	0.65

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
総合型選抜	募集人数		4人	2人	5人	3人	8人	4人
	延べ人数	志願者数	5人	5人	6人	4人	11人	6人
		受験者数	5人	5人	4人	4人	10人	6人
		合格者数	4人	5人	3人	4人	10人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	5人	6人	4人	11人	6人
		受験者数	5人	5人	4人	4人	10人	6人
		合格者数	4人	5人	3人	4人	10人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		4人	5人	3人	4人	9人	5人
学校推薦型選抜	募集人数		11人	15人	18人	20人	20人	17人
	延べ人数	志願者数	63人	70人	63人	38人	41人	55人
		受験者数	61人	62人	63人	36人	40人	52人
		合格者数	39人	43人	55人	35人	37人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	11人	28人	15人	8人	15人
	実人数	志願者数	37人	57人	50人	18人	25人	37人
		受験者数	36人	49人	50人	16人	24人	35人
		合格者数	28人	37人	45人	15人	23人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	10人	26人	14人	7人	14人
	入学者数		17人	27人	20人	11人	16人	18人
一般選抜	募集人数		20人	16人	12人	12人	7人	13人
	延べ人数	志願者数	96人	66人	55人	25人	20人	52人
		受験者数	92人	66人	53人	25人	20人	51人
		合格者数	62人	60人	45人	21人	17人	41人
		うち追加合格者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人
		辞退者数	32人	26人	26人	11人	9人	21人
	実人数	志願者数	55人	40人	41人	21人	13人	34人
		受験者数	53人	40人	39人	21人	13人	33人
		合格者数	43人	36人	31人	18人	12人	28人
		うち追加合格者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人
		辞退者数	31人	25人	25人	11人	9人	20人
	入学者数		13人	11人	6人	7人	3人	8人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	6人	4人	4人	4人	5人
	延べ人数	志願者数	21人	24人	20人	9人	9人	17人
		受験者数	21人	24人	20人	9人	9人	17人
		合格者数	21人	22人	19人	9人	8人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	7人	10人	4人	6人	9人
	実人数	志願者数	16人	20人	15人	5人	6人	12人
		受験者数	16人	20人	15人	5人	6人	12人
		合格者数	16人	18人	14人	5人	6人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	7人	10人	4人	6人	8人
	入学者数		3人	11人	4人	1人	0人	4人
社会人入試	募集人数		0人	1人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	185人	165人	144人	76人	81人	130人
		受験者数	179人	157人	140人	74人	79人	126人
		合格者数	126人	130人	122人	69人	72人	104人
		うち追加合格者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人
		辞退者数	60人	44人	64人	30人	23人	44人
	実人数	志願者数	113人	122人	112人	48人	55人	90人
		受験者数	110人	114人	108人	46人	53人	86人
		合格者数	91人	96人	93人	42人	51人	75人
		うち追加合格者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人
		辞退者数	55人	42人	61人	29人	23人	42人
	入学者数		37人	54人	33人	23人	28人	35人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	0.93	1.35	0.83	0.58	0.70	0.88
歩留率	0.40	0.56	0.35	0.55	0.55	0.48

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・2025年4月、入学定員を40名から30名に変更予定。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 藍野大学医療保健学部のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	880人	893人	①取組概要 在学生が参加するオープンキャンパスを年間10回開催し、高校生（受験対象者）に対して、学科体験や大学説明、キャンパスツアー、入試説明会、個別相談コーナーを実施。 R4入試対象（R3開催）：3/26, 5/29, 6/19, 7/17, 7/30, 8/6, 8/7, 8/27, 10/2, 12/11 R5入試対象（R4開催）：3/25, 5/28, 6/18, 7/16, 7/29, 8/5, 8/6, 8/27, 9/18, 12/10
うち受験対象者数(b)	624人	569人	
うち受験者数(c)	337人	300人	
うち入学者数(d)	222人	206人	
(受験率 c/b)	54. 0%	52. 7%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス参加者の受験率は5割を超えており、入学率は35%以上が見込まれる。過去2年入学定員の約2倍の人数が参加しており、同程度の人数が参加すれば、入学定員の7割程度の入学者をオープンキャンパス参加者から想定することができる。
(入学率 d/b)	35. 6%	36. 2%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 藍野大学の大学案内の配付（郵送）

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	7020人	9259人	①取組概要 本学ホームページおよび進学情報サイトより資料請求があった方へ、自宅宛てに大学案内・入試ガイド等の資料を送付している。
うち受験対象者数(b)	2146人	2852人	
うち受験者数(c)	157人	225人	
うち入学者数(d)	64人	123人	
(受験率 c/b)	7. 3%	7. 9%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ここ2年の平均程度で換算して、受験対象者2500人とし、入学率を3. 5%とすると、87人の入学者が見込まれ、入学定員の3割程度が想定される。
(入学率 d/b)	3. 0%	4. 3%	

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	ササキ エウン 佐々木 恵雲 ＜令和4年4月＞		博士（医学）		藍野大学 学長 (令和4.4～令和8.3)

[illegible]

教 員 の 氏 名 等																					
(医療保健学部 健康科学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位	当 数	年 開	講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし て の 勤 務 状 況
			教授会													教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
5	基（主専）	教授	クリハラ ヒデタケ 栗原 秀剛 ＜令和7年4月＞		医学博士		解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 健康科学実習Ⅰ 健康科学実習Ⅱ 健康科学実習Ⅲ 健康科学実習Ⅳ 健康科学研究法Ⅱ 健康科学課題研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 1 1 2 2 3 3 4	前 後 後 前 後 前 後 通	2 2 2 2 4 4 2 4		1 1 1 1 1 1 1 1	藍野大学 副学長 (令5.4)	○		○	学科運営会議	5	日	
6	基（主専）	教授	ゴトウ マサヒロ 後藤 昌弘 ＜令和7年4月＞		博士 (スポーツ健康 学)		健康科学 国際医療研修 体力測定論Ⅰ 運動処方論Ⅰ パーソナルトレーナー実習※ 心身健康科学概論 健康科学実習Ⅰ 健康科学実習Ⅱ 健康科学実習Ⅲ 健康科学実習Ⅳ 運動指導実践 健康科学研究法Ⅱ 健康科学課題研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 1 1 1 3 1 1 2 2 2 3 3 4	前 前 前 前 前 前 後 後 前 後 後 通	0.4 1 2 2 0.1 2 2 4 4 4 2 4		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	藍野大学 副学長 (令6.4)	○		○	学科運営会議	5	日	
7	基（主専）	助教	タケモト ケイスケ 竹本 圭佑 ＜令和7年4月＞		修士 (社会心理学)		統計学Ⅱ 数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 学びの基盤※ 統計学Ⅰ 社会調査法 社会健康データ解析演習 シン・メディカルⅠ シン・メディカルⅡ 健康科学実習Ⅰ 健康科学実習Ⅱ 健康科学実習Ⅲ 健康科学実習Ⅳ 健康科学研究法Ⅱ 健康科学課題研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 1 1 1 1 2 2 3 1 2 2 2 3 3 4	後 前 後 前 前 後 後 前 後 後 前 後 後 通	1 1 1 0.3 1 2 2 0.5 0.5 2 2 4 4 2 4		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令2.4)			○	学科運営会議	5	日	
8	基（主専）	助教	チカモリ サトシ 近森 聡 ＜令和7年4月＞		修士 (臨床教育学)		心理学 医療心理学 臨床心理学 教育心理学※ 心理アセスメント 教育相談 健康科学実習Ⅰ 健康科学実習Ⅱ 健康科学実習Ⅲ 健康科学実習Ⅳ 健康科学研究法Ⅱ 健康科学課題研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 1 1 1 2 2 1 2 2 2 3 3 4	前 前 後 後 前 後 後 前 後 前 後 後 通	1 1 1 0.9 2 2 2 2 4 4 4 2 4		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令5.4)			○	学科運営会議	5	日	
9	その他	教授	アンドウ スグル 安藤 卓 ＜令和7年4月＞		博士 (保健学)		救命救急学※ シン・メディカルⅠ	○ ○	1 1	後 前	1 0.5		1 1	藍野大学 医療保健学部 准教授 (平29.4)							
10	その他	教授	イガラシ アキラ 五十嵐 朗 ＜令和7年4月＞		博士 (工学)		数理・データサイエンス・AI入門※		1	後	0.5		1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平22.4)							
11	その他	教授	カワノ ユリ 河野 由理 ＜令和7年4月＞		博士 (保健学)		教育心理学※		1	後	1.1		1	藍野大学 医療保健学部 教授 (令2.1)							

教 員 の 氏 名 等																			
(医療保健学部 健康科学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 間 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし て の 勤 務 状 況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
12	その他	教授	サイトウ ヨシノ 齋藤 祥乃 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		ホースセラピー		2	前	1	1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平26.4)						
13	その他	教授	サカイ ヒロシ 酒井 浩 ＜令和7年4月＞		博士 (感覚矯正学)		リハビリテーション医学※ 心身健康科学概論	○ ○	1 1	後 前	0.8 2	1 1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平27.9)						
14	その他	教授	ササキ エウン 佐々木 惠雲 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		健康科学		1	前	0.3	1	藍野大学 学長 (令4.4)						
15	その他	教授	タウラ アキコ 田浦 晶子 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		医学概論 臨床医学概論	○ ○	1 2	前 前	1 2	1 1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平30.4)						
16	その他	教授	ツダ ハヤト 津田 勇人 ＜令和7年4月＞		博士 (人間科学)		基礎運動学 基礎運動学実習 バイオメカニクス シン・メディカルⅠ	○ ○	2 2 2 1	前 後 前 前	2 1 1 0.5	1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平27.4)						
17	その他	教授	ナカダ ユウジ 中田 裕二 ＜令和7年4月＞		博士 (学術)		環境と生活 発酵学入門		2 3	後 前	1 1	1 1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平16.4)						
18	その他	教授	ヒラヤマ トモコ 平山 朋子 ＜令和7年4月＞		博士 (教育学)		生活習慣病と身体活動	○	2	前	2	1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平16.4)						
19	その他	教授	ホンダ ヨウコ 本多 容子 ＜令和7年4月＞		博士 (看護学)		健康科学		1	前	0.4	1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平24.4)						
20	その他	教授	ヤマシナ ヨシヒロ 山科 吉弘 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		シン・メディカルⅡ	○	2	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平22.4)						
21	その他	教授	ヤマダ ヨシヒロ 山田 義博 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		再生医療入門※		2	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平22.4)						
22	その他	教授	ヨシダ (オオハラ) タカシ 吉田 (大原) 卓司 ＜令和7年4月＞		法学修士		法学 シン・メディカルⅠ 教育原論 教育社会学	○	1 1 1 1	前 前 前 後	2 0.5 2 2	1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 特任教授 (平23.4)						
23	その他	教授	ワカミヤ エイジ 若宮 英司 ＜令和7年4月＞		医学博士		小児科学		2	後	1	1	藍野大学 医療保健学部 特任教授 (平16.4)						
24	その他	准教授	アオヤマ ヒロキ 青山 宏樹 ＜令和7年4月＞		修士 (人間科学)		国際医療研修		1	前	1	1	藍野大学 医療保健学部 准教授 (平21.4)						
25	その他	准教授	イワムラ マサキ 岩村 真樹 ＜令和7年4月＞		博士 (社会福祉学)		シン・メディカルⅡ 運動生理学※	○ ○	2 2	後 前	0.5 0.1	1 1	藍野大学 医療保健学部 准教授 (平23.4)						
26	その他	准教授	キクチ ヒトミ 菊池 瞳 ＜令和7年4月＞		博士 (応用情報学)		シン・メディカルⅠ	○	1	前	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 准教授 (平22.4)						

教 員 の 氏 名 等																					
(医療保健学部 健康科学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位	当 数	年 開	講 間 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし ての勤務状況
			教授会													教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
27	その他	准教授	クマダ ヒトシ 熊田 仁 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		シン・メディカルⅠ パーソナルトレーナー実習※	○ ○	1 3	前 前	0.5 0.2		1 1		藍野大学 医療保健学部 准教授 (平20.4)						
28	その他	准教授	ニッタ ヨシノリ 新田 佳伯 ＜令和7年4月＞		博士 (工学)		ホースセラピー シン・メディカルⅡ	○	2 2	前 後	1 0.5		1 1		藍野大学 医療保健学部 准教授 (平22.4)						
29	その他	准教授	ビトウ サチコ 尾藤 祥子 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		ボランティア論 リハビリテーション医学※ 保育学入門※	○	1 1 2	前 後 後	1 0.2 1.3		1 1 1		藍野大学 医療保健学部 准教授 (平19.4)						
30	その他	准教授	ホソカワ アヤ 細川 彩 ＜令和7年4月＞		博士 (教育学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ 学びの基盤※	○	1 1 2 2 1	前 後 前 後 前	1 1 1 1 0.3		1 1 1 1 1		藍野大学 医療保健学部 准教授 (平31.4)						
31	その他	講師	アシカガ マナブ 足利 学 ＜令和7年4月＞		修士 (社会学)		コミュニケーション論		1	後	1		1		藍野大学短期大学部 学長 (令4.4)						
32	その他	講師	アジムラ コウスケ 味村 考祐 ＜令和7年4月＞		博士 (哲学)		哲学入門 論理学入門		1 1	前 後	1 1		1 1		大谷大学 文学部 助教 (令3.4)						
33	その他	講師	イチセ ウタコ 市瀬 詩子 ＜令和7年4月＞		専門士		統合医療論		2	後	1		1		OKUNO SHI (平30.4)						
34	その他	講師	イノウエ カズヤ 井上 和哉 ＜令和7年4月＞		博士 (人間科学)		スポーツ心理学		3	後	2		1		立命館大学大学院 人間科学研究科 助教 (令5.4)						
35	その他	講師	イワイ タケシ 岩井 雄史 ＜令和7年4月＞		修士 (体育学)		レジスタンストレーニング論Ⅰ レジスタンストレーニング論Ⅱ		2 2	前 後	2 2		1 1		東京大学 特任研究員 (令1.10)						
36	その他	講師	ウチダ ゲンタ 内田 弦大 ＜令和7年4月＞		学士 (学術)		種目別スポーツ特論		1	前	1		1		公益財団法人滋賀県スポーツ協会 特別指導員 (令3.4)						
37	その他	講師	ウラタ ユウ 浦田 悠 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		死生学入門 ヘルスコミュニケーション		2 1	後 前	1 1		1 1		大阪大学 全学教育推進機構教育学 習支援部 准教授 (令5.8)						
38	その他	講師	エイトク ミサキ 栄徳 美沙季 ＜令和7年4月＞		専門士		障がい者スポーツ特論※		1	通	0.7		1		藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (平30.4)						
39	その他	講師	オオモリ モトノリ 大森 基載 ＜令和7年4月＞		学士 (経済学)		体育実習		1	前	1		1		六アイ鍼灸整骨院 (平16.4)						
40	その他	講師	オオヤブ ノリコ 大藪範子 ＜令和7年4月＞		学士 (文化学)		マーケティング論		3	前	2		1		株式会社ワコール通信販売事業部 オウンドEC営業部 デジタル戦略ア ドバイザー (令1.10)						
41	その他	講師	オクノ シュウ 奥野 衆英 ＜令和7年4月＞		学士 (地理)		身体言語学		1	後	1		1		OKUNO SHI 代表 (平30.4)						

教 員 の 氏 名 等																			
(医療保健学部 健康科学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし ての勤務状況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
42	その他	講師	カジモト ヒロユキ 梶本 浩之 ＜令和7年4月＞		修士 (心理学)		シン・メディカルⅠ 体力測定論Ⅱ 運動処方論Ⅱ パーソナルトレーナー実習※ 接患・接遇法	○ ○	1 1 1 3 2	前 後 後 前 前	0.5 2 2 0.8 1	1 1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平20.3)						
43	その他	講師	カネコ ハルカ 金子 晴香 ＜令和7年4月＞		医学博士		整形外科科学Ⅰ 整形外科科学Ⅱ		2 2	前 後	1 1	1 1	順天堂大学 医学部 准教授 (平24.4)						
44	その他	講師	カヌカワ トモヤ 粥川 朋哉 ＜令和7年4月＞		医学博士		精神医学		2	前	1	1	大阪市立総合医療センター 精神神 経科 医長 (平21.4)						
45	その他	講師	カン ナオト 簡 直人 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		物理学基礎Ⅰ 物理学基礎Ⅱ		1 1	前 後	1 1	1 1	大阪大学 特任研究員 (令4.10)						
46	その他	講師	コンドウ ヒロシ 近藤 祥司 ＜令和7年4月＞		医学博士		老年医学		2	後	1	1	京都大学医学部附属病院 地域ネッ トワーク医療部 准教授 (平29.1)						
47	その他	講師	サカネ サダキ 坂根 貞樹 ＜令和7年4月＞		医学博士		内科学Ⅰ 内科学Ⅱ		2 2	前 後	1 1	1 1	摂南大学 農学部 特任教授 (令2.4)						
48	その他	講師	サノ サヤカ 佐野 さやか ＜令和7年4月＞		博士 (心理学)		発達臨床心理学 障がい者・障がい児心理学		2 3	後 前	2 2	1 1	立命館大学 総合心理学部 助教 (令5.4)						
49	その他	講師	シライ マサコ 白井 雅子 ＜令和7年4月＞		修士 (学術)		接患・接遇法 シン・メディカルⅡ 健康科学と認知症演習	○	2 2 3	前 後 前	1 0.5 1	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平19.3)						
50	その他	講師	スギタ ミキ 杉田 未来 ＜令和7年4月＞		学士 (畜産)		ホースセラピー		2	前	1	1	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (平29.4)						
51	その他	講師	スギモト アキフミ 杉本 明文 ＜令和7年4月＞		修士 (心理学)		接患・接遇法		2	前	1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平16.4)						
52	その他	講師	スギモト ナナミ 杉本 七海 ＜令和7年4月＞		修士 (健康学)		コンディショニングトレーニング論Ⅰ コンディショニングトレーニング論Ⅱ		3 3	前 後	2 2	1 1	一般社団法人RuFL 代表理事 (令4.12)						
53	その他	講師	スギヤマ ヨシキ 杉山 芳生 ＜令和7年4月＞		博士 (教育学)		学びの基盤※	○	1	前	2	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (令4.4)						
54	その他	講師	ソンダ サンジャヤ ソンダ サンジャヤ ＜令和7年4月＞		修士 (日本語教育 学)		複言語・複文化へのいざないC		1	前	4	2	エンハンス・ランゲージ・センター (平31.12)						
55	その他	講師	タカハタ シュウヘイ 高畑 脩平 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育特論 保育学入門※		4 2	後 後	1 1.3	1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (令2.4)						
56	その他	講師	タカミチ ユウコ 高道 由子 ＜令和7年4月＞		博士 (グローバル地 域研究)		フィールドワーク入門		1	後	1	1	京都大学・大学院アジア・アフリカ 地域研究科 特定助教 (令4.4)						

教 員 の 氏 名 等																			
(医療保健学部 健康科学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし て の 勤 務 状 況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
57	その他	講師	タガワ チヒロ 田川 千尋 ＜令和7年4月＞		学士 (仏文学)		複言語・複文化へのいざないA		1	前	1	1	滋賀大学 教育学部 特任准教授 (令6.4)						
58	その他	講師	タナカ イッコウ 田中 一考 ＜令和7年4月＞		文学 (博士)		医療倫理学概論		2	前	1	1	桜美林大学 リベラルアーツ学群 准教授 (平28.4)						
59	その他	講師	タナカ コウイチロウ 田中 弘一郎 ＜令和7年4月＞		博士 (生物化学)		化学基礎		1	前	1	1	びわこリハビリテーション専門職大 学 リハビリテーション学部 教授 (令2.4)						
60	その他	講師	タナカ タカヒロ 田中 貴広 ＜令和7年4月＞		修士 (保健学)		スポーツ外傷・障害論	○	2	前	2	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (令5.9)						
61	その他	講師	タナカ トシフミ 田中 俊典 ＜令和7年4月＞		医学博士		神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ		2 2	前 後	1 1	1 1	藍野大学短期大学部 教授 (平29.4)						
62	その他	講師	タニ キヨシ 谷 清 ＜令和7年4月＞		学士 (経営学)		スポーツ経営学		4	前	1	1	ミズノ株式会社 人事総務部 参事 (昭58.3)						
63	その他	講師	タニグチ アイシャ 谷口 愛沙 ＜令和7年4月＞		博士 (文学)		人間学 宗教学入門		2 1	後 前	1 1	1 1	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (令6.4)						
64	その他	講師	ツカゴシ チヒロ 塚越 千尋 ＜令和7年4月＞		博士 (人間健康科学)		国際医療研修 接患・接遇法 シン・メディカルⅠ 住環境コーディネーター論	○	1 2 1 3	前 前 前 後	1 1 0.5 2	1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平28.4)						
65	その他	講師	トヨダ ヒロアキ 豊田 裕章 ＜令和7年4月＞		博士 (文学)		近畿の歴史と文化		1	後	1	1	大阪大学文学研究科 招聘研究員 (令4.4)						
66	その他	講師	ナカイ ヒデアキ 中井 秀昭 ＜令和7年4月＞		修士 (都市政策)		スポーツレクリエーション論		3	後	2	1	京都橘大学 助教 (令5.4)						
67	その他	講師	ナカオオジ マコト 中大路 誠 ＜令和7年4月＞		修士 (心理学)		社会心理学		2	前	2	1	なし なし						
68	その他	講師	ナカタニ カズト 中谷 和人 ＜令和7年4月＞		修士 (文科人類学)		文化人類学		1	前	1	1	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (平28.4)						
69	その他	講師	ナカノ アキコ 中野 明子 ＜令和7年4月＞		修士 (心理学)		メンタルヘルス論		3	後	2	1	医療法人恒昭会 藍野病院 臨床心 理科 主任 (平15.4)						
70	その他	講師	ナカノ ノリヒコ 中野 法彦 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		再生医療入門※		2	後	0.3	1	びわこリハビリテーション専門職大 学 リハビリテーション学部 教授 (令2.4)						
71	その他	講師	ナニカワ ワタル 何川 渉 ＜令和7年4月＞		学士 (経済学)		ホースセラピー パーソナルトレーナー論 パーソナルトレーナー実習※	○ ○	2 2 3	前 後 前	1 2 0.8	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平26.4)						

教 員 の 氏 名 等																			
(医療保健学部 健康科学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし て の 勤 務 状 況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
72	その他	講師	ハタナカ ユカ 畑中 由佳 ＜令和7年4月＞		修士 (医学)		シン・メディカルⅡ	○	2	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平23.5)						
73	その他	講師	ハヤシ タクト 林 拓世 ＜令和7年4月＞		博士 (応用情報科学)		数理・データサイエンス・AI入門※		1	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平22.4)						
74	その他	講師	ヒラタ ダイチ 平田 大智 ＜令和7年4月＞		修士 (心理学)		コーチング論		3	後	2	1	なし なし						
75	その他	講師	ファム、フィ、ハイ、イエン ファム、フィ、ハイ、イエン ＜令和7年4月＞		修士 (言語社会学)		複言語・複文化へのいざないC		1	前	4	2	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (令6.4)						
76	その他	講師	ホリ トモコ 堀 智子 ＜令和7年4月＞		修士 (学校教育学)		シン・メディカルⅡ	○	2	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平28.4)						
77	その他	講師	マシモ イズミ 真下 いずみ ＜令和7年4月＞		博士 (保健学)		就労支援論		4	後	1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (令2.4)						
78	その他	講師	マツムラ キヨシ 松村 潔 ＜令和7年4月＞		医学博士		機能神経解剖学		2	後	2	1	大阪工業大学 工学部 特任教授 (平23.4)						
79	その他	講師	マツモト アキコ 松本 晃子 ＜令和7年4月＞		修士 (看護学)		国際医療研修 シン・メディカルⅠ	○	1 1	前 前	1 0.5	1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平29.9)						
80	その他	講師	マルオカ ケイコ 丸岡 桂子 ＜令和7年4月＞		修士 (法学)		国際比較福祉論 社会福祉論		2 1	後 後	1 1	1 1	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (令2.4)						
81	その他	講師	ミエ センイチ 三重 遷一 ＜令和7年4月＞		修士 (経済学)		経済学入門		1	前	1	1	立命館大学 産業社会学部 兼任講師 (令5.4)						
82	その他	講師	ミヤモト チミ 宮本 陳敏 ＜令和7年4月＞		博士 (保健医療学)		ホースセラピー シン・メディカルⅡ	○	2 2	前 後	1 0.5	1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平28.4)						
83	その他	講師	ムラカミ コウイチ 村上 晃一 ＜令和7年4月＞		学士 (体育学)		スポーツマネジメント論		3	前	2	1	有限会社オフィス・フルバック 代表取締役 (平10.7)						
84	その他	講師	ムラセ トモカズ 村瀬 智一 ＜令和7年4月＞		博士 (鍼灸学)		情報科学Ⅱ 情報科学Ⅰ		1 1	後 前	1 2	1 1	明治国際医療大学 医学教育研究センター 助教 (平31.4)						
85	その他	講師	ヤマト ヨウスケ 大和 洋輔 ＜令和7年4月＞		博士 (スポーツ健康 科学)		シン・メディカルⅡ 運動生理学※ 健康増進論	○ ○ ○	2 2 3	後 前 後	0.5 0.9 1	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平24.4)						
86	その他	講師	ヨシオカ アヤコ 吉岡 綾子 ＜令和7年4月＞		修士 (共生人間学)		情報科学Ⅱ 生物学入門 情報科学Ⅰ		1 1 1	後 後 前	1 1 2	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (平24.4)						

教 員 の 氏 名 等																			
(医療保健学部 健康科学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従 事する 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学等に 置かれる学部等を含 む）での基幹教員とし て の 勤 務 状 況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
87	その他	講師	リ ウンスク 李 銀淑 ＜令和7年4月＞		博士 (言語文化)		複言語・複文化へのいざないC		1	前	4	2	藍野大学 医療保健学部 非常勤講師 (平30.4)						
88	その他	講師	ワシミ ミツヒロ 鷲見 光博 ＜令和7年4月＞		学士 (社会学)		簿記入門		3	前	1	1	学校法人藍野大学 常務理事 (令2.4)						
89	その他	助教	キクチ ユイ 菊池 唯 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		公衆衛生学 接患・接遇法 シン・メディカルⅡ	○ ○	1 2	後 前 後	1 1 0.5	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令3.4)						
90	その他	助教	クマベ ショウ 熊部 翔 ＜令和7年4月＞		学士 (理学療法学)		シン・メディカルⅡ スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	○ ○	2 3	後 前	0.5 2	1 1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令2.4)						
91	その他	助教	サカガミ ナミ 阪上 奈巳 ＜令和7年4月＞		学士 (理学療法学)		障がい者スポーツ特論※		1	通	0.8	1	藍野大学 医療保健学部 助教 (平24.4)						
92	その他	助教	タカハシ エリ 高橋 えり ＜令和7年4月＞		修士 (情報学)		シン・メディカルⅡ	○	2	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令6.4)						
93	その他	助教	フクヤマ ユミ 福山 友見 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		スポーツ生理学 救命救急学 シン・メディカルⅠ	○ ○	2 1 1	後 後 前	1 1 0.5	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令2.3)						
94	その他	助教	ホリカワ ナオコ 堀川 尚子 ＜令和7年4月＞		修士 (看護学)		シン・メディカルⅠ	○	1	前	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令5.4)						
95	その他	助教	ヤマモト ユウスケ 山本 祐輔 ＜令和7年4月＞		博士 (応用情報科学)		シン・メディカルⅠ	○	1	前	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令5.4)						
96	その他	助教	ヨシカワ ミワコ 吉川 美和子 ＜令和7年4月＞		修士 (社会福祉学)		シン・メディカルⅡ	○	2	後	0.5	1	藍野大学 医療保健学部 助教 (令5.4)						

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1 人	1 人	人	2 人	1 人	5 人	
	修 士	人	人	人	人	人	1 人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	1 人	人	人	人	1 人	人	2 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1 人	1 人	人	2 人	1 人	5 人	
	修 士	人	1 人	人	人	人	2 人	人	3 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	